

長野県における10代の性に関する意識と行動

(平成 18・19 年度長野県看護大学特別研究)

研究成果報告書

2008 年 3 月

研究代表者 清水 嘉子

長野県看護大学 母性看護学講座教授

長野県における10代の性に関する意識と行動

(平成 18・19 年度長野県看護大学特別研究)

研究成果報告書

2008 年 3 月

研究代表者 清水 嘉子

長野県看護大学 母性看護学講座教授

研究者一覧

研究代表者	長野県看護大学	母性看護学講座	教授	清水嘉子 (18, 19 年度)
研究分担者	長野県看護大学	母性看護学講座	准教授	藤原聡子 (18, 19 年度)
	長野県看護大学	母性看護学講座	助教	松原美和 (18, 19 年度)
	長野県看護大学	母性看護学講座	助教	宮澤美知留 (18, 19 年度)
	長野県看護大学	母性看護学講座	助手	福澤照代 (18, 19 年度)
	長野県看護大学	母性看護学講座	助手	赤羽洋子 (18 年度)
	長野県看護大学	母性看護学講座	助手	塩澤綾乃 (18 年度)
	長野県看護大学	母性看護学講座	助手	松浦志保 (18 年度)
	長野県看護大学	母性看護学講座	助手	林 陽子 (19 年度)
	長野県看護大学	小児看護学講座	教授	内田雅代 (19 年度)

研究協力者

長野県衛生部部長	渡辺庸子 (18 年度)
長野県衛生部健康づくりチーム主任保健師	松本清美 (18 年度)

長野県看護大学 特別研究費 内訳

18年度	賃金	75,000	19年度	賃金	74,000
	報償費	80,000		報償費	0
	旅費	9,000		旅費	18,000
	需用費	100,000		需用費	276,000
	役務費	5,000		役務費	46,000
	使用料	125,000		使用料	9,000
	計	<u>394,000</u>		計	<u>423,000</u>
				総計	<u>817,000</u>

研究成果報告

18年度長野県看護大学研究集会 ポスター発表

19年度長野県看護大学研究集会 口述発表

清水嘉子, 藤原聡子, 李和貞: 思春期世代における生命尊重および学生の性交渉

に対する意識と自己肯定感との関連性, 思春期学会誌, 26(2), 2008.

Yoshiko Shimizu Miwa Matsubara Michiru Miyazawa et al: Sexual awareness among sexually experienced Japanese adolescents: examination by gender, age at first sexual intercourse, and demographic area of residence, ICM, 2009. 6, Glasgow.

目次

I	はじめに	1ページ
II	研究目的	1ページ
III	研究方法	1ページ
	1 研究対象	
	2 調査方法	
	3 データ収集の手順	
	4 調査内容	
	5 分析方法	
	6 倫理的配慮	
IV	結果	3ページ
	1 調査用紙の回収率	3ページ
	2 対象者の属性	3ページ
	3 性意識と性行動の性差による特徴	4ページ
	1) 同性・異性の友人	
	2) 性の関心や悩み・性の影響	
	3) 性教育の実態と性教育のニーズ	
	4) 性交渉・胎児・人工妊娠中絶・性感染症・避妊に対する意識	
	5) 性体験と初体験年齢・初体験時の避妊	
	4 性体験と性差による性意識の特徴	26ページ
	1) 性体験と友人や性の影響	
	2) 性体験と性教育の経験・性教育のニーズ	
	3) 性体験と性交渉・胎児・人工妊娠中絶・性感染症・避妊に 対する意識	
	5 世代・地区・在住人口・大学進学率からみた 性差による性意識の特徴	37ページ
	1) 友人や性の影響・性体験と初体験年齢	
	2) 性交渉・胎児・人工妊娠中絶・性感染症・避妊に対する意識	
	6 性意識（生命尊重の意識、性交渉の意識）と自己肯定意識	49ページ

- 1) 生命尊重および学生の性交渉に対する意識
- 2) 自己肯定意識
- 3) 生命尊重感および性交渉制御感と自己肯定意識の関連

V	考察	54ページ
1	性意識と行動の実態と影響要因	54ページ
	1) 性差による特徴	
	2) 性体験者の特徴	
	3) 世代・地域性や学校の特性による特徴	
2	性意識と自己肯定意識	57ページ
3	性教育活動への示唆	59ページ
VI	結論	61ページ
VII	おわりに	62ページ
VIII	文献	62ページ

資料

調査用紙
配布先一覧
依頼文

平成19年度長野県看護大学研究集会抄録要旨 パワーポイント資料
ICM, 2009. 6, Glasgow 英文抄録 ポスター資料

I はじめに

平成 13 年度から進められているわが国の母子保健に関する国民運動計画である「健やか親子21」では、思春期保健対策の強化と健康教育の推進が盛り込まれ、その具体目標として 10 代の人工妊娠中絶と、性感染症の減少が課題となっている。

特に 10 代の人工妊娠中絶は 16 歳以降急激に増加していることから、早い段階からの性教育の必要性が叫ばれている。また、10 代で人工妊娠中絶を受けた 626 人を対象にした調査結果（幡, 2006）から、産みたかったとする女性は 38.42% を占めており、10 代で出産育児をするための社会政策を整えることも課題であるとされている。

こうした現況にあって、長野県下の「健やか親子21」の中間評価を迎え、中長期的な思春期の性に対する施策の評価と課題を明確にすることが求められている。5 年後の 2010 年には最終評価に向けた指針が必要になっている。しかし、長野県下の 10 代の性に関する意識と行動の実態は十分に明らかにされているとは言えない。また、北信地域や中信地域を中心としたピアカウンセラーの養成と、その後のカウンセラーの活動が定着しつつある中で、今後さらに、各学校などにおける性教育活動に資するために、性の意識と行動に対する実態を明らかにするという基礎的な研究課題をもち、本研究に取り組んだ。

II 研究目的

- 1 性差による 10 代の性に関する意識の実態を明らかにし、地区や世代、在住人口、大学進学率、性体験、初体験年齢による検討をする。
- 2 性に対する意識が性教育やピアカウンセラーの活動によってもたらされる影響について検討する。
- 3 長野県に在住する 10 代の性の意識と全国規模の同世代の性の意識との比較を行う。
- 4 青年期における自己肯定意識と性意識（生命尊重感、性交渉制御感）との関連性について検討する。

III 研究方法

1 研究対象；

長野県下より抽出された 10 代の男女 3819 名（高校 21 校＜2 年生＞、大学・短大 5 校＜1 年生＞）のうち、実際に調査票を本人に届けることができた者。

2 調査方法；

研究者が直接依頼し、大学、高等学校については、学校長を通じ調査の了解を得た後、留め置き法（学校配布、後日回収）による調査を行う（調査用紙は別紙による）。いずれも無記名自記式回答とする。

3 データ収集の手順；

研究者が直接学校長に研究の主旨、目的、方法についてを説明し、承諾を得る。承諾の得られた学校に調査用紙を必要部数郵送する。保護者および対象者には、調査の主旨を説明する文書にて協力の依頼をし、調査用紙の回収をもって了解が得られたものと判断する。学生への調査用紙の配布および回収方法は各学校に委ねた。

調査用紙に記入した後は用紙を封筒に入れ密封して回収した。回収された調査用紙は、学校ごとに着払い便にて長野県看護大学へ返送を依頼した。

4 調査内容；

次にあげた1)、2)の先行調査を参考にして、質問紙調査表を作成した(Q 1-24)。

- 1) 平成16年度厚生労働科学研究費補助金「望まない妊娠、人工妊娠中絶を防止するための効果的な避妊教育プログラムの開発に関する研究」の一環である「第2回男女の生活と意識に関する調査報告書」2005年、「東京都幼・小・中・高・心障学級・養護学校の性意識・性行動に関する調査」2005年、および「第6回青少年の性行動全国調査報告」2007年、NHK日本人の性行動・性意識2002年
- 2) 平成15年度厚生労働科学研究費補助金「学校保健との連携による健康教育の研究」の一環として平成16年に実施された、長野県佐久地域における「中学生の性に関する意識と行動」

主たる質問項目は、対象者の属性として、年齢、地域特性、両親の有無と職業、兄弟姉妹の有無、同性・異性の友人、性に対する考え方や行動の影響、性に対する意識（性交渉、胎児、中絶に対する考え、性に関する教育内容の希望や時期、性感染症や避妊に対する認識、自己肯定感尺度項目、ピアカウンセラー養成や性教育に対する経験、性体験の有無や初体験時の避妊など）

5 分析方法；

世代、地域（在住地区、および在住人口規模別）、大学進学率、関連要因（性差、性体験）自己肯定意識との分析するため、SPSS統計ソフト ver14 を用いて統計学的な処理（ χ^2 検定、相関分析、分散分析、因子分析、重回帰分析）を行なった。自由記述については内容を検討し分類した。

6 倫理的配慮；

本研究は平成17年度長野県看護大学倫理委員会の承認（審査番号#14）を得ている。

- 1) 研究対象者への身体的、心理的、社会的なリスク

質問紙に答えるための時間的な制約が生じる。質問紙調査はプライバシーの保護と匿名性の確保に留意する。また、研究への協力は自由参加とする。

2) 研究によって得られる利益とその利益を受ける人

質問紙調査により、自らの性についての考え方を振り返る機会となる。

3) 研究実施に際し研究対象者から許可を得るためのインフォームドコンセント

(1) 保護者に対する研究の主旨を説明する文書を配布し理解を仰ぐ。

(2) 研究対象者に対して、文書にて研究の主旨、目的、方法の説明を行い承諾を得る。

(3) 研究参加への同意は、個人の意思によるもので決して強要されないことを保証する。

(4) 一度同意しても、研究途中で中止を申し出ることが可能なことを保証する。

(5) プライバシーの保護、研究不参加による不利益が生じないことを保証する。

(6) 質問紙の回答は、本人が回答したいことのみに回答しても良いという対象者の権利を保証する。

(7) 質問紙については、研究終了時には破棄する。

(8) 研究に関する疑問・質問にはいつでも回答する。

(9) 研究結果を論文として公表するが、個人名が特定されないようにする。

IV 結果

1 調査用紙の回収率

長野県下 20 高等学校および 2 短期大学、3 大学に合計 3819 部配布し、2859 部の回収が得られた。そのうちの有効回収部数は 2779 部、有効回収率は 72.8% であった。

2 対象者の属性

対象者の年齢平均は 17.1 ± 1.2 歳 (最小 16, 最大 20)、性別では男性 1276 人 (46%)、女性 1503 人 (54%) であった。兄弟姉妹のいる者 2667 人 (95%)、一人っ子 171 人 (4%) であった。出身学校の県下地区別割合では、北信地区 1088 人 (39%)、東信地区 138 人 (5%)、中信地区 905 人 (32%)、南信地区 648 人

(23%)であった。在住人口別では、人口10万人以上の市1168人(44%)、人口10万人未満3万人以上の市775人(29%)、3万人未満の町村683人(26%)であった(表1-1. 2. 3)。

表1-1 対象者の属性

属性	人数	人数	%
年齢	16	744	26
	17	1525	54
	18	191	7
	19	319	11
	平均値	17.1±1.2	
性別	男	1276	46
	女	1503	54
有父無の	有	2211	92
	無	204	8
職業の	勤め人	2053	93
	自営業(農業含む)	158	7
有母無の	有	2723	98
	無	54	2
母の職業	勤め人	2056	75
	自営業(農業含む)	207	8
	専業主婦	460	17
兄弟姉妹の有無	兄	940	25
	弟	918	23
	姉	919	24
	妹	924	24
	いない	171	4

n=2779(兄弟姉妹の有無は重複回答あり)

表1-2 対象者の地域特性

地域	人数	人数	%
村在規の住模人市口町	人口10万人以上の市	1168	44
	人口10万人以下の市	775	29
	人口3万人以下の町村	683	26
学校所在地区	北信	1088	39
	中信	905	32
	東信	138	5
	南信	648	23

n=2779

表1-3 対象者の友人の状況

項目	人数	人数	%
同性	学校でよく話をする	2108	39
	一緒に遊びに行く友人	1765	33
	何でも打ち明けて話せる友人	1512	28
異性	親友と呼べる友人	627	49
	恋人と呼べる友人	599	26
	いない または 無回答	1665	25

n=2779(重複回答あり)

3 性意識と性行動の性差による特徴

1) 同性・異性の友人

同性の友人では、交友関係が男子は女子と比して、学校でよく話しをする>一緒に遊びに行く>何でもうちあけて話すの順で友人の保有率が少なくなる。女子の場合も同様ではあるが、“一緒に遊びに行く”と“何でもうちあけて話す”の友人の保有率の差は、男子ほどには多くない(表2-1)。

異性の友人では、男子は女子に比して、「グループでつきあう」、「親友と呼べる」が多く、女子は男子に比して「恋人と呼べる」が明らかに多い。今回の結果から交友関係は女子が男子に比べて活発であるといえる(表2-2)(図1)。

表2-1 性差による同性の友人

n=2779(有効回答)

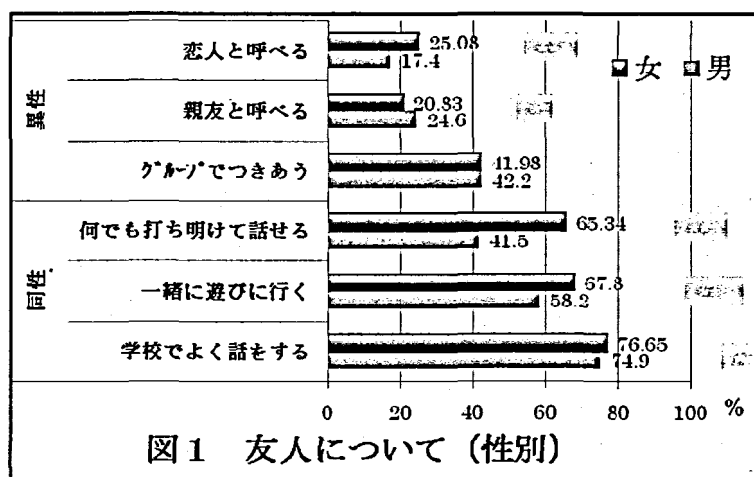
項目	性別	男	%	女	%	
学校でよく話をする	いる	956	74.9	1152	76.65	*
	いない	320	25	351	23.35	
一緒に遊びに行く	いる	743	58.2	1022	67.8	**
	いない	533	41.8	481	32.00	
何でも打ち明けて話せる	いる	530	41.5	982	65.34	**
	いない	746	58.4	521	34.66	

 χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

表2-2 性差による異性の友人

n=2779(有効回答)

項目	性別	男	%	女	%	
グループでつきあう	いる	539	42.2	631	41.98	ns
	いない	737	57.8	872	58.02	
親友と呼べる	いる	314	24.6	313	20.83	*
	いない	962	75.4	1190	79.17	
恋人と呼べる	いる	222	17.4	377	25.08	**
	いない	1054	82.6	1126	74.92	

 χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

2) 性の関心や悩み・性の影響

性的関心については、男子は女子に比し「関心がある」が有意に多く(表3-1)、性に対する不安や悩みでは、女子が男子に比して「不安がある」が有意に多かった(表3-2)(図2)。

表3-1 性差による性的な関心

n=2686(有効回答)

項目	性別	男	%	女	%	
ある		649	51.55	336	23.55	**
ない		87	6.91	214	15.00	
どちらともいえない		523	41.54	877	61.46	

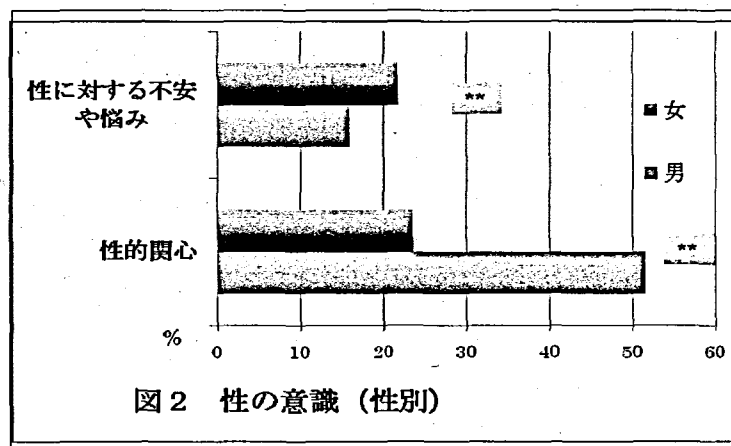
 χ^2 検定 **p<0.01

表3-2 性差による性に対する不安や悩み

n=2512

項目	性別	男	%	女	%
ある		185	15.99	294	21.70
ない		972	84.01	1061	78.30

**

 χ^2 検定** p < 0.01

性に対する不安や悩みの内容については、もっとも多い「性の知識」では、男女とも「性感染症」が多かった。

「自分のこと」では、男子は「妊娠への不安」、女子は「性行為への不安・恐怖」であった。

「異性・同性との付き合い方」では、男子は「異性とのコミュニケーション法」、女子は「異性との付き合い方」であった。

また、性の不安や悩みに関する学生の自由記述では、「性の知識」、「自分のこと」、「異性・同性との付き合い」、「その他」であった。「性の知識」では、男女とも「性感染症について」が最も多く、特に女子は男子の約2倍であった。

次いで男子では、「性行為のやり方・方法」、「性についての知識」、「避妊の具体的な方法」と「性行為についての具体的な内容」であった。これに対し、女子では「避妊や性行為について」であり、その他、「性行為が何のために行われているのか解らない」、「知らないことが多いこと」から、性行為の意味や性の知識自体が少ないことを悩んでいた。

併せて、学生は「自分」に対して最も不安や悩みを感じていた。「妊娠や性行為への不安」は男女ともに多かったが、男子の方が多い傾向であった。男子では他に、自分の体・体型の事、包茎、早漏、性行為の体への影響、パートナーとの性交渉についてといった具体的な内容の他、異性・同性にどう思われているか、異性と付き合ったことがない、友人と価値観が全く違っている、他人を信じられないといった自分自身の意識に関する悩みがあった。性交渉をしたいと考えている学生がいる一方で、なるべくそういうことはまだしたくないと思っていた。

女子では性行為を「怖い・不安」と感じている学生がいた。また、生理がない・不規則、妊娠しにくいのではないかと、処女であること、避妊してくれない、

人工妊娠中絶後のことなどの具体的な内容の他、パートナーとの性に対する考え方の違い、異性の気持ちが分からない、交友関係といった男子学生と同様に、自分自身の意識や人間関係に関する内容があった。自分の性について、同性愛者の傾向がある、自分の体は女だが心まで全て女ではないが男とも思っていないと悩んでいた。また、性に関して不安があっても産婦人科に行きにくいという意見があった。

「異性・同性とのつきあい」では、「自分のこと」とも類似しているが、男女ともにコミュニケーションや付き合い方に不安や悩みを感じていた。また、普段からの関わりの中で、周りが妙に色気づいている、会話がきわどくてびっくりする、男はみな野蛮、所詮男、などの異性・同性に対する様々な感情を抱いていた。「その他」では、漠然としている、何を悩んでいるのか分からないといった意見があり、性に関して不安や悩みを感じているが、それが何なのかまでは分からないと考えていた(表3-3)。

次に、性に影響を与えたものでは、男子では、友人>漫画コミックス>先輩>性教育>インターネット>その他の本であった。

女子は友人>性教育>漫画コミックス>新聞や雑誌の記事>先輩>テレビラジオであり、男子と女子では、漫画コミックスの内容が異なっていた(表3-4)。

性にもっとも強く影響したものでは、男子では、友人>性教育>インターネット、女子では、友人>性教育>漫画コミックスであり、もっとも強く影響したものは、男女別では先輩の順が異なっていた(表3-5)。

表3-3 性に関する不安や悩み

項目	性別	男	女
性の知識	性	性感染症について(16) 性行為のやり方(7) 性についての知識が少ない(4) 避妊の具体的な方法(2) 性行為の方法(2) セックスレス	性感染症について(38) 避妊について(6) 女性のマスターベーションについて 性行為が何のために行われているのか解らない 知らないことが多いこと
	自	妊娠への不安(30) 自分の体・体型の事(9) 性器の形(7) SEXがしたい(7) 妊娠への不安(6) 包茎(5) 早漏(4) インポテンツ(4) パートナーとの性交渉(4) マスターベーションが与える体への影響・やめたい(3) 童貞であること(3) 異性・同性にどう思われているか(3) 異性と付き合ったことがない・付き合っている人がいない(2) 性行為してもいいのか(2) 友人と価値観が全く違っている 性交渉を行っても射精できない 結婚に関しての事 なるべくそういうことはまだしたくない 他人を信じられない 実際の女性に対してムラムラしない	性行為をしたくない・怖い・不安(10) 生理がない・不規則(7) パートナーとの性に対する考え方の違い(5) 性行為を断り続けられないこと(4) 妊娠しにくいのではないかと(2) 処女であること(2) 避妊してくれない(2) 異性の気持ちが分からない(2) 交友関係(2) 性に関して不安があっても産婦人科に行きにくい 両性愛者の傾向がある事 自分の性別、体は女だが心まで全て女ではない、でも男とも思っていない 付き合っていない異性とある程度の性的関係があること どんな人とすればいいのか解らない 中絶の後のこと
異性・同性とのつきあい		異性とのコミュニケーション(11) 異性との付き合い方(7) 人を好きになるとはどういうことか(4) 周りが妙に色気づいていること	異性との付き合い方(4) 男は皆野蛮、所詮男 皆の会話がきわどくてびっくりする事がある
その他		漠然と(3) いろいろ(4)	もやっとしていて何を悩んでいるのか分からない

表3-4 性差による性に影響を与えたもの

n=2693 (有効回答)

項目	性別	男						女					
		影響した	%	影響しない	%	どちらともいえない	%	影響した	%	影響しない	%	どちらともいえない	%
親		100	8.09	900	72.82	236	19.09	200	13.91	939	65.30	299	20.79**
兄弟姉妹		106	8.61	938	76.20	187	15.19	188	13.16	1022	71.52	219	15.33**
友人		856	68.37	239	19.09	157	12.54	914	64.78	265	18.78	262	18.57**
先輩		565	45.68	477	38.56	195	15.76	381	26.67	793	55.53	254	17.79**
教師		189	15.34	786	63.8	257	20.86	193	13.54	954	66.95	278	19.51ns
新聞や雑誌の記事		436	35.22	573	46.28	229	18.50	570	39.78	570	39.78	293	20.45**
漫画コミックス		588	47.12	429	34.38	231	18.51	742	51.16	389	27.07	306	21.29**
その他の本		441	36.78	507	42.29	281	23.44	306	21.17	755	53.55	349	24.75**
性教育 (学校で行われた)		540	43.51	429	34.57	272	21.19	775	53.89	365	25.38	298	20.72**
テレビラジオ		355	28.72	645	52.22	236	19.10	364	25.62	730	51.37	327	23.01*
ビデオ		431	34.96	571	46.31	231	18.73	133	9.37	993	69.98	293	20.65**
インターネット		532	43.15	468	37.96	235	19.06	252	17.70	871	61.17	301	21.14**
その他		13	100.00	0	0.00	0	0.00	3	100.00	0	0.00	0	0.00

χ²検定 *p<0.05 **p<0.01

(欠損値は削除)

表3-5 性差による性にもっとも強く影響したもの

項目	性別	男	%	女	%	合計	%
友人		404	28.72	471	39.51	875	39.68
性教育 (学校で行われた)		142	14.02	238	19.97	380	17.23
漫画コミックス		84	8.29	185	15.52	269	12.20
インターネット		137	13.52	63	5.29	200	9.07
先輩		53	5.23	31	2.60	84	3.81
新聞や雑誌の記事		21	2.07	59	4.95	80	3.63
テレビラジオ		34	1.68	38	3.19	72	3.27
親		17	1.68	48	4.03	65	2.95
ビデオ		51	5.03	6	0.50	57	2.59
その他の本		37	3.65	19	1.59	56	2.54
兄弟姉妹		10	0.99	21	1.76	31	1.41
その他		14	1.38	6	0.50	20	0.91
教師		9	0.89	7	0.59	16	0.73
		1013		1192		2205	

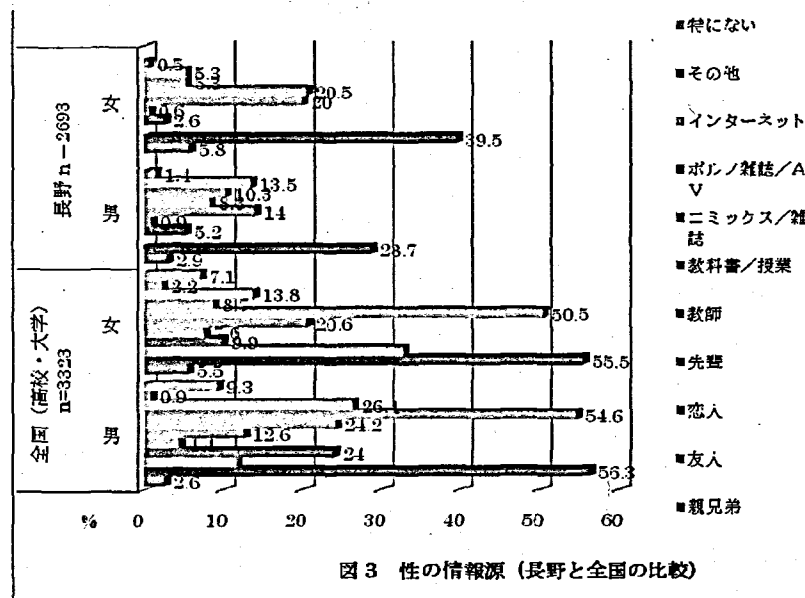


図3 性の情報源 (長野と全国の比較)

全国調査との比較では、長野は、ポルノ雑誌、AV (アダルトビデオ)、コミック雑誌などの影響が少なく、友人、教科書などの影響が大きいといえる (図3)。

性の考え方や行動に影響を与えたものの他の要因では、男子では親戚、

実物、女子では恋人が挙げられた。また、男女共通項目として携帯電話やゲームであった。少数意見として、DVD、ショッピング、聖書、時代の流れなどがあった（表3-6）。

表3-6 性の考え方や行動に影響を与えたもの-その他

項目	性別	男	女
人物		親戚 実物	恋人
その他		携帯電話(4) ゲーム(2) DVD ショッピング 聖書	携帯 ゲーム 時代の流れで

3) 性教育の実態と性教育のニーズ

性教育の経験では、性差にかかわらず9割強の全員に近い者が性教育を受けていた（表4-1）。性教育を受けた場所では、学校が多かった（表4-2）。

表4-1 性差による性教育の経験

n=2473

項目	性別	男	%	女	%	
ある		1248	97.88	1457	99.25	**
ない		27	2.12	11	0.75	

χ^2 検定 **p<0.01

表4-2 性差による性教育を受けた場所

n=1938

場所	性別	男	%	女	%	合計	%
学校		776	94.45	1036	92.09	1998.54	93.5
家庭		18	2.21	66	5.87	92.08	4.33
その他		19	2.34	23	2.04	46.38	2.17

性教育を受けた対象では、大人や同世代だった（表4-3）。その他に性教育を誰から受けたかについては、両親以外の家族として兄弟、姉であり（表4-4）、学校・家庭以外では先輩や外部講師、親戚や友人の母、また情報源としてテレビやインターネットなどのメディア、本などであった（表4-3）。

表4-3 性差による性教育を受けた対象

対象	性別	男	%	女	%	合計	%
大人		883	74.83	1097	71.89	2054.83	73.17
同世代		240	20.34	270	17.69	530.34	20.34
父		23	1.95	13	0.85	37.95	1.95
母		34	2.88	144	9.44	180.88	2.88
その他		0	0	2	0.13	2	0

「学校」での性教育の内容は、体や性に関する知識＞避妊の具体的な方法＞生命尊重や命に対する考え方であり（表4-5）、避妊の具体的な方法＞生命尊重や命に対する考え方の差異はわずかであった（表4-5）。その他、学校で受けた性教育の内容では、性感染症についてであった。女子では他に、異性の心、先生の性体験があった（表4-6）。

表4-4 性教育を誰から受けたか-その他

項目	性別	男	女
家庭の中の父母以外		兄弟	姉(4)
学校・家庭以外		バイトの先輩 外部から来た 産婦人科医 エホバの証人 ネット メディア	TV(3) 本(3) おじさん 兄の友人 友人の母 外部講師

表4-6 学校での性教育の内容-その他

男	女
性感染症について(8)	性感染症について(9) 異性の心 先生の性体験

表4-5 性差による「学校」の性教育の内容

(複数回答可) n=2658

項目	性別	男	%	女	%	合計	%
体や性に関する知識		1134	41.72	1372	41.94	2506	41.84
避妊の具体的な方法		813	29.91	979	29.93	1792	29.92
生命尊重や命に対する考え方		754	27.74	904	27.64	1658	27.68
その他		17	0.63	16	0.49	33	0.55
合計		2718		3271		5989	

表4-7 性差による性教育の効果

n=2685

項目	性別	男	%	女	%	
非常に役に立つと感じた		183	14.77	223	15.42	**
役に立つと感じた		615	49.64	799	55.26	
役に立たないと感じた		89	7.18	57	3.94	
どちらともいえない		352	28.41	367	25.38	

χ^2 検定 **p<0.01

性教育の効果には、「役に立つ」と感じたものがもっとも多い。次いで「どちらともいえない」であった（表4-7）。また、「思春期ピアカウンセラー養成講座」の受講経験のないものが9割強と圧倒的に多かった（表4-8）。養成講座を受けた者のうち「有意義」とするものは、女子に多かったが、男子は「どちらともいえない」が「有意義である」ということと僅差だった（表4-9）。養成講座の受講希望については「どちらともいえない」が多かった。「受けたい」とする受講希望者は男子に比して女子にやや多かった（表4-10）。

表4-8 性差による思春期ピアカウンセラー養成講座の受講

n=2710

項目	性別	男	%	女	%	
ある		31	2.47	28	1.93	ns
ない		1225	97.82	1426	98.07	

 χ^2 検定

表4-9 性差による思春期ピアカウンセラー養成講座の受け止め

n=58

項目	性別	男	%	女	%	
有意義だった		14	46.67	18	64.29	ns
意義はなかった		3	10.00	3	10.71	
どちらともいえない		13	43.33	7	25.00	

 χ^2 検定

表4-10 性差による思春期ピアカウンセラー養成講座の受講希望

n=2313

項目	性別	男	%	女	%	
受けてみたい		114	10.78	288	22.95	**
受けたくない		344	32.51	222	17.69	
どちらともいえない		600	56.71	745	59.36	

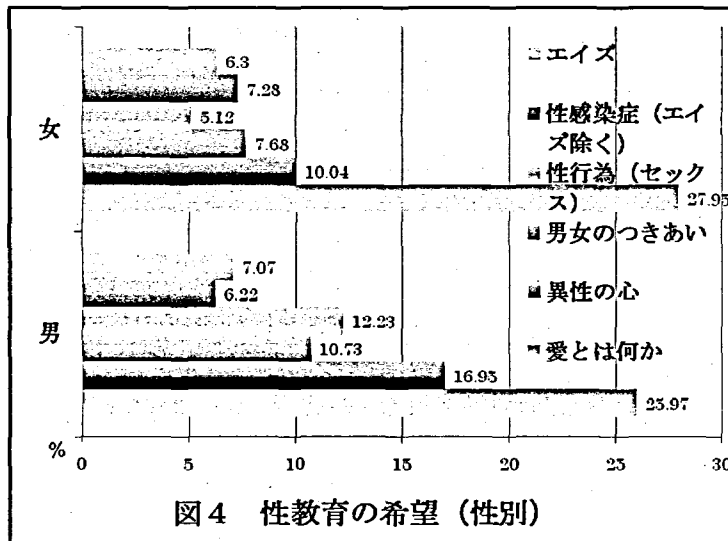
 χ^2 検定 **p<0.01

図4 性教育の希望 (性別)

性教育のニーズでは、“愛とはなにか”、“異性の心” “男女のつきあい” “性行為”が多かった (表4-11) (図4)。

学府別性教育のニーズでは、小学生男子では、男女平等・差別>身体のしくみ>異性の心>妊娠出産>胎児の成長と能力>男女のつきあい>エイズ>愛とはなにかであった。

中学生男子では、エイズをのぞく性感染症>避妊の方法>マスターベーション>エイズ>男女のつきあい>人工妊娠中絶>性被害の対処であった。

高校生男子では、性被害の対処>人工妊娠中絶>性は人生にどういう意味を持つか>セックス>エイズ>避妊の方法>胎児の成長と能力であった。

大学生男子では、性は人生にどういう意味を持つか>愛とはなにか>妊娠出産>セックスであった。個人によって異なるもので一番多いものは“マスターベーション”で、知る必要がないことでは“性は人生にどういう意味を持つか”であった。

小学生女子では、男女平等・差別>身体のしくみ>異性の心>妊娠出産>エイズ>胎児の成長と能力であった。

中学生女子では、男女平等・差別>身体のしくみ>異性の心>妊娠出産>エイズ>胎児の成長と能力であった。

中学生女子では、避妊の方法＞エイズをのぞく性感染症＞男女のつきあい＞エイズ＞人工妊娠中絶＞マスターベーションであった。

高校生女子では、人工妊娠中絶＞性被害の対処＞性は人生にどういう意味を持つか＞愛とはなにか＞胎児の成長と能力＞セックスであった。

大学生女子では、愛とはなにか＞性は人生にどういう意味を持つか＞エイズ＞性被害の対処＞胎児の成長と能力であった。個人によって異なるもので一番多いものは“愛とは何か”、知る必要がないことでは“マスターベーション”であった（表4-12）。

表4-11 性差による現在の性教育のニーズ

n=974

項目	性別	男	%	女	%	合計	%
愛とは何か		121	25.97	142	27.95	316.92	27.00
異性の心		79	16.95	51	10.04	156.99	13.35
男女のつきあい		50	10.73	39	7.68	107.41	9.14
性行為（セックス）		57	12.23	26	5.12	100.35	8.52
性感染症（エイズ除く）		29	6.22	37	7.28	79.50	6.78
エイズ		33	7.07	32	6.3	78.37	6.67
性は人生にどういう意味を持つか		18	3.86	39	7.68	68.54	5.85
避妊の方法		18	3.86	29	5.71	56.57	4.83
性の被害（レイプや性暴力）の対処法		10	2.15	29	5.71	46.86	4.00
妊娠や出産（生命誕生）		6	2.15	28	5.51	41.66	3.49
人工妊娠中絶について		10	2.15	23	4.53	39.68	2.46
胎児の成長と能力		6	1.29	18	3.54	28.83	1.95
マスターベーション		9	1.93	10	1.97	22.9	1.44
男女の平等、差別について		10	2.15	4	0.79	16.94	0.92
男女の身体の仕組み（違いや第二性徴について）		9	1.93	0	0.00	10.93	0.21
その他		1	0.21	1	0.20	2.41	0.21
合計		466		508		974	

表4-12 性差による性教育のニーズ

n=1876(有効回答)

項目	時期	男										女														
		小学生	%	中学生	%	高校生	%	大学生	%	個人によつて異なる	%	知る必要はない	%	小学生	%	中学生	%	高校生	%	大学生	%		個人によつて異なる	%	知る必要はない	%
男女の身体の仕組み (違いや第二性徴について)		402	44.62	396	43.95	32	3.55	1	0.11	64	7.1	6	0.67	544	56.67	363	37.81	18	1.88	0	0	31	3.23	4	0.42	**
異性の心		324	35.88	449	49.72	43	4.76	4	0.44	77	8.53	6	0.66	322	33.16	539	55.51	45	4.63	1	0.10	61	6.28	3	0.31	ns
男女のつきあい		223	24.67	516	57.08	78	8.63	7	0.77	74	8.19	6	0.66	199	20.54	640	66.05	59	6.09	2	0.21	66	6.81	3	0.31	**
マスターベーション		110	12.29	535	59.78	87	9.72	5	0.56	138	15.42	20	2.23	52	5.75	539	59.62	108	11.95	7	0.77	154	17.04	44	4.87	**
性行為(セックス)		89	9.83	456	50.39	205	22.65	19	2.10	125	13.81	11	1.22	87	9.05	556	57.86	196	20.40	18	1.87	102	10.61	2	0.21	**
避妊の方法		106	11.75	561	62.20	156	17.29	5	0.55	68	7.54	6	0.67	82	8.42	700	71.87	152	15.61	9	0.92	29	2.98	2	0.21	**
妊娠や出産 (生命誕生)		248	27.34	441	48.62	116	12.79	20	2.21	76	8.38	6	0.66	290	30.05	510	52.85	119	12.33	12	1.24	34	3.52	0	0.00	**
性感染症 (エイズ除く)		141	15.61	579	64.12	113	12.51	4	0.44	62	6.87	4	0.44	135	13.92	683	70.41	132	13.61	3	0.31	16	1.56	1	0.10	**
エイズ		204	22.62	535	59.31	96	10.64	5	0.55	57	6.32	5	0.55	229	23.56	629	64.71	102	10.49	0	0.00	11	1.13	1	0.10	**
男女の平等、差別について		485	53.59	302	33.37	52	5.75	4	0.44	52	5.75	10	1.10	551	57.10	323	33.47	63	6.53	3	0.31	19	1.97	6	0.62	**
胎児の成長と能力		239	26.50	422	46.78	152	16.85	10	1.11	71	7.87	8	0.89	210	21.81	493	51.19	213	22.12	12	1.25	34	3.53	1	0.10	**
人工妊娠中絶について		83	9.16	508	56.07	227	25.06	6	0.66	73	8.06	9	0.99	47	4.86	593	61.32	290	29.99	7	0.72	26	2.69	4	0.41	**
性の被害 (レイプや性暴力)の対処法		104	11.52	470	52.05	231	25.58	14	1.55	73	8.08	11	1.22	81	8.43	541	56.30	263	27.37	17	1.77	53	5.52	6	0.62	*
愛とは何か		179	18.80	355	39.27	191	21.13	32	3.54	128	14.16	19	2.1	151	15.65	357	36.99	244	25.28	37	3.83	170	17.62	6	0.62	**
性は人生にどういう意味を持つか		140	15.59	364	40.53	219	24.39	37	4.12	112	12.47	26	2.9	110	11.65	399	42.27	243	25.74	36	3.81	140	14.83	16	1.69	ns
その他		1				1				1																
合計		3078		6889		1999		173		1251		153		3090		7865		2247		164		946		99		

 χ^2 検定 * $p < 0.05$ ** $p < 0.01$

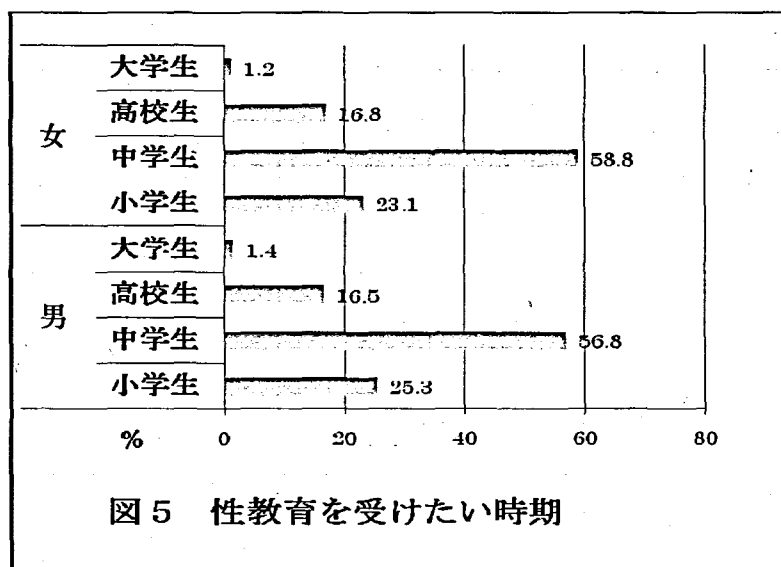
(欠損値は削除)

表4-13 性差による性教育への関心

n=2562

項目	性別	男	%	女	%	
知りたい		912	75.31	990	73.28	
知りたくない		299	24.69	361	26.72	ns

 χ^2 検定



性教育を受けたい時期については、性差に関係なく、中学生が圧倒的に多く、次いで小学生、大学生の時期であった（図5）。

性教育への関心は男女ともに「知りたい」が70%を越えていた（表4-13）。

性教育を受けたくない理由では、男子では、「興味がない」、「理由はないが知りたくない」、女子では、「興味がない」、「どうでもいい」という理由が多かった。

「性について知りたくない」とする理由の自由記述では興味がない・面倒くさい、特に理由はないが知りたくない、もう知っている、今は知りたくない、知る必要がない、知ることには抵抗がある、自然に知りたい、個人の問題などであった。興味がない・面倒くさいは、知りたくない理由として最も多い内容であった。興味がない、どうでもいい、関心・関係がないなど、性に対して興味や関心のなさが男女とも多く、男女比では女子の方が多い傾向にあった。

「特に理由はないが知りたくない」では、これといった理由もなく、なんとなく、知りたくない、わからない、どっちでもいい、という内容が多く、性に対して漠然と捉えていた。「もう知っている」では、知っている、ほとんど習った、今の知識で十分、もう知り尽くした、などの意見から、性について自分はもう十分知識を持っていると感じていた。

「今は知りたくない」には2通りの意見があり、まだ必要ない、まだ早い、結婚するまで知りたくないという時期的なものと、部活や勉強に集中したい、今はそれどころではない、といった学習が優先されている現状があった。

「知る必要がない」では、知らなくても生きていける、役に立たないなど性について、その必要性自体を感じていないようであった。

「知ることには抵抗がある」では、気持ちが悪い、怖い、恥ずかしい、いやらしい、ショックを受けるといった否定的な意見が多かった。男子の中には、知ると自分がだめになってしまう、関わると一生を台無しにしかねないという意見があった。

「自然に知りたい」では、自然に知っていくものだから、生きていくうちに知ることだから、流れに身を任せたいといった内容であり、男子に比べ女子の

方が自然に知りたいという認識が強い傾向であった。

「個人の問題」では、人それぞれだから、個人によって異なるといった周りより個人を重視した意見が少数ながらみられていた（表4-14）。

表4-14 性について知りたくない理由

項目	性別	男	女
興味がない 面倒くさい		興味がない (32) 面倒くさい (14) どうでもいい (9) 関心がない (5) 気にしない 特に気にならない どっちでもいいから あまり興味を持ちたくない	興味がない (62) どうでもいい (18) 関心がない (8) 面倒くさい (7) 自分にはあまり関係ないと思うから (3) 未だ興味がない、異性に関わるのが苦手 する気がないから 異性と話す機会がない、関係ない 異性に全く興味がない
特に理由はないが 知りたくない		なんとなく (15) 知りたいと思わない (5) 知りたくない (2) わからない (2) 聞きたくないから 気分 理由はない	なんとなく (5) 知りたいと思わない (4) 知りたくない (3) わからない (3) どちらでもいい 知りたいかどうかどっちでもない
もう知っている		知っているから (7) 今の知識で十分 (4) これ以上は知りたくない (2) もう知りすぎた 間に合っている 特に知りたいことが無い 学ぶことはありません	知っているから (5) 今の知識で十分 (2) ほとんど授業で習った (2) 今さら勉強しなくてもいい 知りたいことがない 知り尽くしている 特に知りたい事がないから ある程度知っている、必要以上の興味がない 必要最低限のことを知っていればいい 体験予定なく最低限の知識はある
今は知りたくない		まだ必要ない (5) まだ早いと思う (4) 今は別に知りたくない (2) 時期が来たら 今はそれどころじゃない	まだ必要ない (6) まだ早いと思う (3) 知りたくなった時に知ればいい (2) 結婚するまで考えたくない 今は部活や勉強に集中したいから 今は考えたくない 今は知りたくない
知る必要がない		知る必要がない (3) 知る意味もないから (2) 知っても人生にメリットなどないから 関わりたくない タブーにしてできるだけ触れたくない内容だから	知る必要がない (7) 役に立たない (4) あまり知らなくても生きていける
知ることに抵抗がある		気持ち悪い (2) 気分が悪くなる 知ると自分がだめになってしまうと思う 性のことに関わったりすると一生を台無しにしかねない 何かいやらしい 人体の神秘を知りたくない	気持ち悪い (3) 怖いから (2) ショックを受けることもあるから 恥ずかしい あまりいい思い出がない 抵抗があるから あんまりそういう話は好まない 中絶については本当に必要でなければ知らずにいたい 気分が悪くなる
自然に知りたい		自然に知っていくものだと思うから 自然に知りたい、無理に知りたくない	自然に知っていきたい 生きていくうちに知ることだから 必要以上に知る必要はないし、知りたくなくても大切なことは耳に入ってくるから 生きていく中で自然に知ればよい 求めてまで知りたいと思わない わざわざ知りたいと思わない いずれ解ることだし、好んで知る必要はない 流れに身を任せたい 成長していくうちに知っていくと思うから
個人の問題		人生は人それぞれだから	人それぞれだと思う 自分の行動の責任は自分で取るし、他人がどうだろうと関係ない

4) 性交渉・胎児・人工妊娠中絶・性感染症・避妊に対する意識

性交渉については、「周りの人がしていると聞いているので性交渉してもかまわない」では男女ともに、「反対」が多いが、男子よりも女子の方が、反対の比率が若干多かった（表5-1）。

表5-1 性差による性交渉に対する考え

n=2690（有効回答）

項目	性別	男				女				
		賛成	%	反対	%	賛成	%	反対	%	
性行為は妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢と立場になってからすべきだ		906	72.95	336	27.05	1121	79.62	287	20.38	**
妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい		857	69.79	371	30.21	947	68.92	427	31.08	ns
妊娠によって一つの命が育まれるのであり、学生であっても責任をとる覚悟があるならばよい		847	67.81	402	32.19	1052	73.57	378	26.43	**
個人の自由である		866	68.51	398	31.49	995	69.78	431	30.22	ns
避妊さえ気をつければしてもよい		747	60.49	488	39.51	814	58.6	575	41.4	ns
周りの人がしていると聞いているのでしてもかまわない		389	32.18	820	67.82	330	24.5	1017	75.5	**

χ^2 検定 **p<0.01

（欠損値は削除）

「妊娠に責任をとる覚悟があつて性交渉するならよい」では男女とも「賛成」が多いが、男子よりも女子の方が賛成の比率が若干多かった。

「性行為は責任のとれる年齢になってからすべき」では、男女ともに「賛成」が非常に多いが、男子よりも、女子の方が賛成の比率は若干多かった（表5-2）。

表5-2 学生が性交渉することについて

項目	性別	男	女
してもいい		SEXはしたほうが良い	後悔しないのなら好きにすればいい
		別にいいじゃん	自分とその相手の問題、妊娠しても責任が取れるのなら他人が口を挟む問題ではない
やや慎重		個人の自由で良いと思う(2人)	性交渉によって解る事もあるから完全に否定したくない
			気持ちがあればいいと思う
			すごいと思う
			彼氏ができ、性行為をして本当に好きな人が自分だけを見てくれているという安心感がもてるということに気づいた
		結婚してからすべきだ(2名)	学生のうちは絶対に遊び半分でやってはいけない(4名)
		軽い気持ちではしてはいけない(4名)	興味本位だけは絶対良くない
		性交渉とは何なのか正しく考えることが必要	愛がないのは問題外
		自分の考えをしっかりとって判断すべきだ	SEXは愛があつてするものだと思う
		性感染症や妊娠等について深い理解を持つ必要がある	友達がしているからとか、この年齢で遅いのか、など考えて焦らなくてもいいと思う
		知識を持たずに性行為をすることはやめたほうがよい(2名)	責任が取れるかどうかの問題じゃないと思う
		自分が気持ちよくなりたいという気持ちだけで動いていることについて納得できない	本当に信頼している人以外とは性行為してはいけない、きちんと育てられないなら避妊したり、性行為自体すべきでない
		今の考え方が性交渉をしてもかまわないという感じなので、その意識を変えていく必要がある	

これらのことから性差にかかわらず、性交渉に対する慎重な考え方を持っているといえる。

「学生が性交渉することについて」の自由記述では、「してもいい」、「やや慎重」の2通りあり、「やや慎重」の方が多かった。「してもいい」では、男子の「したほうが良い、個人の自由で良い」に対して、女子では「後悔しないなら、妊娠しても責任が取れるなら、気持ちがあれば」といった条件つきで容認している意見が多く、「やや慎重」では、男女とも「結婚してからすべき、興味本位では良くない、しっかり知識を持つ事が大事」が多かった。

さらに女子では、性交渉について、「愛がないのは問題外」、「愛があつてするもの」、「本当に信頼している人以外とはしてはいけない」と捉えているものがいた。

男女ともに胎児を「人としてかけがえない個人」として感じており、また女子の方が男子よりも、そう考える比率が若干多かった（表5-3）。

表5-3 胎児に対する意識

n=2671 (有効回答)

性別 \ 項目	男				女				
	はい	%	いいえ	%	はい	%	いいえ	%	
考えたことがない	628	0.51	601	0.489	478	34.29	916	66.71	**
胎児といえども1人1人がかけがえない存在であり、命を大切に考えたい	1172	95.83	51	4.17	1426	98.48	22	1.52	**
法律で中絶が認められている範囲においては人として考えなくて良い	237	19.98	949	80.02	105	7.51	1294	92.49	**
お腹に中にある胎児はまだ人として考えなくていい	102	8.53	1094	91.47	22	1.55	1395	98.45	**

χ^2 検定 **p<0.01

(欠損値は削除)

胎児についての「その他」の自由記述では、男子で「生きるということがどうということなのか考えているのでまだよく解らない」、「難しい」、女子で「胎児の両親がある程度存在価値を決めても良いと思う」、「中学生の時お腹の中に人がいるのは気持ち悪いと思ったことがある」という考えから、「わからない・難しい」、「両親の決定権」、「その他」などがあつた。さらに、男女ともに「胎児をヒトとして考えない」ことには反対しているが、男子より女子の方に反対の比率が多かった（表5-4）。

表5-4 胎児についての考え-その他

項目 \ 性別	男	女
両親の決定権		胎児の両親がある程度存在価値を決めても良いと思う
わからない・難しい・難しい	生きるということがどうということなのか考えているので未だ良く解らない	
その他		中学生の時お腹の中に人がいるのは気持ち悪いと思ったことがある

人工妊娠中絶への意識については、「経済的理由」について、男子は肯定する者が多いが、女子は肯定しない者が多かった(表5-5)。人工妊娠中絶について「その他」についての自由記述では、「人工妊娠中絶は仕方ない」、「個人の問題」、「人工妊娠中絶は反対」、「胎児への思い」などがあつた(表5-6)。

表5-5 性差による人工妊娠中絶の意識

n=2546 (有効回答)

項目	性別	男				女				
		賛成	%	反対	%	賛成	%	反対	%	
医学的理由(妊娠を続けると母体の生命が危険)以外は絶対避けるべき		796	67.00	392	33.00	935	68.85	423	31.15	ns
望まない妊娠ならばしても仕方ない		689	58.44	490	41.56	685	50.97	659	49.03	**
経済理由ならばしても仕方ない		650	55.46	522	44.54	602	45.16	731	54.84	**
女性の意思選択権として行われても仕方ない		730	62.55	437	37.45	654	50.19	649	49.81	**
どう考えたらよいかわからない		590	54.68	489	45.32	646	54.89	531	45.11	ns

χ^2 検定 **p<0.01

(欠損値は削除)

表5-6 人工妊娠中絶についての考え-その他

項目	性別	男	女
中絶は仕方ない		産んだ後の事を考えれば中絶は必ず必要になってくる場面があると思う 中途半端な気持ちで産んでも生まれてくる子供がかわいそうだから覚悟がないなら辞めた方がいい	望まれない妊娠で生まれた子も可哀想 幸せに育てられないなら産まない方が良い(8名) 個人の事情でしなくてもしなければならぬ人もいる 育てられないなら産むべきでない
個人の問題		結局は本人の意思、他人が決めることではない 他人が口出しすべきことではない ある程度は個人の自由であり意見を尊重すべきだが、1つの命である事は変わらないのでむやみにする事ではない	絶対に「こうあるべき」とは言えない 人として考えるからと言って中絶をしない訳ではない
中絶反対			赤ちゃんを幸せにする自信があれば産むと思う 性的被害以外の時については自己責任で産むべき(3名) 望まない妊娠でも簡単に中絶していいと思わない 経済的理由で中絶しなければならない事態を予測できるのに性行為をした場合許されないと思う レイプと医学的理由以外は避けるべき
胎児への思い			何も考えずに中絶された命はかわいそう(2名) 胎児は皆望まれて生まれてきて欲しい 生まれてきた理由を子供に説明できなければいけないと思う

「人工妊娠中絶は仕方ない」、「個人の問題」では、男女とも産んだ後の事を考えれば中絶は必要、育てられないなら産むべきでない、本人の意思、こうあるべきではないといった意見が多く、男女共通の認識を持っていた。一方で、人工妊娠中絶反対、胎児への思いは女子のみの回答であった。

「人工妊娠中絶は反対」では、性的被害以外は自己責任で産むべき、望まない妊娠でも簡単に中絶していいと思わない、経済的理由を予測できるのに性行為した場合は許されないといった内容であった。中には、赤ちゃんを幸せにする自信があれば産むという意見があった。

「胎児への思い」では、何も考えずに中絶された命はかわいそう、胎児は皆望まれて生まれてきて欲しい、生まれてきた理由を子どもに説明できなければいけないと思うなどの考えであった。

「望まない妊娠」・「女子の意思選択権」として行われることは、女子は僅差で賛成が多いが、男子は賛成の方がやや多かった。

「どう考えてよいかわからない」は、性差にかかわらず、半分程度をしめていた。

次いで性感染症を「身近な病気」として捉えることには、性差はなかった（表5-7）。性感染症については、①遺伝する病気ではない ②ウイルスが原因で感染する病気である ③コンドームは感染予防に効果がある ④日本では患者数が増加している ⑤健康そうにみえても感染していることがある ⑥主に性行為によって感染する ⑦性感染症にはエイズも含まれている ⑧性感染症は自分だけが治療すればよい ⑨早期に感染を知ることによってエイズの発症を防げる ⑩性感染症のことはよくわからない これら①から⑩の項目群では、男女ともに④～⑧までの項目に対する正答率は高く知識はあるが、女子の方が男子に比して、若干正答率が高い傾向にあった。

表5-7 性差による性感染症の認識 n=2612

項目	性別	男	%	女	%	
はい		641	52.89	794	56.35	ns
いいえ		571	47.11	615	43.65	

χ^2 検定

早期に感染を知ることによってエイズの発症を防げるについては、男女ともに、④～⑧の項目ほどではないが、正答率が高く知識があるといえる。同様に女子の方が男子に較べて、若干正答率が高い傾向にあった（表5-8）。

避妊の方法で知っている者については、男女ともに“コンドーム”、ついで“ピル”であった。3番目によく知っている避妊法では、男子は“膣外射精”、女子は“基礎体温”であった。緊急避妊法は、男女ともに有する知識は最低であった（表5-9）。

もっとも確実な避妊方法では、男女ともに“コンドーム”について“ピル”であった(表5-10)。

表5-8 性差による性感染症の知識

n=2679 (有効回答)

項目	性別	男						女						
		はい	%	いいえ	%	わからない	%	はい	%	いいえ	%	わからない	%	
遺伝する病気ではない		383	30.79	463	37.22	398	31.99	492	34.33	518	36.15	423	29.52	ns
ウイルスが原因で感染する病気である		744	60.00	167	13.47	329	26.53	818	57.36	167	11.71	441	30.93	*
コンドームは感染予防に効果がある		1086	87.44	49	3.95	107	8.62	1234	85.87	83	5.78	120	8.35	ns
日本では患者数が増加している		977	78.79	29	2.34	234	18.87	1242	86.49	17	1.18	177	12.33	**
健康そうに見えていても感染していることがある		1069	86.28	25	2.02	145	11.700	1334	92.90	7	0.49	95	6.62	**
主に性行為によって感染する		1076	86.91	32	2.58	130	10.500	1311	91.36	25	1.74	99	6.90	**
性感染症にはエイズも含まれている		972	78.70	67	5.43	196	15.87	1214	84.66	50	3.49	170	11.85	**
性感染症は自分だけが治療すればよい		101	8.18	902	73.04	232	18.79	44	3.070	1209	84.31	181	12.62	**
早期に感染を知ることによってエイズの発症を防げる		567	45.87	325	26.29	344	27.83	701	49.09	296	20.73	431	30.18	**
性感染症のことはよく分からない		624	55.76	495	44.24			720	57.69	528	42.31			ns

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

(欠損値は削除)

表5-9 性差による避妊の知識

n=2671 (有効回答)

項目	性別	男						女						
		はい	%	いいえ	%	わからない	%	はい	%	いいえ	%	わからない	%	
コンドーム		1169	99.66	9	0.73	57	4.62	1415	98.54	4	0.28	17	1.18	**
ピル(経口避妊薬)		1007	82.54	91	7.46	122	10.00	1334	93.55	39	2.73	53	3.72	**
フィルム状避妊薬		378	31.61	540	45.15	278	23.24	317	23.04	688	50.00	371	26.96	**
月経からの日数を数える		654	54.23	293	24.30	259	21.48	971	69.56	239	17.12	186	13.32	**
基礎体温を測る		627	52.25	322	26.83	251	20.92	984	70.49	236	16.91	176	12.61	**
膣外射精法(精液を外に出すこと)		797	66.25	218	18.12	188	15.63	817	59.42	339	24.65	219	15.93	**
女性用コンドーム		643	53.36	334	27.72	228	18.92	798	57.49	351	25.29	239	17.22	ns
ベッサリ		290	24.25	572	47.83	334	27.93	335	24.56	613	44.94	416	30.50	ns
緊急避妊法		223	18.72	613	51.47	355	29.81	257	18.87	663	48.68	442	32.45	ns
IUD(避妊リング)		292	24.44	554	46.36	349	29.21	339	24.87	610	44.75	414	30.37	ns
避妊の方法についてはよく分からない		476	47.22	532	52.78			568	49.74	574	50.26			

χ^2 検定 **p<0.01

(欠損値は削除)

表5-10 性差による最も確実な避妊の知識

n=2381 (有効回答)

項目	性別	男	%	女	%	合計	%
コンドーム		729	66.58	740	57.54	1593.12	61.70
ピル(経口避妊薬)		242	22.10	412	32.04	708.14	27.47
膣外射精法(精液を外に出すこと)		43	3.93	26	2.02	74.95	2.90
IUD(避妊リング)		16	1.46	25	1.94	44.4	1.72
女性用コンドーム		14	1.28	26	2.02	43.3	1.68
月経からの日数を数える		22	2.01	14	1.09	39.1	1.51
基礎体温を測る		7	0.64	19	1.48	28.12	1.09
ベッサリ		6	0.55	11	0.86	18.41	0.71
緊急避妊法		12	1.10	4	0.31	17.41	0.67
フィルム状避妊薬		4	0.37	9	0.70	14.07	0.55

5) 性体験と初体験年齢・初体験時の避妊

性体験については、「性体験がある」女子が男子に比して有意に多かった（表6-1）。

表6-1 性差による初体験の有無

n=2656

項目	性別	男	%	女	%
ある		261	20.98	422	29.89
ない		983	79.02	990	70.11

**

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

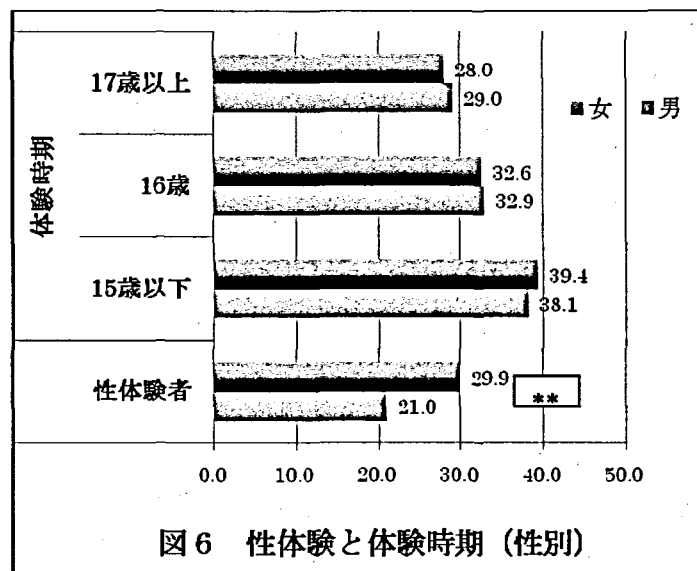


図6 性体験と体験時期 (性別)

性差による初体験の年齢については、15歳以下が男女ともに16歳・17歳以上に比し多かった。年齢が高くなるに従って初体験者の数は減る傾向にあった（表6-2）（図6）。

表6-2 性差による初体験の年齢

n=627

年齢	性別	男	%	女	%
15歳以下		88	38.1	156	39.39
16歳		76	32.9	129	32.58
17歳以上		67	29	111	28.03

ns

χ^2 検定

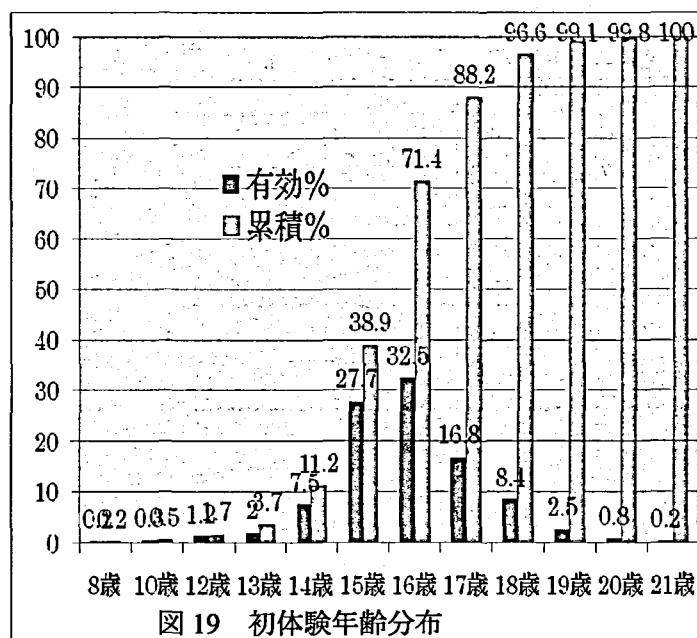
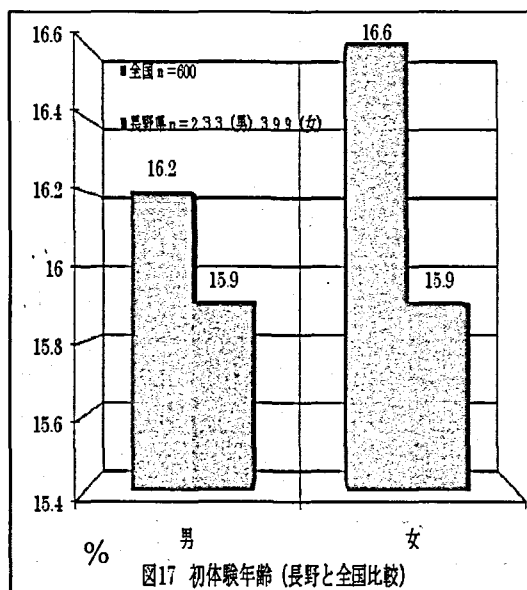


図19 初体験年齢分布

初体験年齢の分布では、16歳をピークに正規分布しており、16歳で初体験者の7割を超えていた（図19）。

また全国調査との比較では、初体験年齢は全国データがやや遅い傾向にあり、全国データでは女子がより遅い傾向にあった（図17）。



初体験時の避妊では、男女ともに行なった者が多く（表6-3）、避妊方法では男女ともにコンドームを用いた者が多かった（表 6-4）。

初体験時の避妊方法で、男女ともに膈外射精以外の方法が圧倒的に多いが、男子と比べると女子がわずかに、膈外射精が多かった（表6-5）。

表6-3 性差による初体験時の避妊

n=670

項目	性別	男	%	女	%	
した		207	81.5	347	83.41	ns
しなかった		37	14.57	50	12.02	
分からない (忘れた)		10	3.94	19	4.57	

χ^2 検定

表6-4 性差による初体験時の避妊方法 (男性用コンドーム)

n=683

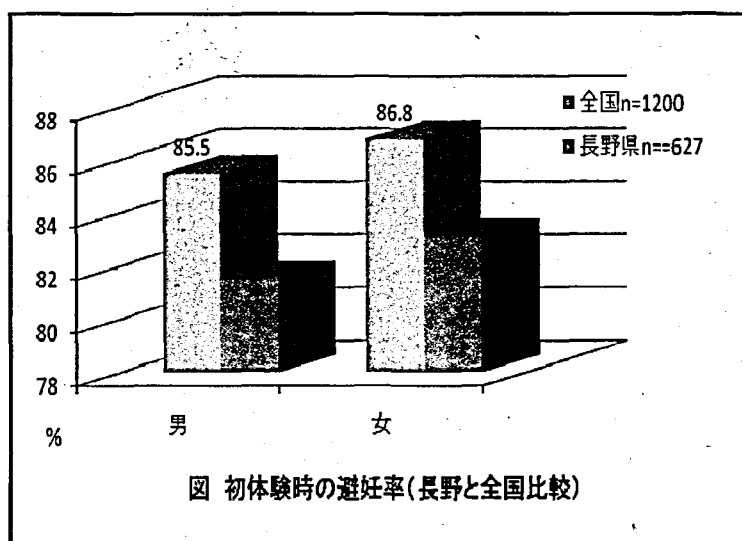
項目	性別	男	%	女	%	
男性用コンドーム		197	75.48	326	77.25	ns
男性用コンドーム以外		64	24.52	96	22.75	

χ^2 検定

表6-5 性差による初体験時の避妊方法 (膈外射精)

項目	性別	男	%	女	%	
膈外射精		10	3.83	32	7.58	*
膈外射精以外		251	96.17	390	92.42	

χ^2 検定 *p<0.05



全国とのデータ比較によると全国データがより避妊率が高いが、女子が男子に比べ高い点においては長野県と全国データは同じ傾向にあった(図18)。

次に、避妊をしなかった理由では、男子では、避妊具がなかった>面倒だった>妊娠しないと思った>避妊について言い出せなかったであり、女子

では面倒だった>妊娠しないと思った>その他>避妊具がなかった・避妊について言いだせなかったであった(表6-6)。

表6-6 性差による避妊をしなかった理由(複数回答)

項目	男		女		合計	
	性別	%	性別	%		%
避妊具がなかった	12	36.11	22	12.2	82.31	1.07
面倒だった	13	33.33	5	53.66	104.99	1.36
妊娠しないと思った	7	19.44	9	21.95	57.39	0.75
避妊について言い出せなかった	3	13.89	8	12.2	37.09	0.48
避妊をしようといったが断られた	5	8.33	5	4.88	23.21	0.30
その他	3	8.33	3	19.51	33.84	0.44
避妊について知らなかった	3	8.33	2	7.32	20.65	0.27
	46		54		100	

避妊をしなかった理由の自由記述では、男子では「生の方が気持ち良いと思った」、「忘れていた」、「破れていた」、という意見に対し、女子では「ゴムをつけたら気持ちよくない」、「相手がしてくれなかった」、「半強制的だったので無理やりされた」といった回答であった(表6-7)。

表6-7 避妊法をしなかった理由

男	女
生の方が気持ち良いと思った	ゴムをつけたら気持ちよくない
忘れてた	相手がしてくれなかった
破れてた	半強制的だったので
	無理やりされた

調査に対する全体を通しての「自由記述」では、様々な意見が挙げられた。

内容的には「性に関する意識・知識について」、「避妊について」、「性感染症について」、「性行為について」、「性教育について」、「質問」、「その他」であった。

「性に関する意識・知識について」では、男女共に、最も多い項目であった。高校生になって久しぶりに性について考えた、個人の心とモラルの問題、自分は無知だと思った、無関心は恥ずべきことといった意見から、この調査がきっかけとなり、性に関してもっと正しい知識を身に付ける必要性を感じ、また正しい情報を知りたいと望んでいた。自分を愛することがそのまま他人や世界を愛することと捉えていた。また、性に関する社会の在り方として、もっと素直にオープンな社会にしたいと考えていた。

「避妊について」では、全体として女子からの回答が多かったが、中でも多かったのが「避妊法」であった。もう少し避妊の重要性を教育した方がいい、生まれてきた子どもに対し無責任な親が多いと答える男子に対し、避妊について知らなかったと感じた、望まない妊娠を避けるため避妊は大切、男と女がいる限り性病はついて回る、男はもっと避妊に協力すべきだという回答から、避妊についての現状や避妊の必要性を感じ、またそれは自分達女子だけでなく、男子にも必要なものであると捉えていた。

「性感染症について」では、もっと身近に相談できる施設を設けて欲しい、エイズや無料検査のことをもっと広めれば受ける人も増えるといった意見から、社会、行政などに対し相談のしやすさ、窓口の充実を望んでいた。性感染症は自分だけでなく相手も治療しなければいけないという意見があった。

「性行為について」では、回答はほとんどが女子であった。女子は性行為について、本当に好きな人と避妊をするかしないかを話し合っているもの、本当に子どもを作りたい時しかするべきではないとして、自分達の自己選択の下で行う事と考えていた。妊娠・出産を見据えた意見として、自分だけのものではなく子どもは望まれて生まれてくるものだと考えていた。

「性教育について」では、性教育に対する現状として、実際に詳しいことは教えてもらえていないとして、性感染症が増加している現状からもっと正確な性教育を学校や家庭で行うべき、命の大切さを教えること、何故付き合っている関係の関係をすぐに作らなければいけないのかが解らないといった意見から、家庭、学校、社会に対して今以上の性教育の充実を望んでいた。また、視点は異なるが、学校でコンドームを配るべきと考えていた。性教育の時期については、低年齢での性交渉が増加しているのももう少し早い段階で行った方がいいといった意見や、高校時代の週1時間の性教育が役立った、大学でも性に関する講演などがあると正しい知識を得られていいと思うといった具体的な案を提示しており、性について正しい知識を身に付ける必要性を感じていることがわかった。

自由記述の中にはいくつかの質問があった。キスで性感染症はうつるのか、

精液を飲んでも大丈夫なのか、SEX したくない時何と言って断ればいいのかという具体的なものから、結婚して子供が欲しいと思った時に相手がエイズかどうかを調べるべきか、いまどきの中学生は性交渉で妊娠してしまっているのだろうか、H って何だろう、性は心の変化と関係あるのかなどといった質問もあり、これらの内容から様々な疑問を抱いていることがわかった。その他、女子からの意見として、「自分の体は宝」と性に関して肯定的に捉えるものや、「人生は難しい」として自分自身の人生について考えていた（表6-8）。

表6-8 自由記述

項目	性別	男	女
性に関する意識・知識について		真剣に考えて行きたいと思う 高校生になって久しぶりに性について考えた インターネットや携帯で年齢に関わらず間違った情報も正しい情報も手に入るようになっている、正しい情報を教えて欲しい (2) 自分を愛することができなければ他人を愛せない。正しい精神で自分を愛せるようになりたい。それはそのまま他人や世界を愛することだから性って難しい 性についてもっとオープンに構えた方がいい	もっと性について学んで正しい知識を身につけたい(3) 性に関してもっと素直に・オープンな社会にしたい(2) 性について真剣に考えることも必要だと思いました 個人の心とモラルの問題。無知なら学べばいいが、無関心は恥ずべきことだと思う。 TVドラマで中学生の妊娠の内容がやっていて色々考えさせられる。反対に性に関する影響は大きくなりそうな気がする。 自分は無知だと思いました いつ妊娠したかわかるかあまりよく知らない
避妊について		もう少し避妊の重要性を教育したほうが良い 生まれてきた子供に対し無責任な親が多い	望まない妊娠を避ける為避妊は大切だと思う (5) 男と女がいる限り性病もついて回る。それをどう受け止め、正しい知識を持てるかだと思う。男はもっと避妊に協力すべきだ 避妊法について知らなかったと感じた (3)
性感染症について		性感染症の事についてももっと身近に相談できる設備を設けてほしい	エイズのことや、無料検査のことをもっと広めれば受ける人も増えると思う 性感染症は自分だけでなく相手も治療しなければならぬと思う
性行為について		SEXとは難しい	性行為は本当に好きな人と避妊をするかしないか話し合ってするものだと思う 性行為は自分の物だけじゃないと思う。子供は望まれて生まれてくるものだと思う 本当に子供を作りたい時しか性行為はするべきじゃないと思う
性教育について		性教育が行われていても実際には詳しいことは教えてもらえていない気がします	最近かなり低年齢での性交渉が増加しているので、もう少し早い段階で感染症などの知識を得る必要があると思う (3) 大学でも性に関する講演などがあると正しい知識を得られていいと思う 高校の時週1時間性教育があり役立っている。 HIVや性病が増えている今、もっと正確な性教育を学校や家庭で行うべき。命の大切さを教え何故付き合っただけの関係で簡単に作らなければいけないのが解らない 高校生の中絶が減ってほしい 学校でコンドームを配るべき
質問		結婚して子供が欲しいと思ったとき、相手がエイズなのだとわかったらどう調べるべきなのか？ ガマン汁でも妊娠してしまうんですか？	精液を飲んでも大丈夫ですか？ キスでも性感染症はうつるのですか？ SEXしたくない時何と言って断ればいいのか？ いまだきの中学生は異性と性交して妊娠してしまったりしているのでしょうか？ Hってなんだろう？ 性は心の変化と関係あるのか？
その他			自分の体は宝です 人生って難しいです

4 性体験と性差による性意識の特徴

1) 性体験と友人や性の影響

性体験のある男子は、性体験のない男子より、同性のより深い交友関係をもっていた（表 7-1）。同様に性体験のある女子は、性体験のない女子より、同性のより深い交友関係を持っていた（表 7-2）。

表7-1 性体験（男性）の有無と同性の友人

n=1244

項目	性体験	ある	%	ない	%	
学校でよく話をする	いる	185	70.88	725	73.75	ns
	いない	76	29.12	258	26.25	
一緒に遊びに行く	いる	179	68.58	528	53.77	**
	いない	82	31.42	454	46.23	
何でも打ち明けて話せる	いる	154	59.00	351	35.71	**
	いない	107	41.00	632	64.29	

χ^2 検定 **p<0.01

(欠損値は削除)

表7-2 性体験（女性）の有無と同性の友人

n=1412

項目	性体験	ある	%	ない	%	
学校でよく話をする	いる	332	78.67	752	76.42	ns
	いない	90	21.33	232	23.58	
一緒に遊びに行く	いる	306	72.51	651	65.76	*
	いない	116	27.49	339	34.24	
何でも打ち明けて話せる	いる	323	76.54	597	60.30	**
	いない	99	23.46	393	39.70	

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

(欠損値は削除)

性体験のない男子には、性体験のある男子より異性の交友関係がないことが多く、恋人と呼べる異性の友人は極端に少なかった。逆に性体験のある男子は、性体験のない男子より恋人と呼べる異性の友人を持つことが多かった（表 7-3）。

表7-3 性体験（男性）の有無と異性の友人

n=1244

項目	性体験	ある	%	ない	%	
グループでつきあう	いる	122	46.74	390	39.67	*
	いない	139	53.26	593	60.33	
親友と呼べる	いる	86	32.95	205	20.85	**
	いない	175	67.05	778	79.15	
恋人と呼べる	いる	119	45.59	96	9.77	**
	いない	142	54.41	887	90.23	

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

(欠損値は削除)

一方、性体験のない女子は、性体験のある女子より恋人や親友と呼べる異性の友人を持つことは少なかった。逆に性体験をもつ女子は、性体験のない女子より恋人と呼べる異性の友人を持っていた（表 7-4）。

表7-4 性体験（女性）の有無と異性の友人

n=1412

項目	性体験	ある	%	ない	%	
グループでつきあう	いる	179	42.42	415	41.92	ns
	いない	243	57.58	575	58.08	
親友と呼べる	いる	125	29.62	173	17.47	**
	いない	297	70.38	817	82.53	
恋人と呼べる	いる	240	56.87	115	11.62	**
	いない	182	43.13	875	88.38	

 χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

(欠損値は削除)

次に性に対する関心では、性差に関わりなく性体験のあるものは、性体験のないものより性的な関心を持っていた（表7-5. 6）。

表7-5 性体験（男性）の有無と性的な関心

n=1207

項目	性体験	ある	%	ない	%	
ある		183	70.66	442	46.62	**
ない		6	2.32	76	8.02	
どちらともいえない		70	27.03	430	45.36	

 χ^2 検定 **p<0.01

(欠損値は削除)

表7-6 性体験（女性）の有無と性的な関心

n=1207

項目	性体験	ある	%	ない	%	
ある		159	38.69	168	17.85	**
ない		19	4.62	177	18.81	
どちらともいえない		233	56.69	596	63.34	

 χ^2 検定 **p<0.01

(欠損値は削除)

性体験のある男子の性に最も影響を与えたものでは、先輩>漫画コミックス>インターネット>ビデオ>学校で行われた性教育>友人>新聞雑誌記事>テレビラジオ>その他の本>教師>兄弟姉妹>親であった。

性体験のない男子の性に最も影響を与えたものでは、友人>漫画コミックス>性教育>インターネット>先輩新聞雑誌記事>ビデオ>テレビラジオであった。

結果として、性体験のある男子と性体験のない男子では、順位1と順位2の先輩と友人が逆転していた。つまり、性体験のある男子は、友人よりも年上の先輩からの影響を受けていた（表7-7）。

性体験のある女子の性に影響を与えたものでは、友人>漫画コミックス>性教育>先輩>新聞や雑誌の記事>その他の本>テレビラジオであった。

性体験のない女子の性に最も影響を与えたものは、友人>性教育>漫画コミックス>新聞や雑誌>テレビラジオ>先輩>インターネットであった。

結果として、性体験のある女子と、性体験のない女子とでは、順位2と3の漫

画コミックスと性教育が逆転していた。性体験者のある女子は、性体験のない女子に比べて友人に次いで、漫画コミックスの影響をより強く受けていた(表7-8)。

表7-7 性体験（男性）の有無と性に影響を与えたもの

n=1205

項目	性体験	ある						ない						
		影響した	%	影響しない	%	どちらともいえない	%	影響した	%	影響しない	%	どちらともいえない	%	
親		29	11.65	164	65.86	56	22.49	68	7.23	704	74.81	169	17.96	*
兄弟姉妹		29	11.65	177	71.08	43	17.27	72	7.68	731	78.01	134	14.30	*
友人		209	41.39	27	5.35	20	3.96	618	65.12	204	21.50	127	13.38	**
先輩		164	64.82	60	23.72	29	11.46	381	40.58	403	42.92	155	16.51	**
教師		43	17.27	154	61.85	52	20.88	138	14.71	609	64.93	191	20.36	ns
新聞や雑誌の記事		99	39.13	111	43.87	43	17.00	324	34.47	440	46.81	176	18.72	ns
漫画コミックス		144	56.69	77	30.31	33	12.99	430	45.31	338	35.62	181	19.07	**
その他の本		53	21.29	93	37.35	103	41.37	215	22.95	402	42.90	320	34.15	ns
性教育(学校で行われた)		107	42.63	97	38.65	47	18.73	418	44.28	316	33.47	210	22.25	ns
テレビラジオ		77	30.92	128	51.41	44	17.67	268	28.45	496	52.65	178	18.90	ns
ビデオ		122	48.41	82	32.54	48	19.05	292	31.13	473	50.43	173	18.44	**
インターネット		131	52.19	76	30.28	44	17.53	385	40.96	379	40.32	176	18.72	**

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

(欠損値は削除)

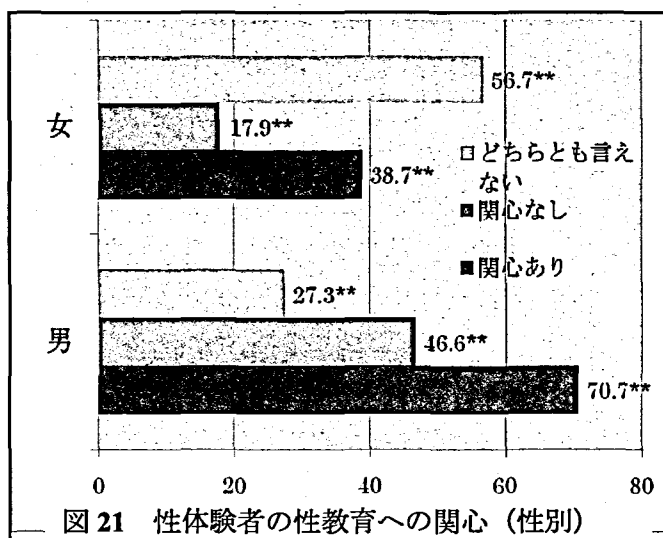
表7-8 性体験（女性）の有無と性に影響を与えたもの

n=1364

項目	性体験	ある						ない						
		影響した	%	影響しない	%	どちらともいえない	%	影響した	%	影響しない	%	どちらともいえない	%	
親		50	12.29	263	64.62	94	23.10	134	14.03	627	65.65	194	20.31	ns
兄弟姉妹		68	16.79	263	64.94	74	18.27	109	11.50	708	74.68	131	13.82	*
友人		306	74.27	43	10.44	63	15.29	560	58.82	204	21.43	188	19.75	**
先輩		156	38.33	174	42.75	77	18.92	199	21.04	583	61.63	164	17.34	**
教師		55	13.61	266	65.84	83	20.54	125	13.20	644	68.00	178	18.80	ns
新聞や雑誌の記事		153	37.59	171	42.01	83	20.39	387	40.69	371	39.01	193	20.29	ns
漫画コミックス		210	51.47	119	29.17	79	19.36	493	51.73	250	26.23	210	22.04	ns
その他の本		101	24.94	215	53.09	89	21.98	229	24.57	501	53.76	202	21.67	ns
性教育(学校で行われた)		199	48.77	115	28.19	94	23.04	545	57.19	220	23.08	188	19.73	*
テレビラジオ		91	22.47	210	51.85	104	25.68	255	27.07	480	50.96	207	21.97	ns
ビデオ		59	14.57	248	61.23	98	24.20	70	7.43	691	73.35	180	19.11	**
インターネット		71	17.49	244	60.10	91	22.41	171	18.11	581	61.55	192	20.34	ns

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

(欠損値は削除)



2) 性体験と性教育の経験・性教育のニーズ

性差にかかわらず性体験のある者は、体験のない者よりも、性教育に関心があった (表 8-1. 2) (図 21)。

表8-1 性体験 (男性) の有無と性教育への関心 n=1175

項目	性体験	ある	%	ない	%	
知りたい		224	88.89	657	71.18	**
知りたくない		28	11.11	266	28.82	

χ^2 検定 **p < 0.01

(欠損値は削除)

表8-2 性体験 (女性) の有無と性教育への関心 n=1296

項目	性体験	ある	%	ない	%	
知りたい		331	83.17	620	69.04	**
知りたくない		67	16.83	278	30.96	

χ^2 検定 *p < 0.05 **p < 0.01

(欠損値は削除)

また、性差にかかわらず性体験者の、性教育受講経験は低かった (表 8-3. 4) (図 20)。

表8-3 性体験 (男性) の有無と性教育の経験 n=1225

項目	性体験	ある	%	ない	%	
性教育体験ある		254	21.17	4	16.00	ns
性教育体験ない		946	78.83	21	84.00	

χ^2 検定

(欠損値は削除)

表8-4 性体験 (女性) の有無と性教育の経験 n=1389

項目	性体験	ある	%	ない	%	
性教育体験ある		474	30.04	3	27.27	ns
性教育体験ない		964	69.96	8	72.73	

χ^2 検定

(欠損値は削除)

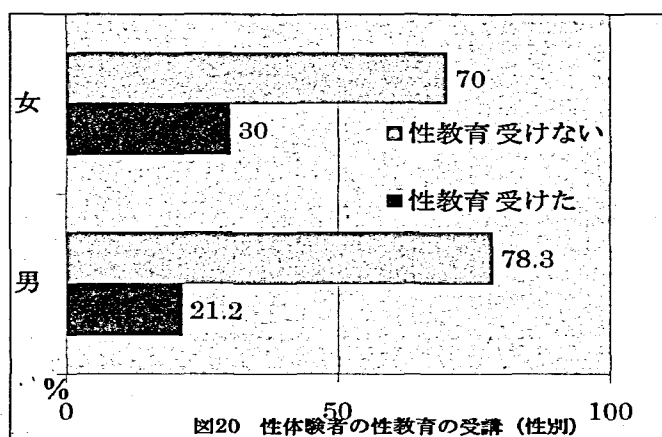


図20 性体験者の性教育の受講 (性別)

性体験のある男子の学府別の性教育ニーズは、小学生では、男女平等・差別＞男女の体のしくみ＞異性の心＞男女のつきあい＞妊娠出産＞エイズ＞胎児の成長と能力であった。中学生では、エイズをのぞく性感染症＞避妊の方法＞マスターベーション＞人工妊娠中絶＞エイズ＞性被害の対処＞

男女のつきあい＞セックス＞妊娠や出産であった。

高校生では、性は人生にどういう意味を持つか＞愛とは何か＞性の被害の対処法＞人工妊娠中絶＞セックス＞胎児の成長と能力＞妊娠や出産＞避妊の方法であった。

大学生では、性は人生にとってどんな意味をもつか＞愛とは何か＞妊娠出産・セックス＞性被害の対処であった。

性体験のない男子の学府別の性教育ニーズは、小学生では、男女平等・差別＞男女の体のしくみ＞異性の心＞妊娠出産＞男女のつきあい＞エイズ＞愛とはなにかであった。中学生では、エイズをのぞく性感染症＞避妊の方法＞エイズ＞マスターベーション＞男女のつきあい＞人工妊娠中絶＞性被害の対処＞異性の心＞セックスであった。

高校生では、性の被害の対処法＞人工妊娠中絶＞性は人生にどういう意味を持つか＞セックス＞愛とは何か＞避妊の方法であった。

大学生では、性は人生にとってどんな意味をもつか＞愛とはなにか＞妊娠出産・セックス＞性被害の対処・胎児の成長であった（表8-5）。

性体験のある女子の学府別の性教育ニーズは、小学生では、男女平等・差別＞男女の体のしくみ＞異性の心＞妊娠、出産＞エイズ＞男女のつきあい＞胎児の成長と能力＞愛とはなにかであった。

中学生では、避妊の方法＞エイズをのぞく性感染症＞男女のつきあい＞エイズ＞人工妊娠中絶＞マスターベーション＞性被害の対処＞セックスであった。

高校生では、性は人生にどういう意味を持つか＞人工妊娠中絶＞性の被害の対処法＞胎児の成長と能力＞セックス＞エイズをのぞく性感染症であった。

大学生では、性は人生にとってどんな意味をもつか＞愛とはなにかであった。

性体験のない女子の学府別の性教育ニーズは、小学生では、男女の体のしくみ＞男女平等・差別＞異性の心＞妊娠出産＞エイズ＞胎児の成長と能力＞男女のつきあいであった。

中学生では、避妊の方法＞エイズをのぞく性感染症＞男女のつきあい＞エイズ＞セックス＞人工妊娠中絶＞異性の心＞性被害の対処＞妊娠出産であった。

高校生では、人工妊娠中絶＞性の被害の対処法＞性は人生にどういう意味を持つか＞愛とは何か＞胎児の成長と能力＞セックス＞避妊の方法であった。

大学生では、愛とはなにか＞性は人生にとってどんな意味をもつか＞男女の体のしくみ＞セックスであった（表8-6）。

このことから性差に関わりなく性体験による教育ニーズについては、小学生、中学生、高校生、大学生では多少の順位の変動がみられるが差があまりないといえる。また、学年が進むにつれて、抽象的、概念的な考え方に対するニーズが高まっていた。さらに、中学生の性教育に対するニーズはもっとも高く、ついで小学生、高校生であった。大学生になると性教育に対するニーズは激減していた。今回の結果から、性体験があってもなくても性教育ニーズに対する差がないことがわかった。

表8-5 性体験（男性）の有無と性教育のニーズ

n=876

項目 時期	ある										ない														
	小学生	%	中学生	%	高校生	%	大学生	%	個人によって異なる	%	小学生	%	中学生	%	高校生	%	大学生	%	個人によって異なる	%		必要はない	%		
男女の身体の仕組み (違いや第二性徴について)	110	49.77	95	42.986	4	1.81	0	0.00	9	4.07	3	1.36	282	43.451	288	44.376	26	4.01	1	0.15	49	7.55	3	0.46	ns
異性の心	97	43.89	104	47.059	7	3.17	0	0.00	10	4.52	3	1.36	219	33.641	329	50.538	35	5.38	4	0.61	61	9.37	3	0.46	*
男女のつきあい	75	33.78	121	54.505	14	6.31	1	0.45	8	3.60	3	1.35	143	21.966	380	58.372	60	9.22	6	0.92	59	9.06	3	0.46	**
マスターベーション	43	19.46	137	61.991	13	5.88	1	0.45	20	9.05	7	3.17	62	9.6124	386	59.845	72	11.16	4	0.62	109	16.90	12	1.86	**
性行為(セックス)	33	14.80	120	53.812	46	20.63	5	2.24	16	7.17	3	1.35	52	7.9877	324	49.77	153	23.50	14	2.15	100	15.36	8	1.23	**
避妊の方法	47	21.27	144	65.158	21	9.50	1	0.45	6	2.71	2	0.90	53	8.1538	401	61.692	130	20.00	4	0.62	58	8.92	4	0.62	**
妊娠や出産(生命誕生)	71	31.84	108	48.43	22	9.87	5	2.24	13	5.83	4	1.79	170	26.034	320	49.005	89	13.63	14	2.14	58	8.88	2	0.31	*
性感染症(エイズ除く)	50	22.52	146	65.766	17	7.66	0	0.00	7	3.15	2	0.90	85	13.077	418	64.308	92	14.15	4	0.62	49	7.54	2	0.31	**
エイズ	68	30.77	128	57.919	17	7.69	0	0.00	6	2.71	2	0.90	128	19.662	394	60.522	75	11.52	5	0.77	46	7.07	3	0.46	**
男女の平等、差別について	122	55.45	76	34.545	13	5.91	0	0.00	5	2.27	4	1.82	349	53.364	218	33.333	34	5.20	4	0.61	44	6.73	5	0.76	ns
胎児の成長と能力	62	28.18	107	48.636	41	18.64	0	0.00	8	3.64	2	0.91	169	25.96	306	47.005	104	15.98	10	1.54	56	8.60	6	0.92	ns
人工妊娠中絶について	32	14.41	134	60.36	46	20.72	1	0.45	7	3.15	2	0.90	46	7.0444	364	55.743	172	26.34	5	0.77	59	9.04	7	1.07	**
性の被害(レイプや性暴力)の対処法	39	17.65	121	54.751	47	21.27	3	1.36	8	3.62	3	1.36	60	9.2166	339	52.074	174	26.73	10	1.54	60	9.22	8	1.23	**
愛とは何か	58	26.36	89	40.455	47	21.36	5	2.27	18	8.18	3	1.36	115	17.611	258	39.51	136	20.83	27	4.13	104	15.93	13	1.99	**
性は人生にどういう意味を持つか	42	19.27	94	43.119	56	25.69	7	3.21	14	6.42	5	2.29	94	14.484	261	40.216	153	23.57	30	4.62	91	14.02	20	3.08	*
合計	949		1724		411		29		155		48		2027		4986		1505		142		1003		99		

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

表8-6 性体験（女性）の有無と性教育のニーズ

n=939

項目 時期	ある											ない													
	小学生	%	中学生	%	高校生	%	大学生	%	個人によって異なる	%	知る必要はない	%	小学生	%	中学生	%	高校生	%	大学生	%	個人によって異なる	%		知る必要はない	%
男女の身体の仕組み (違いや第二性徴について)	167	52.02	137	42.679	6	1.87	0	0.00	9	2.80	2	0.62	356	59.14	215	35.71	10	1.66	19	3.16	0	0.00	2	0.33	ns
異性の心	107	32.72	190	58.10	18	5.50	0	0.00	11	3.36	1	0.31	204	33.61	330	54.37	27	4.45	1	0.16	44	7.25	1	0.16	ns
男女のつきあい	73	22.46	222	68.31	18	5.54	0	0.00	11	3.38	1	0.31	118	19.41	397	65.30	40	6.58	2	0.33	49	8.06	2	0.21	ns
マスターベーション	22	7.05	198	63.46	29	9.29	3	0.96	47	15.06	13	4.17	27	4.84	321	34.19	74	7.88	4	0.43	101	10.76	31	3.30	ns
性行為（セックス）	37	11.46	195	60.37	63	19.50	2	0.62	25	7.74	1	0.31	45	8.06	343	61.47	127	22.76	15	2.69	72	12.90	1	0.18	*
避妊の方法	44	13.46	249	76.15	27	8.26	1	0.31	6	1.83	0	0.00	35	5.72	427	69.77	120	19.61	8	1.31	20	3.27	2	0.33	**
妊娠や出産（生命誕生）	99	30.37	173	53.07	35	10.74	1	0.31	18	5.52	0	0.00	181	29.97	319	52.81	81	13.41	9	1.49	14	2.32	0	0.00	*
性感染症(エイズ除く)	45	13.76	239	73.09	37	11.31	0	0.00	6	1.83	0	0.00	83	13.65	424	69.74	89	14.64	3	0.49	8	1.32	1	0.17	ns
エイズ	77	23.62	215	65.95	30	9.20	0	0.00	4	1.23	0	0.00	144	23.57	393	64.32	66	10.80	0	0.00	5	0.53	3	0.49	ns
男女の平等、差別について	187	57.89	109	33.75	16	4.95	1	0.31	8	2.48	2	0.62	345	57.21	203	33.67	44	7.30	2	0.33	9	1.49	0	0.00	ns
胎児の成長と能力	65	20.12	178	55.11	65	20.12	3	0.93	12	3.72	0	0.00	136	22.48	300	49.59	140	23.14	8	1.32	20	3.31	1	0.17	ns
人工妊娠中絶について	19	5.85	213	65.54	83	25.54	2	0.62	8	2.46	0	0.00	25	4.13	366	60.40	190	31.35	5	0.83	16	2.64	4	0.66	ns
性の被害(レイプや性暴力)の対処法	31	9.63	200	62.11	72	22.36	3	0.93	15	4.66	1	0.31	48	7.93	322	53.22	180	29.75	14	2.31	36	5.95	5	0.83	*
愛とは何か	56	17.34	127	13.53	90	9.58	10	1.06	39	4.15	1	0.11	90	14.83	218	35.91	148	24.38	23	3.79	123	20.26	5	0.82	*
性は人生にどういう意味を持つか	47	5.01	139	42.03	84	26.01	12	3.72	31	9.60	3	0.93	60	10.10	249	41.92	148	24.92	22	3.70	102	17.17	13	2.19	*
合計	1076		2784		673		38		250		25		1897		4827		1484		135		619		28		

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

3) 性体験と性交渉・胎児・人工妊娠中絶・性感染症・避妊に対する意識

性体験と学生の性交渉に関する考えでは、性体験のある男子では、性体験のない男子と比して、学生の性交渉については、基本的に“個人の自由”と考えている者が多かった。

性体験にかかわらず、男子は学生の性交渉に関して、“周りがしているからよい”という考えを支持していない。性体験のない男子では、体験のある男子と比し、学生の性交渉については、“責任のとれる年齢と立場になってからすべきだ”と考えている者が多かった（表9-1）。

表9-1 性体験（男性）の有無と学生の性交渉に対する考え

n=1222

項目 性体験	ある				ない				
	賛成	%	反対	%	賛成	%	反対	%	
性行為は妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢と立場になってからすべきだ	127	50.00	127	50.00	755	79.31	197	20.69	**
妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい	120	47.62	132	52.38	716	76.33	222	23.67	**
妊娠によって一つの命が育まれるのであり、学生であっても責任をとる覚悟があるのならよい	199	78.04	56	21.96	618	64.58	339	35.42	**
個人の自由である	205	79.77	52	20.23	627	64.97	338	35.03	**
妊娠さえ気を付ければしてもよい	195	76.77	59	23.23	523	55.34	422	44.66	**
周りの人がしていると聞いているのでしてもかまわない	108	43.55	140	56.45	264	28.42	665	71.58	**

χ^2 検定 **p<0.01

(欠損値は削除)

一方、性体験のある女子は、病気・妊娠の覚悟あるならしてもよい>個人の自由である>避妊に気がつけたらしてもよい>性行為は積極的に遅くするべき>なるべくしない方がよい>周りがしているからよいの順であった。性体験のない女子では、体験のある女子と比し、学生の性交渉については、“責任のとれる年齢と立場になってからすべきだ”と考えている者が多かった（表9-2）。

このことから性体験の有無にかかわらず、学生の性交渉に関して、“周りがしているからよい”という考えは支持していないといえる。

表9-2 性体験（女性）の有無と学生の性交渉に対する考え

n=1363

項目 性体験	ある				ない				
	賛成	%	反対	%	賛成	%	反対	%	
性行為は妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢と立場になってからすべきだ	240	60.76	155	39.24	834	87.51	119	12.49	**
妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい	208	53.47	181	46.53	699	75.08	232	24.92	**
妊娠によって一つの命が育まれるのであり、学生であっても責任をとる覚悟があるのならばよい	334	82.88	69	17.12	666	69.38	294	30.63	**
個人の自由である	329	81.03	77	18.97	612	63.95	345	36.05	**
妊娠さえ気をつければしてもよい	303	75.56	98	24.44	466	50.95	463	49.84	**
周りの人がしていると聞いているのでしてもかまわない	145	37.76	239	62.24	168	18.56	737	81.44	**

 χ^2 検定 **p < 0.01

(欠損値は削除)

性体験の有無と胎児の生命の始期に対する意識では、男子の性体験のあるものは、性体験のないものよりも、胎児生命の始期について考えた事がない者が多く（表9-3）、女子では性体験の有無にかかわらず、胎児生命の始期について、考えたことがない者の方が多い（表9-4）。

表9-3 性体験（男性）の有無と胎児に対する意識

n=1186

項目 性体験	ある				ない				
	はい	%	いいえ	%	はい	%	いいえ	%	
考えたことがない	240	39.02	150	60.98	509	54.15	431	45.85	**
胎児といえども1人1人がかけがえのない存在であり、命を大切に考えたい	208	95.95	10	4.05	896	95.83	39	4.17	ns
法律で中絶が認められている範囲においては人として考えなくてよい	334	17.84	198	82.16	179	19.74	728	80.26	ns
お腹の中にいる胎児はまだ人として考えなくていい	329	7.50	222	92.50	78	8.51	839	91.49	ns

 χ^2 検定 **p < 0.01

(欠損値は削除)

表9-4 性体験（女性）の有無と胎児に対する意識

n=1372

項目 性体験	ある				ない				
	はい	%	いいえ	%	はい	%	いいえ	%	
考えたことがない	93	23.48	303	76.52	363	38.99	568	61.01	**
胎児といえども1人1人がかけがえのない存在であり、命を大切に考えたい	406	98.78	5	1.22	946	98.34	16	1.66	ns
法律で中絶が認められている範囲においては人として考えなくてよい	36	9.09	360	90.91	61	6.54	872	93.46	ns
お腹の中にいる胎児はまだ人として考えなくていい	4	0.99	399	99.01	15	1.60	925	98.40	ns

 χ^2 検定 **p < 0.01

(欠損値は削除)

性体験にかかわらず、男子の人工妊娠中絶に関する意識では差がなかった。性体験のない女子は、体験のある女子よりも、人工妊娠中絶に対して、“どう考えてよいかわからない（どう態度を表明するべきかわからない）”とする者が多かった（表9-5.6）。

表9-5 性体験（男性）の有無と人工妊娠中絶の意識

n=1546

項目 性体験	ある				ない				
	賛成	%	反対	%	賛成	%	反対	%	
医学的理由（妊娠を続けると母体の生命が危険）以外は絶対避けるべき	165	67.62	79	32.38	608	66.89	301	33.11	ns
望まない妊娠ならばしても仕方がない	147	60.49	96	39.51	518	57.43	384	42.57	ns
経済的理由ならばしても仕方がない	137	56.61	105	43.39	492	54.85	405	45.15	ns
女性の意思選択権として行われても仕方がない	155	64.58	85	35.42	548	61.43	344	38.57	ns
どう考えたらよいか分からない	106	48.18	114	51.82	463	56.05	363	43.95	*

χ^2 検定 **p<0.01

(欠損値は削除)

表9-6 性体験（女性）の有無と人工妊娠中絶の意識

n=1294

項目 性体験	ある				ない				
	賛成	%	反対	%	賛成	%	反対	%	
医学的理由（妊娠を続けると母体の生命が危険）以外は絶対避けるべき	250	64.10	140	35.90	631	69.80	273	30.20	*
望まない妊娠ならばしても仕方がない	210	54.26	177	45.74	447	50.00	447	50.00	ns
経済的理由ならばしても仕方がない	189	48.96	197	51.04	385	43.55	499	56.45	ns
女性の意思選択権として行われても仕方がない	189	50.53	185	49.47	440	50.69	428	49.31	ns
どう考えたらよいか分からない	167	48.69	176	51.31	449	57.42	333	42.58	**

χ^2 検定 **p<0.01

(欠損値は削除)

性体験と性感染症の知識では、性体験のある男子では、ないものに比べ性感染症を遺伝性であると思っている者が多い。性体験のない男子では、性体験のある者に比べ、“性感染症のことがよくわからない”と考える者が多かった。

性体験にかかわらず、男子は性感染症についてはパートナーとともに治療が必要であると捉えていた（表9-10）。

女子についても性感染症についてはパートナーとともに治療が必要であると捉えており、エイズには早期発見が発症を防ぐために必要だという認識があった（表9-11）。

表9-10 性体験（男性）の有無と性感染性の知識

n=1195

項目	ある						ない						
	はい	%	いいえ	%	わからない	%	はい	%	いいえ	%	わからない	%	
遺伝する病気ではない	79	31.73	112	44.98	58	23.29	288	32.51	334	37.70	324	36.57	**
ウイルスが原因で感染する病気である	159	63.86	35	14.06	55	22.09	553	58.77	127	13.50	261	27.74	ns
コンドームは感染予防に効果がある	226	91.13	10	4.03	12	4.84	815	86.33	36	3.81	93	9.85	*
日本では患者が増加している	211	85.43	4	1.62	32	12.96	732	77.54	22	2.33	190	20.13	*
健康そうに見えていても感染していることがある	224	90.69	4	1.62	19	7.69	805	85.37	19	2.01	119	12.62	ns
主に性行為によって感染する	223	90.28	5	2.02	19	7.69	813	86.21	24	2.55	106	8.87	ns
性感染症にはエイズも含まれている	201	80.72	14	5.62	34	13.65	733	78.14	51	5.44	154	16.33	ns
性感染症は自分だけが治療すればよい	21	8.47	198	79.84	29	11.69	72	7.68	676	72.07	190	20.26	**
早期に感染を知ることによってエイズの発症を防げる	119	47.98	72	29.03	57	22.98	424	45.11	242	25.74	274	29.15	ns
性感染症のことはよく分からない	104	46.43	120	53.57	0	0.00	493	58.07	356	41.93	0	0.00	**

 χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

(欠損値は削除)

表9-11 性体験（女性）の有無と性感染性の知識

n=1357

項目	ある						ない						
	はい	%	いいえ	%	わからない	%	はい	%	いいえ	%	わからない	%	
遺伝する病気ではない	119	29.24	159	39.07	129	31.70	351	36.79	333	34.91	270	28.30	*
ウイルスが原因で感染する病気である	238	58.77	44	10.86	123	30.37	541	57.01	115	12.12	293	30.87	ns
コンドームは感染予防に効果がある	360	88.45	19	4.67	28	6.88	812	84.85	60	6.27	85	8.88	ns
日本では患者が増加している	358	88.18	3	0.74	45	11.08	825	86.12	12	1.25	121	12.63	ns
健康そうに見えていても感染していることがある	382	94.09	0	0.00	24	5.91	888	92.69	6	0.63	64	6.68	ns
主に性行為によって感染する	372	91.85	4	0.99	29	7.16	874	91.23	20	2.09	64	4.72	ns
性感染症にはエイズも含まれている	341	84.20	16	3.95	48	11.85	813	84.86	31	3.24	114	11.90	ns
性感染症は自分だけが治療すればよい	8	1.98	360	89.11	36	8.91	33	3.44	791	82.57	134	13.99	**
早期に感染を知ることによってエイズの発症を防げる	228	56.58	73	18.11	102	25.31	443	46.44	205	21.49	306	32.08	**
性感染症のことはよく分からない	193	53.31	169	46.69	0	0.00	494	51.78	338	35.43	0	0.00	*

 χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

(欠損値は削除)

性体験と避妊の知識では性体験のある男子では、性体験のない者よりも、避妊の方法について知るものが多かった。性体験の有無にかかわらず、男子はコンドーム、ピルについて知っている者が多く、月経からの日にちの数え方、基礎体温、膣外射精法、女子用コンドームの知識がある者が多かったが、ペッサリー、緊急避妊法、IUDの知識がない者も多かった（表9-12）。

性体験のある女子では、性体験のない者よりも、避妊の方法について知っている者が多く、特に基礎体温、膣外射精法、女子用コンドームの知識がある者が多かった。しかし、ペッサリー、緊急避妊法、IUDに関して知らない者が多かった（表9-13）。

表9-12 性体験（男性）の有無と避妊の知識

n=1191

項目 性体験	ある						ない						
	はい	%	いいえ	%	わからない	%	はい	%	いいえ	%	わからない	%	
コンドーム	244	96.83	1	0.40	7	2.78	885	94.249	7	0.75	47	5.01	ns
ピル（経口避妊薬）	232	92.80	9	3.60	9	3.60	740	80	79	8.54	106	11.46	**
フィルム状避妊薬	84	34.71	116	47.93	42	17.36	277	30.406	411	45.12	223	24.48	ns
月経からの日数を数える	156	63.93	56	22.95	32	13.11	479	52.179	227	24.73	212	23.09	**
基礎体温を測る	143	58.85	65	26.75	35	14.40	469	51.369	246	26.94	198	21.69	*
膈外射精法 （精液を外に出すこと）	186	76.86	40	16.53	16	6.61	587	64.013	168	18.32	162	17.67	**
女性用コンドーム	175	71.43	52	21.22	18	7.35	443	48.31	276	30.10	198	21.59	**
ベッサリ	91	37.76	110	45.64	40	16.60	185	20.263	452	49.51	276	30.23	**
緊急避妊法	62	26.05	125	52.52	51	21.43	143	15.714	480	52.75	287	31.54	**
IUD（避妊リング）	80	33.47	112	46.86	47	19.67	196	21.491	433	47.48	283	31.03	**
避妊方法については よく分からない	53	26.77	145	73.23	0	0.00	405	52.124	372	47.88	0	0.00	**

 χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

(欠損値は削除)

表9-13 性体験（女性）の有無と避妊の知識

n=1367

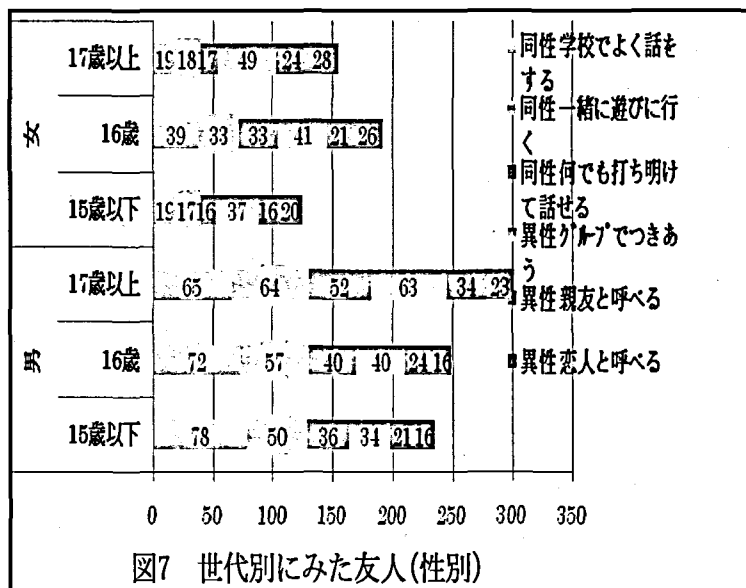
項目 性体験	ある						ない						
	はい	%	いいえ	%	わからない	%	はい	%	いいえ	%	わからない	%	
コンドーム	406	99.02	1	0.24	3	0.73	942	98.433	3	0.31	12	1.25	ns
ピル（経口避妊薬）	390	95.35	8	1.96	11	2.69	878	92.518	31	3.27	40	4.21	ns
フィルム状避妊薬	101	25.63	185	46.95	108	27.41	197	21.46	476	51.85	245	26.69	ns
月経からの日数を数える	296	73.82	64	15.96	41	10.22	626	67.457	169	18.21	133	14.33	*
基礎体温を測る	304	76.19	57	14.29	38	9.52	629	67.634	174	18.71	127	13.66	**
膈外射精法 （精液を外に出すこと）	314	80.10	55	14.03	23	5.87	465	50.543	271	29.46	184	20.00	**
女性用コンドーム	278	69.85	76	19.10	44	11.06	479	51.784	259	28.00	187	20.22	**
ベッサリ	125	32.30	158	40.83	104	26.87	192	21.03	425	46.55	296	32.42	**
緊急避妊法	118	30.41	163	42.01	107	27.58	124	13.626	470	51.65	316	34.73	**
IUD（避妊リング）	126	32.39	161	41.39	102	26.22	195	21.429	423	46.48	292	32.09	**
避妊方法については よく分からない	105	31.72	226	68.28	0	0.00	444	58.039	321	41.96	0	0.00	**

 χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

(欠損値は削除)

5 世代・地区・在住人口・大学進学率からみた性差による性意識の特徴

1) 友人や性の影響・性体験と初交年齢



友人では性差に関わりなく同性、異性共に世代が高くなるにつれて、学校でよく話しをする＞一緒に遊びに行く＞何でもうちあけて話す友人の保有率が高くなる(表10-1. 2. 4. 5)。また、男子では、「グループでつきあう異性の友人」と「親友と呼べる異性の友人」とでは、世代が高くなるに

従って友人の保有率が高まっていた(表10-2)。女子では、年齢が高くなるに従って、「グループでつきあう異性の友人」「親友と呼べる異性の友人」「恋人と呼べる異性の友人」のいずれの友人の保有率が高くなっていた(表10-4. 5)(図7)。

表10-1 同性の友人(男性)と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

同性の友人 属性		世代 n=1274(欠損値は削除)(%)			学校所在地区 n=1310(欠損値は削除)(%)			
		16歳	17歳	18歳以上	北信	中信	東信	南信
学校でよく話をする	いる	277(78.0)*	562(72.4)*	93(65.0)*	370(70.6)	323(72.4)	52(74.3)	211(78.1)
	いない	78(22.0)*	214(27.6)*	50(35.0)*	154(29.4)	123(27.6)	18(25.7)	59(21.9)
一緒に遊びに行く	いる	178(50.1)**	453(57.4)**	92(64.3)**	297(56.8)	250(56.1)	34(48.6)	162(60.0)
	いない	177(49.9)**	322(42.6)**	51(35.7)**	226(43.2)	196(43.9)	36(51.4)	108(40.0)
何でも打ち明けて話せる	いる	126(35.5)**	311(40.1)**	75(52.4)**	195(37.2)*	191(42.8)*	20(28.6)*	124(45.9)*
	いない	229(64.5)**	465(59.9)**	68(47.6)**	329(62.8)*	255(57.2)*	50(71.4)*	146(54.1)*

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

表10-2 異性の友人(男性)と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

異性の友人 属性		世代 n=1274(%)			学校所在地区 n=1310(%)				大学進学率 n=1148(%)		
		16歳	17歳	18歳以上	北信	中信	東信	南信	50%以上	50%未満 20%以上	20%未満
グループでつきあう	いる	119(33.5)**	308(39.7)**	90(62.9)**	200(38.2)**	181(40.6)**	45(64.3)**	113(41.9)**	164(39.0)	103(39.8)	170(36.3)
	いない	236(66.5)**	468(60.3)**	53(37.1)**	324(61.8)**	265(59.4)**	25(35.7)**	157(58.1)**	257(61.0)	156(60.2)	298(63.7)
親友と呼べる	いる	76(21.4)*	183(23.6)*	48(33.6)*	105(20.0)	119(26.7)	18(25.7)	72(26.7)	88(20.9)	54(20.8)	122(26.1)
	いない	279(78.6)*	593(76.4)*	95(66.4)*	419(80.0)	327(73.3)	52(74.3)	198(73.3)	333(79.1)	205(79.2)	346(73.9)
恋人と呼べる	いる	58(16.3)	122(15.7)	33(23.1)	69(13.2)*	86(19.3)*	13(18.6)*	54(20.0)*	52(12.4)*	43(16.6)*	89(19.0)*
	いない	297(83.7)	654(84.3)	110(76.9)	455(86.8)*	360(80.7)*	57(81.4)*	216(80.0)*	369(87.6)*	216(83.4)*	379(81.0)*

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

表10-3 性の関心（男性）と世代、在住人口、学校地区、大学進学率

性の関心 属性	世代 n=1225(%)			大学進学率 n=1099(%)		
	16歳	17歳	18歳以上	50%以上	50%未満～ 20%以上	20%未満
ある	168(48.8)**	356(48.2)**	101(71.1)**	216(54.8)**	118(47.4)**	198(43.4)**
ない	28(8.1)**	57(7.7)**	2(1.4)**	27(6.9)**	14(5.6)**	44(9.6)**
どちらともいえない	148(43.1)**	326(44.1)**	39(27.5)**	151(38.3)**	117(47.0)**	214(47.0)**

 χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

表10-4 同性の友人（女性）と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

同性の友人 属性		学校所在地区 n=1503(%)			
		北信	中信	東信	南信
学校でよく話をする	いる	419(74.0)	371(80.1)	65(77.4)	297(76.2)
	いない	147(26.0)	92(19.9)	19(22.6)	93(23.8)
一緒に遊びに行く	いる	354(62.5)**	344(74.3)**	39(46.4)**	285(73.1)**
	いない	212(37.5)**	119(25.7)**	45(53.6)**	105(26.9)**
何でも打ち明けて話せる	いる	362(64.0)*	314(67.8)*	44(52.4)*	262(67.2)*
	いない	204(36.0)*	149(32.2)*	40(47.6)*	128(32.8)*

 χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

表10-5 異性の友人（男性）と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

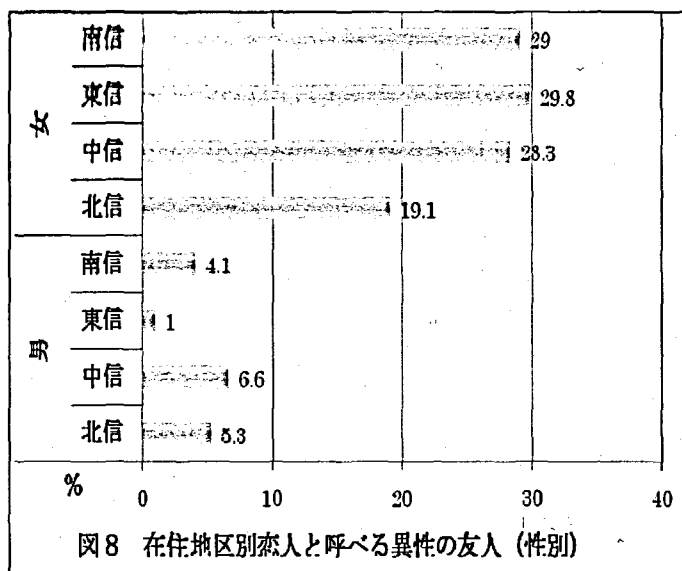
異性の友人 属性		世代 n=1274(%)			学校所在地区 n=1503(%)				大学進学率 n=1113(%)		
		16歳	17歳	18歳以上	北信	中信	東信	南信	50%以上	50%未満～ 20%以上	20%未満
グループでつきあう	いる	119(33.5)**	297(40.9)**	180(49.3)**	213(37.6)	211(45.6)	36(42.9)	171(43.8)	143(39.9)	137(38.9)	155(37.2)
	いない	236(66.5)**	430(59.1)**	185(50.7)**	353(62.4)	252(54.4)	48(57.1)	219(56.2)	215(60.1)	201(60.1)	262(62.8)
親友と呼べる	いる	76(21.4)*	151(20.8)*	88(24.1)*	99(17.5)*	113(24.4)*	15(17.9)*	86(22.1)*	62(17.3)	71(20.2)	80(19.2)
	いない	76(21.4)*	576(79.2)*	277(75.9)*	467(82.5)*	350(75.6)*	69(82.1)*	304(77.9)*	296(82.7)	267(79.8)	337(80.8)
恋人と呼べる	いる	76(21.4)*	187(25.7)*	102(27.9)*	108(19.1)**	131(28.3)**	25(29.8)**	113(29.0)**	75(20.9)**	68(19.3)**	123(29.5)**
	いない	76(21.4)*	540(74.3)*	263(72.1)*	458(80.9)**	332(71.1)**	59(70.2)**	277(71.0)**	283(79.1)**	270(80.7)**	294(70.5)**

 χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

表10-6 性の関心（女性）と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

性の関心 属性	世代 n=1394(%)			学校所在地区 n=1427(%)			
	16歳	17歳	18歳以上	北信	中信	東信	南信
ある	59(16.5)**	129(18.9)**	138(39.2)**	96(18.0)**	101(22.7)**	28(34.1)**	111(30.1)**
ない	71(19.8)**	115(16.8)**	25(7.1)**	96(18.0)**	62(14.0)**	16(19.5)**	40(10.8)**
どちらともいえない	228(63.7)**	440(64.3)**	189(53.7)**	281(63.3)**	281(63.3)**	38(46.4)**	218(59.1)**

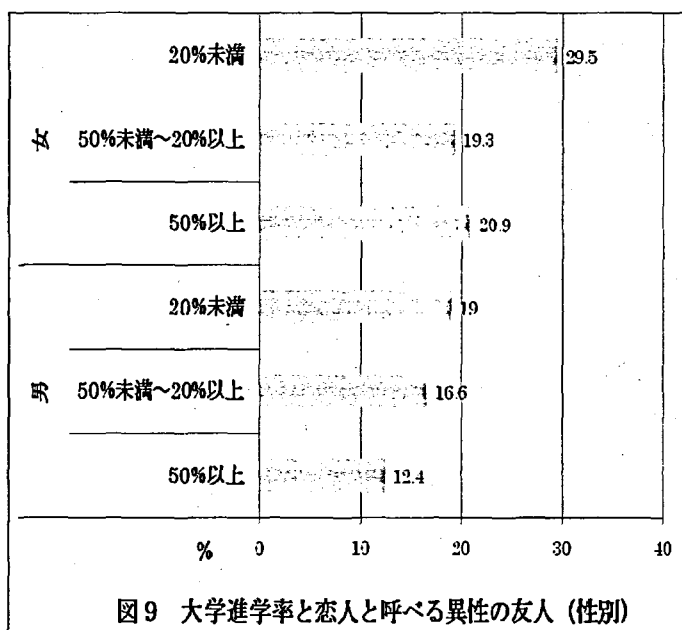
 χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01



異性の友人の順で友人の保有率が少なかった (表 10-1. 2)。

一方、女子の同性の友人との交友関係では、中信>南信>北信>東信の順で、“一緒に遊びに行く”、“何でもうちあけて話す”友人の保有率が少なかった。

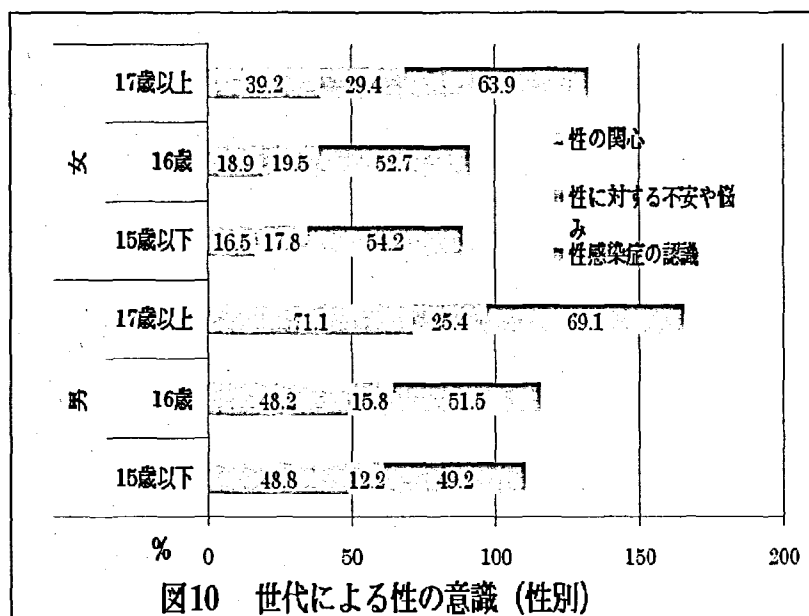
「親友と呼べる異性の友人」の女子の保有率は、中信>南信>東信>北信の順でわずかに差がみられ少なくなっていた。女子の「恋人と呼べる異性の友人」の保有率は、東信>南信>中信>北信の順に少なくなっていた (表 10-4. 5) (図8)。



男子では、いずれの地域においても、同性の友人で、学校でよく話しをする>一緒に遊びに行く>何でもうちあけて話す友人の保有率が少なかった。何でもうちあけて話す友人の保有率は、南信>中信>北信>東信の割合で少なくなっていた。また、いずれの地域においても、グループでつきあう異性の友人>親友と呼べる異性の友人>恋人と呼べる

「恋人と呼べる異性の友人」の保有率は、性差に関わりなく大学進学率50%以上のものに少なく20%未満のものにやや多く、その比率は女子が10%高かった (表 10-2. 5) (図9)。

次いで性への関心では、関心がある世代別の男子の比率は、18歳以上の男子>16歳>17歳の順であった (表 10-3)。



性教育に関する関心の高さは、男子では18歳以上>17歳>16歳の順で年齢が高くなる順に高く、知りたくないという気持ちでは16歳>17歳>18歳以上の順で年齢が高くなるに従い低くなっていた(表10-7)。

性の悩みや不安では、17歳以上>16歳>15歳以下の順で多かった(表10-10)(図10)。

表10-7 性教育への関心(男性)と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

関心 属性	世代 n=1176(%)			学校所在地区 n=1211(%)				大学進学率 n=1052(%)		
	16歳	17歳	18歳以上	北信	中信	東信	南信	50%以上	50%未満~20%以上	20%未満
知りたい	233(70.8)**	530(75.0)**	119(85.0)**	382(79.3)**	310(72.9)**	43(65.2)**	177(74.4)**	305(79.6)**	170(74.2)**	301(68.4)**
知りたくない	96(29.2)**	177(25.0)**	21(15.0)**	100(20.7)**	115(27.1)**	23(34.8)**	61(25.6)**	78(20.4)**	59(25.8)**	139(31.6)**

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

表10-8 性体験(男性)と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

性体験 属性	世代 n=1209(%)			学校所在地区 n=1244(%)				大学進学率 n=1087(%)		
	16歳	17歳	18歳以上	北信	中信	東信	南信	50%以上	50%未満~20%以上	20%未満
ある	41(12.3)**	132(17.9)**	66(47.5)**	61(12.2)**	128(30.1)**	25(37.9)**	47(18.7)**	35(8.7)**	41(17.3)**	101(22.5)**
ない	293(87.7)**	604(82.1)**	73(52.5)**	441(87.8)**	297(69.9)**	41(62.1)**	204(81.3)**	367(91.3)**	196(82.7)**	347(77.5)**

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

表10-9 初体験の年齢(男性)と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

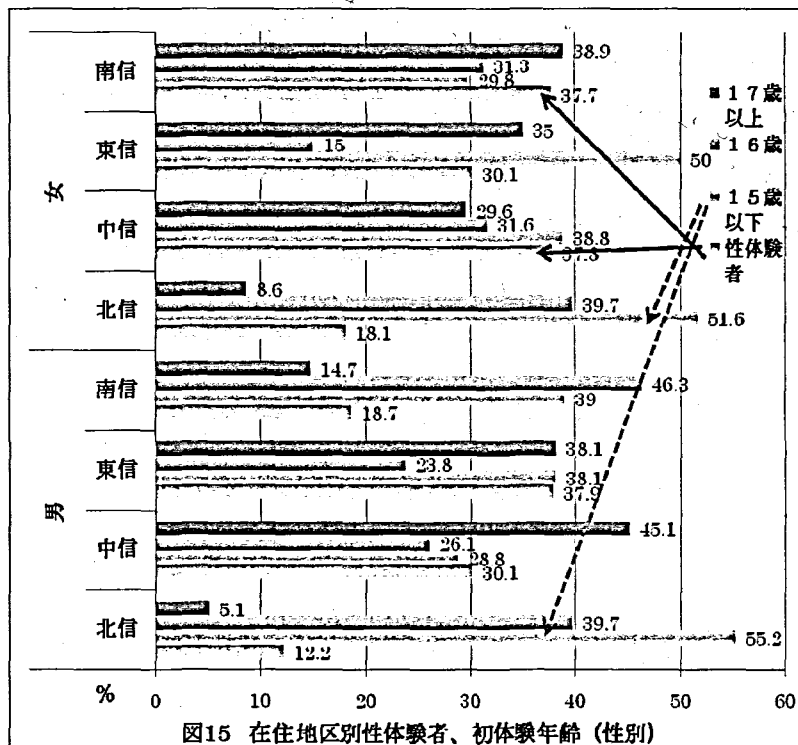
年齢 属性	学校所在地区 n=231(%)			
	北信	中信	東信	南信
15歳以下	32(55.2)**	32(28.8)**	8(38.1)**	16(39.0)**
16歳	23(39.7)**	29(26.1)**	5(23.8)**	19(46.3)**
17歳以上	3(5.1)**	50(45.1)**	8(38.1)**	6(14.7)**

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

表10-10 性の不安や悩み(男性)と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

性の不安、悩み 属性	世代 n=1124(%)			大学進学率 n=1002(%)		
	16歳	17歳	18歳以上	50%以上	50%未満~20%以上	20%未満
ある	38(12.2)**	107(15.8)**	34(25.4)**	73(19.7)**	29(12.9)**	46(11.3)**
ない	274(87.8)**	571(84.2)**	100(74.6)**	298(80.3)**	195(87.1)**	361(88.7)**

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01



次いで初体験年齢別の地区比率では、15歳以下では、北信＞南信＞東信＞中信で多く、16歳では、南信＞北信＞中信＞東信で多く、17歳以上では、中信＞東信＞南信＞北信で多かった(表10-9)(図15)。

東信＞中信＞南信＞北信の順で性体験のある男子が多かった(表10-8)。

一方、女子では、性体

験者は世代が高くなるに従って多くなり(表10-12)中信＞南信＞東信＞北信の順で性体験者が多かった(表10-12)。また、北信＞東信＞中信＞南信の順番で初体験年齢が低い者の比率が高く(表10-13)(図15)、性教育への関心がある世代別の女子の比率は、18歳以上＞17歳＞16歳の順であった(表10-11)。

性に対する不安や悩みでは世代が高くなるに従って高くなり、とくに東信に不安や悩みを持つ者が多く北信が少なかった(表10-14)。

表10-11 性教育への関心(女性)と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

関心	属性	世代 n=1321(%)		
		16歳	17歳	18歳以上
知りたい		230(68.5)**	451(70.1)**	284(83.0)**
知りたくない		106(31.5)**	192(29.9)	58(17.0)**

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

表10-12 性体験(男性)と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

性体験	属性	世代 n=1379(%)			学校所在地区 n=1412(%)				大学進学率 n=1038(%)		
		16歳	17歳	18歳以上	北信	中信	東信	南信	50%以上	50%未満～20%以上	20%未満
ある		84(23.8)**	167(24.7)**	152(43.4)**	97(18.1)**	165(37.8)**	22(30.1)**	138(37.7)**	39(11.4)**	76(24.4)**	139(36.2)**
ない		269(76.2)**	509(75.3)**	198(56.6)**	440(81.9)**	271(62.2)**	51(69.9)**	228(62.3)**	304(88.6)**	235(75.6)**	245(63.8)**

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

表10-13 初体験の年齢(女性)と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

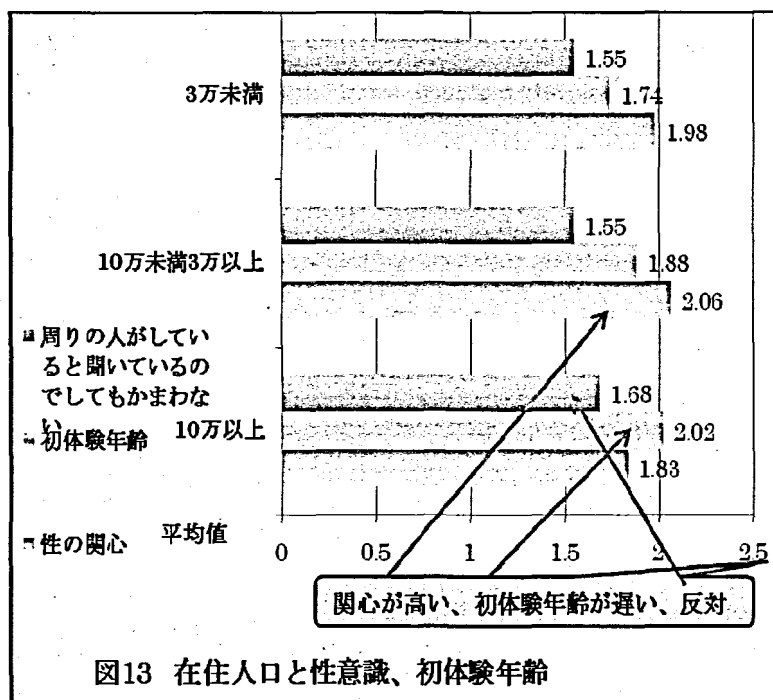
年齢	属性	在住人口 n=360(%)			学校所在地区 n=396(%)			
		10万人以上	10万人以下	3万人以下	北信	中信	東信	南信
15歳以下		54(36.0)*	39(33.6)*	41(43.6)*	48(51.6)**	59(38.8)**	10(50.0)**	39(29.8)**
16歳		40(26.7)*	50(43.1)*	32(34.0)*	37(39.8)**	48(31.6)**	3(15.0)**	41(31.3)**
17歳以上		56(37.3)*	27(23.3)*	21(22.4)*	8(8.6)**	45(29.6)**	7(35.0)**	51(38.9)**

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

表10-14 性の不安や悩み（女性）と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

性の不安、 悩み 属性	世代 n=1124(%)			学校所在地区 n=1412(%)			
	16歳	17歳	18歳以上	北信	中信	東信	南信
ある	60(17.8)**	127(19.5)**	99(29.4)**	80(15.8)**	106(24.9)**	22(28.6)**	86(24.7)
ない	277(82.2)**	523(80.5)**	238(70.6)**	425(84.2)**	319(75.1)**	55(71.4)**	262(75.3)

χ^2 検定 *p < 0.05 **p < 0.01



性体験者の在住人口では、性への関心は10万以上の地域に在住している者に比し、10万から3万未満が高く（表10-16）、初体験年齢は10万以上の地域に在住している者が3万未満に比し高かった（表10-17）。特に女子において、3万未満の地域に15歳未満の初体験年齢の早い者が多かった（表10-13）（図13）。

表10-15 性体験者の在住人口と学生の性交渉に対する意識 一元配置分散分析(平均値, SD)

項目	人口	10万以上	10万未満3万未満	F値
性行為は妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢と立場になってからすべきだ		1.42	1.42	1.432
SD		0.495	0.495	0.502
妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい		1.48	1.48	0.05
SD		0.501	0.501	0.501
妊娠によって一つの命が育まれるのであり、学生であっても責任をとる覚悟があるならばよい		1.21	1.21	1.132
SD		0.406	0.408	0.36
個人の自由である		1.21	1.21	0.669
SD		0.406	0.406	0.372
避妊さえ気をつければしてもよい		1.26	1.24	0.237
SD		0.438	0.426	0.423
周りの人がしていると聞いているのでしてもかまわない		1.68a	1.55b	5.126**
SD		0.468	0.499	0.499
件数		271	171	152

**p < 0.01 aとbの間で有意差あり

表10-16 性体験者の在住人口と性への関心 一元配置分散分析(平均値, SD)

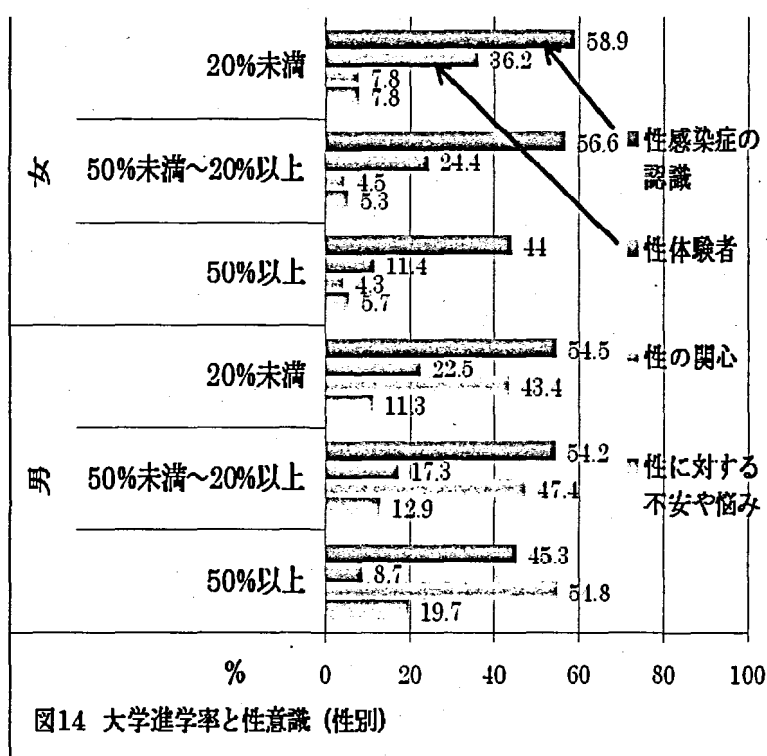
項目	人口	10万以上	10万未満3万未満	F値
性の関心		1.83a	2.06b	1.98
SD		0.970	0.979	0.984
件数		286	183	153

*p<0.05 aとbの間で有意差あり

表10-17 性体験者の在住人口と初体験年齢 一元配置分散分析(平均値, SD)

項目	人口	10万以上	10万未満3万未満	F値
初体験年齢		2.02a	1.88	1.74b
SD		0.840	0.780	0.770
件数		264	173	151

**p<0.01 aとbの間で有意差あり



性体験のある女子は、大学進学率が20%未満>50%未満~20%以上>50%以上で増加していた(表10-2)。

男子における性教育の関心の高さは、大学進学率が20%未満>50%未満~20%以上>50%以上で多く、大学進学率の高い高校の男子は、性への関心を持っていた(表10-7)。

また、性体験のある

男子は、大学進学率が20%未満>50%未満~20%以上>50%以上で増加しており(表10-8)、性の悩みや不安では、50%以上>50%未満~20%以上>20%未満の順で多かった(表10-10)(図14)。

2) 性交渉・胎児・人工妊娠中絶・性感染症に対する意識

性交渉に対する考え方では、「性交渉は、学業に与える影響を考えるとしない方がよい」では世代に関わらずいずれの男子も、賛成が多く、その比率は、16歳＞17歳＞18歳以上の順で多かった。「周りの人がしているときいているので、してもかまわない」では、大学進学率に関わらずいずれの男子も、反対が多かった(表11-1)。

表11-1 学生の性交渉に対する意識(男性)と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

項目	属性	世代 n=1229(欠損値は削除)(%)						大学進学率 n=1104(欠損値は削除)(%)					
		15歳以下		16歳		17歳以上		50%以上		50%未満～20%以上		20%未満	
		賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対
性行為は妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢と立場になってからすべきだ		242(72.7)	91(27.3)	543(73.8)	193(26.2)	96(69.1)	43(30.9)	308(76.4)	95(23.6)	168(70.3)	71(29.7)	323(72.9)	120(27.1)
	妊娠や病気が学業に与えるものの影響を考えると、しないほうがよい	243(73.4)**	88(26.6)**	525(72.5)**	199(27.5)**	72(52.2)**	66(47.8)**	292(73.3)	104(26.3)	171(72.2)	66(27.8)	318(72.4)	121(27.6)
妊娠によって一つの命が育まれるのであり、学生であっても責任をとる覚悟があるならばよい		235(70.4)	99(29.6)	487(66.0)	251(34.0)	97(68.8)	44(31.2)	255(62.8)*	151(37.2)*	173(71.2)*	70(28.8)*	305(69.3)*	135(30.7)*
	個人の自由である	227(67.2)	111(32.8)	518(69.1)	232(30.9)	97(68.8)	44(31.2)	262(64.5)	144(35.5)	178(71.8)	70(28.2)	317(70.4)	133(29.6)
避妊さえ気をつければしてもよい		185(55.6)	148(44.4)	450(61.5)	282(38.5)	90(65.7)	47(34.3)	214(53.2)**	188(46.8)**	165(67.3)**	80(32.7)**	267(61.4)**	168(38.6)**
	周りの人がしているときいているのでしてもかまわない	102(31.5)	222(68.5)	241(33.8)	473(66.2)	39(28.5)	98(71.5)	95(24.1)**	299(75.9)**	94(40.3)**	139(59.7)**	159(37.2)**	268(62.8)**

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

胎児に対する考え方では、「胎児といえども一人一人がかけがえのない存在であり、命を大切に考えたい」では、年齢差、学校所在地、大学進学率のいずれにも関わらず多く賛成していた(表11-2)。

表11-2 胎児に対する意識(男性)と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

項目	属性	世代 n=1193(欠損値は削除)(%)						学校所在地区 n=1229(欠損値は削除)(%)						大学進学率 n=1096(欠損値は削除)(%)					
		16歳		17歳		18歳以上		北信		中信		東信		南信		50%以上		50%未満～20%以上	
		はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
考えたことがない		168	168	389	328	60	80	261	231	213	213	43	24	111	133	191	205	118	117
		(50.0)*	(50.0)*	(54.3)*	(45.7)*	(42.9)*	(57.1)*	(53.0)*	(47.0)*	(50.0)*	(50.0)*	(64.2)*	(35.8)*	(45.5)*	(54.5)*	(48.2)*	(51.8)*	(50.2)*	(49.8)*
胎児といえども一人一人がかけがえのない存在であり、命を大切に考えたい		311	21	693	25	135	3	472	22	406	18	61	2	233	9	382	14	221	14
		(93.7)*	(6.3)*	(96.5)*	(3.5)*	(97.8)*	(2.2)*	(95.5)	(4.5)	(95.8)	(4.2)	(96.8)	(3.2)	(96.3)	(3.7)	(96.5)	(3.5)	(94.0)	(6.0)
法律で中絶が認められている範囲においては人として考えなくてよい		73	251	146	547	15	121	88	391	91	321	15	49	43	188	73	306	46	181
		(22.5)	(77.5)	(21.1)*	(78.9)*	(11.0)*	(89.0)*	(18.4)	(81.6)	(22.1)	(77.9)	(23.4)	(76.6)	(18.6)	(81.4)	(19.3)	(80.7)	(20.3)	(79.7)
お腹の中にいる胎児はまだ人として考えなくていい		36	290	58	642	7	129	42	439	36	383	8	55	16	217	24	355	27	204
		(11.0)	(89.0)	(8.3)	(91.7)	(5.1)	(94.9)	(8.7)	(91.3)	(8.6)	(91.4)	(12.7)	(87.3)	(6.9)	(93.1)	(6.3)*	(93.7)*	(11.7)*	(88.3)*

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

人工妊娠中絶については、「医学的理由以外は絶対さけるべき」では、大学進学率に関わらずのいずれの男子も賛成が多かった(表11-3)。

表11-3 人工中絶に対する意識(男性)と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

項目	属性	世代 n=1229(欠損値は削除)(%)								大学進学率 n=1104(欠損値は削除)(%)							
		北信		中信		東信		南信		50%以上		50%未満～20%以上		20%未満			
		賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対		
医学的理由(妊娠を続けると母体の生命が危険)以外は絶対避けるべき		320(66.4)	162(33.6)	280(69.7)	122(30.3)	49(75.4)	16(24.6)	147(61.5)	92(38.5)	219(56.3)	170(43.7)	154(68.4)	71(31.6)	324(76.8)	98(23.2)		
	望まない妊娠ならばしても仕方がない	285(60.1)	186(39.9)	229(56.7)	175(43.3)	32(49.2)	33(50.8)	143(60.6)	93(39.4)	227(59.3)	156(40.7)	144(64.9)	78(35.1)	233(55.6)	186(44.4)		
経済的理由ならばしても仕方がない		284(60.2)	188(39.8)	207(51.6)	194(48.4)	27(41.5)	38(58.5)	132(56.4)	102(43.6)	217(57.1)	163(42.9)	128(58.2)	92(41.8)	233(55.5)	187(44.5)		
	女性の意思選択権として行われても仕方がない	293(61.7)	182(38.3)	246(62.3)	149(37.7)	35(54.7)	29(45.3)	156(67.0)	77(33.0)	234(61.7)	145(38.3)	142(64.0)	80(36.0)	268(64.6)	147(35.4)		
どう考えたらよいか分からない		216(50.0)	216(50.0)	222(59.8)	149(40.2)	39(63.9)	22(36.1)	113(52.6)	102(47.4)	163(47.1)	183(52.9)	114(55.1)	93(44.9)	239(61.9)	147(38.1)		

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

性感染症については、17歳以上の男子がよく認識していた（表11-4）。

表11-4 性感染性の認識（男性）と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

項目 属性	世代 n=1178(%)			学校所在地区 n=1212(%)				大学進学率 n=1055(%)		
	16歳	17歳	18歳以上	北信	中信	東信	南信	50%以上	50%未満～20%以上	20%未満
認識あり	159(49.2)**	370(51.5)*	94(69.1)**	249(51.0)*	243(57.9)*	39(60.9)*	110(45.8)*	180(45.3)*	122(54.2)*	236(54.5)*
認識なし	164(50.8)**	349(48.5)*	42(30.9)**	239(49.0)*	177(42.1)*	25(39.1)*	130(54.2)*	217(54.7)*	103(45.8)*	197(45.5)*

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

一方、女子では、「性行為は責任のとれる年齢になるまで待つ」では、大学進学率に関わらずいずれの女子も賛成しており、その比率は20%未満<50%未満～20%以上<50%以上の順で多くなっていた。「性交渉は、学業に与える影響を考えるとしない方がよい」では、世代に関わらずいずれの女子も賛成しており、その比率は、16歳>17歳>18歳以上の順で多かった。また、学校所在地区では、北信>東信>南信>中信の順で賛成が多かった。

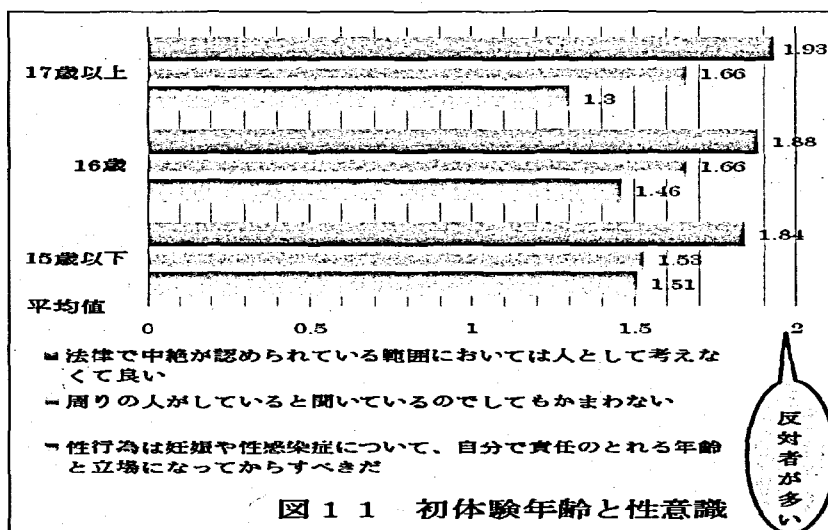
「学生であっても命にたいして責任をとる覚悟があるなら性交渉をしてもよい」では、世代にかかわらずいずれの女子も賛成が多く、その比率は、18歳以上>17歳>16歳の順で多かった。また、学校所在地区では、中信>南信>北信>東信の順で賛成が多かった。

「個人の自由とする」では、学校所在地区では、中信>南信>北信>東信の順で女子の賛成が多かった。「周りの人がしていると聞いているのでしてもかまわない」に反対する者が10万以上の地域に在住している者が3万未満に比して高かった（表11-5）。

表11-5 学生の性交渉に対する意識（女性）と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

項目 属性	世代 n=1394(欠損値は削除)(%)						在住人口 n=1307(欠損値は削除)(%)						学校所在地区 n=1441(欠損値は削除)(%)								大学進学率 n=1052(欠損値は削除)(%)					
	16歳		17歳		18歳以上		10万人以上		10万人以下		3万人以下		北信		中信		東信		南信		50%以上		50%未満～20%以上		20%未満	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
性行為は妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢と立場になってからすべきだ	273 (78.7)	74 (21.3)	533 (78.7)	144 (21.3)	274 (80.8)	65 (19.2)	472 (80.5)	114 (19.5)	301 (78.0)	85 (22.0)	248 (79.0)	66 (21.0)	434 (82.4)	93 (17.6)	342 (77.4)	100 (22.6)	65 (83.3)	13 (16.7)	280 (77.6)	81 (22.4)	290 (85.8)	48 (14.2)	239 (77.3)	70 (22.7)	285 (73.6)	102 (26.4)
妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい	248 (73.2)	91 (26.8)	472 (71.4)	189 (28.6)	209 (61.8)	129 (38.2)	404 (70.1)	172 (29.9)	241 (64.6)	132 (35.4)	222 (71.4)	86 (28.6)	391 (75.6)	126 (24.4)	276 (63.7)	157 (36.3)	51 (68.0)	24 (32.0)	229 (65.6)	120 (34.4)	248 (75.4)	81 (24.6)	220 (72.8)	82 (27.2)	263 (69.2)	117 (30.8)
妊娠によって一つの命が育まれるのであり、学生であっても責任をとる覚悟があるならばよい	241 (68.3)	112 (31.7)	500 (72.7)	188 (27.3)	284 (80.5)	69 (19.5)	437 (73.0)	162 (27.0)	289 (74.9)	97 (25.1)	232 (72.0)	90 (28.0)	364 (68.2)	170 (31.8)	363 (80.7)	87 (19.3)	52 (66.7)	26 (33.3)	273 (74.2)	95 (25.8)	226 (66.3)	115 (33.7)	223 (70.3)	94 (29.7)	298 (75.6)	96 (24.4)
個人の自由である	233 (66.6)	117 (33.4)	488 (70.9)	199 (29.1)	253 (71.3)	102 (28.7)	412 (69.5)	181 (30.5)	283 (73.5)	102 (26.5)	210 (65.4)	111 (34.6)	361 (67.4)	175 (32.6)	329 (73.8)	117 (26.2)	42 (53.2)	37 (46.8)	263 (72.1)	102 (27.9)	218 (64.5)	120 (35.5)	222 (70.5)	93 (29.5)	285 (72.5)	108 (27.5)
避妊さえ気をつければしてもよい	209 (61.1)	113 (38.9)	384 (57.7)	281 (42.3)	200 (57.6)	147 (42.4)	324 (54.9)	266 (45.1)	232 (63.0)	136 (37.0)	175 (56.5)	135 (43.5)	300 (56.7)	229 (43.3)	271 (61.5)	170 (38.5)	40 (52.6)	36 (47.4)	203 (59.2)	140 (40.8)	164 (50.5)	161 (49.5)	183 (60.2)	121 (39.8)	250 (64.6)	137 (35.4)
周りの人がしていると聞いているのでしてもかまわない	77 (23.0)	258 (77.0)	157 (24.7)	479 (75.3)	92 (27.1)	248 (72.9)	122 (21.3)	450 (78.7)	104 (29.2)	252 (70.8)	72 (23.5)	235 (76.5)	113 (22.5)	389 (77.5)	102 (23.9)	325 (76.1)	21 (27.3)	56 (72.7)	94 (27.6)	247 (72.4)	49 (15.4)	270 (84.6)	84 (28.4)	212 (71.6)	103 (28.1)	264 (71.9)

χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01



性体験者の初体験年齢と性意識の関係では、“性行為は妊娠や性感染症について自分で責任の取れる年齢と立場になってからすべきだ”に賛成する者が、初体験年齢が高くなるに従って増加していた。“周りの人がしていると聞

いているのでしてもかまわない”に賛成する者は初体験年齢が低くなるに従って増加しており、大学進学率に関わらずいずれの女子も、反対が多い傾向にあった（表 10-18）。

表 10-18 性体験者の初体験年齢と学生の性交渉に対する意識 一元配置分散分析(平均値, SD)

項目	年齢	15歳未満	16歳	17歳以上	F値
性行為は妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢と立場になってからすべきだ		1.51b	1.46b	1.3a	9.007**
SD		0.501	0.5	0.461	
妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい		1.51	1.46	1.47	0.752
SD		0.501	0.499	0.501	
妊娠によって一つの命が育まれるのであり、学生であっても責任をとる覚悟があるならばよい		1.18	1.18	1.21	0.41
SD		0.381	0.382	0.406	
個人の自由である		1.18	1.2	1.19	0.099
SD		0.386	0.399	0.396	
避妊さえ気をつければしてもよい		1.21	1.25	1.28	1.407
SD		0.406	0.431	0.449	
周りの人がしていると聞いているのでしてもかまわない		1.53c	1.66d	1.66d	4.957**
SD		0.5	0.475	0.474	
件数		231	191	169	

**p<0.01 aとbおよびcとdの間で有意差あり

“法律で中絶が認められている範囲においては人として考えなくて良い”に反対する者が、初体験年齢が高くなるに従って増加していた（表 10-20）（図 11）。

表10-19 性体験者の初体験年齢と性教育のニーズ 一元配置分散分析(平均値, SD)

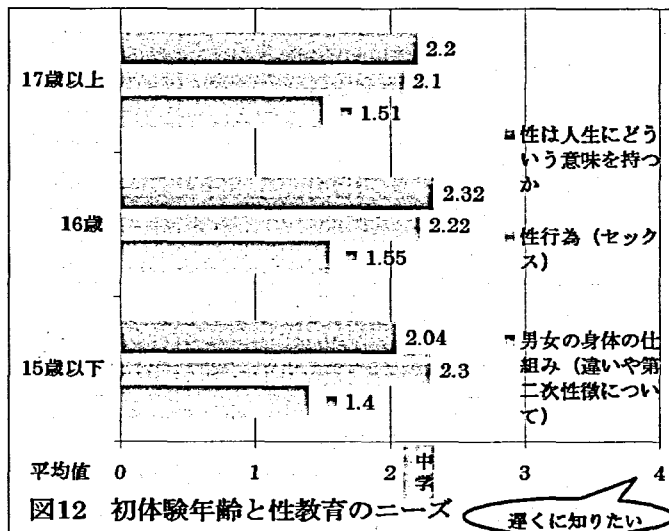
項目	年齢	15歳未満	16歳	17歳以上	F値
男女の身体の仕組み(違いや第二性徴について)		1.4a	1.55b	1.51	3.824*
SD		0.545	0.534	0.515	
異性の心		1.59	1.73	1.64	2.876
SD		0.555	0.594	0.536	
男女のつきあい		1.71	1.85	1.79	2.563
SD		0.551	0.567	0.542	
マスターベーション		1.92	2.02	2	1.699
SD		0.606	0.443	0.452	
性行為(セックス)		2.3c	2.22d	2.1	3.81*
SD		0.709	0.602	0.577	
避妊の方法		1.89	1.97	1.91	1.115
SD		0.566	0.467	0.498	
妊娠や出産(生命誕生)		1.84	1.8	1.75	0.634
SD		0.69	0.64	0.702	
性感染症(エイズ除く)		1.89	1.98	1.9	1.429
SD		0.541	0.51	0.529	
エイズ		1.79	1.84	1.81	0.256
SD		0.58	0.601	0.55	
男女の平等、差別について		1.48	1.44	1.45	0.167
SD		0.643	0.608	0.551	
胎児の成長と能力		1.99	1.94	1.95	0.303
SD		0.679	0.694	0.686	
人工妊娠中絶について		2.13	2.22	2.11	1.626
SD		0.601	0.57	0.552	
性の被害(レイプや性暴力)の対処法		2.08	2.18	2.07	1.55
SD		0.664	0.639	0.587	
愛とは何か		2.05	2.22	2.05	2.195
SD		0.845	0.789	0.753	
性は人生にどういう意味を持つか		2.04e	2.32f	2.2	5.134**
SD		0.777	0.745	0.794	
件数		161	138	128	

**p<0.01 *p<0.05 aとb, cとd, eとfの間で有意差あり

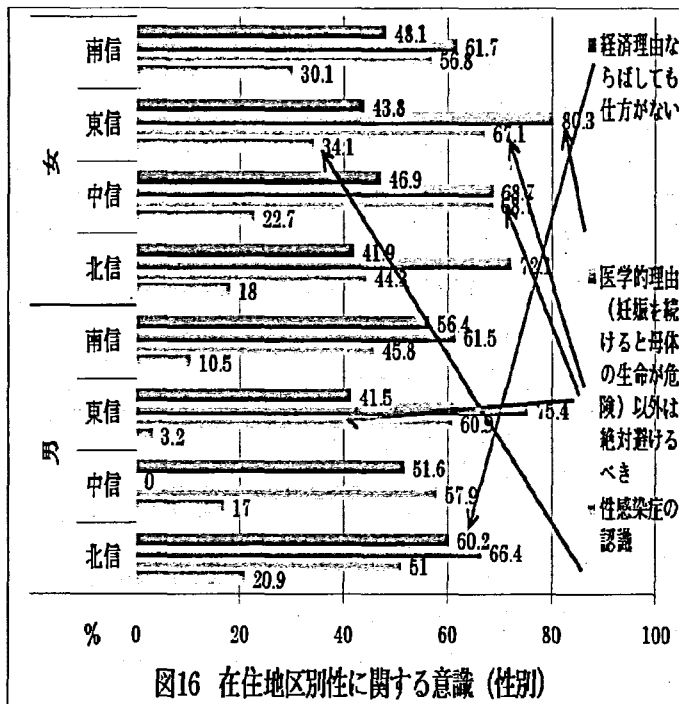
表10-20 性体験者の初体験年齢と胎児に対する意識 一元配置分散分析(平均値, SD)

項目	年齢	15歳未満	16歳	17歳以上	F値
考えたことがない		1.29	1.35	1.28	0.981
SD		0.456	0.477	0.453	
胎児といえども1人1人がかけがえのない存在であり、命を大切に考えたい		1.04	1.02	1.01	2.766
SD		0.19	0.122	0.075	
法律で中絶が認められている範囲においては人として考えなくて良い		1.84a	1.88	1.93b	3.271*
SD		0.365	0.322	0.264	
お腹の中にいる胎児はまだ人として考えなくていい		1.96	1.96	1.99	1.436
SD		0.192	0.187	0.107	
件数		235	189	172	

**p<0.01 aとbの間で有意差あり



また、性教育へのニーズでは、男女の身体の仕組み、性は人生にどういう意味を持つかでは、初体験年齢が15歳未満に比して16歳では遅くなってから知りたいとするニーズが高く、性行為では、16歳に比して15歳未満では遅くなってから知りたいとするニーズが高かった(表10-19)(図12)。



「胎児について考えたことがない」に対しては、世代に関わらずいずれの女子も、考えている者が多かった。「胎児といえども一人一人がかけがえのない存在であり、命を大切に考えたい」では、年齢差、学校所在地、大学進学率に関わらず多くが賛成していた(表11-6)。

人工妊娠中絶では、「医学的理由以外は絶対さけるべき」に対し、大学進学率、学校所在地に関わらず女子の賛成が多かった(表11-7)(図

16)。

性感染症については、世代に関わらず女子は認識していた。また学校所在地が中信、南信、東信(図16)、および大学進学率が20%未満、50%未満~20%以上では、より性感染症を認識していた(表11-8)。

表11-6 胎児に対する意識（女性）と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

項目 属性	世代 n=1414(欠損値は削除)(%)						学校所在地区 n=1448(欠損値は削除)(%)							
	16歳		17歳		18歳以上		北信		中信		東信		南信	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
考えたことがない	127(36.6)	220(63.4)	247(37.0)	420(63.0)	95(27.5)	251(72.5)	206(39.3)	318(60.7)	142(32.2)	299(67.8)	33(44.0)	42(56.0)	97(27.4)	257(72.6)
胎児といえども1人1人がかけがえのない存在であり、命を大切に考えたい	353(99.2)	3(0.8)	688(98.3)	12(1.7)	352(98.3)	6(1.7)	533(98.2)	10(1.8)	449(98.8)	5(1.1)	75(97.4)	2(2.6)	369(98.7)	5(1.3)
法律で中絶が認められている範囲においては人として考えなくて良い	25(7.4)	312(92.6)	54(8.0)	618(92.0)	22(6.2)	334(93.8)	34(6.5)	487(93.5)	34(7.7)	405(92.3)	8(10.4)	69(89.6)	29(8.0)	334(92.0)
お腹の中にいる胎児はまだ人として考えなくていい	3(0.9)	341(99.1)	12(1.2)	670(98.2)	5(1.4)	351(98.6)	8(1.5)	519(98.5)	7(1.6)	440(98.4)	1(1.3)	76(98.7)	6(1.6)	360(98.4)

 χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

表11-7 人工中絶に対する意識（女性）と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

項目 属性	世代 n=1242(欠損値は削除)(%)						学校所在地区 n=1358(欠損値は削除)(%)								大学進学率 n=988(欠損値は削除)(%)					
	10万人以上		10万人以下		3万人以下		北信		中信		東信		南信		50%以上		50%未満～20%以上		20%未満	
	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対	賛成	反対
医学的理由(妊娠を続けると母体の生命が危険)以外は絶対避けるべき	402(70.9)	165(29.1)	245(66.9)	121(33.1)	211(68.3)	98(31.7)	369(72.2)	143(27.9)	294(68.7)	134(31.3)	61(80.3)	15(19.7)	211(61.7)	131(38.3)	203(62.8)	120(37.2)	231(77.0)	69(23.0)	262(71.8)	103(28.2)
望まない妊娠ならばしても仕方がない	258(46.3)	297(53.7)	201(55.2)	163(44.8)	164(53.2)	144(46.8)	257(51.2)	245(48.8)	214(50.4)	211(49.6)	31(43.1)	41(56.9)	183(53.0)	162(47.0)	180(55.9)	142(44.1)	146(49.2)	151(50.8)	187(50.7)	182(49.3)
経済的理由ならばしても仕方がない	239(43.3)	313(56.7)	160(44.1)	203(55.9)	153(50.5)	150(49.5)	211(41.9)	292(58.1)	194(46.9)	220(53.1)	32(43.8)	41(56.2)	165(48.1)	178(51.9)	149(47.5)	165(52.5)	116(39.2)	180(60.8)	165(45.2)	200(54.8)
女性の意思選択権として行われても仕方がない	257(47.4)	285(52.6)	175(49.9)	176(50.1)	160(54.1)	136(45.9)	232(47.9)	252(52.1)	216(52.2)	198(47.8)	31(44.9)	38(55.1)	175(52.1)	161(47.9)	159(51.5)	150(48.5)	135(47.5)	149(52.5)	183(51.3)	174(48.7)
どう考えたらいいか分らない	261(52.8)	233(47.2)	173(53.9)	148(46.1)	159(60.6)	106(40.0)	243(56.5)	187(43.5)	193(51.5)	182(48.5)	39(59.1)	27(40.9)	171(55.9)	135(44.1)	161(58.1)	116(41.9)	137(53.1)	121(46.9)	182(57.2)	136(42.8)

 χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

表11-8 性感染性の認識（男性）と世代、在住人口、学校所在地区、大学進学率

項目 属性	世代 n=1375(%)			学校所在地区 n=1409(%)				大学進学率 n=1036(%)		
	16歳	17歳	18歳以上	北信	中信	東信	南信	50%以上	50%未満～20%以上	20%未満
はい	189(54.2)	357(52.7)	223(63.9)	236(44.3)	303(68.7)	51(67.1)	204(56.8)	151(44.0)	179(56.6)	222(58.9)
いいえ	160(45.6)	320(47.3)	126(36.1)	297(55.7)	138(31.3)	25(32.9)	155(43.2)	192(56.0)	137(43.4)	155(41.1)

 χ^2 検定 *p<0.05 **p<0.01

6 性意識（生命尊重の意識、性交渉の意識）と自己肯定意識

1) 生命尊重および学生の性交渉に対する意識（表12）

生命尊重に関する内容である胎児に対する意識では“人として認める”という考えが90%前後に達し多かった。また、人工妊娠中絶を行う場合の理由として、“望まない妊娠”、“経済的理由”、“女性の意思選択権”として可能と判断するものと反対するものに意見が半々に分かれていたのに対し、医学的理由を認めるものが68%と多かった。一方、学生の性交渉は、“周りがしているからよいとはいえない”、“責任のとれない年齢は望ましくない”、“学業に影響するからすべきではない”という意見が70%前後を占めていた。逆に“責任をとる覚悟があればよい”、“個人の自由だ”、“避妊さえ気をつけていればよい”などの意見も60%から70%程度認められていた。

表12 生命尊重・学生の性交渉に対する意識

		(%)	
項目	内容	賛成	反対
生命尊重 7項目	人工妊娠中絶は経済的理由でもしてはいけない	50.0	50.0
	人工妊娠中絶は女性の意思選択権としてもしてはいけない	43.0	56.0
	人工妊娠中絶は望まない妊娠でもしてはいけない	45.5	54.5
	法律で人工妊娠中絶が認められている範囲においても人として考える	86.8	13.2
	おなかの中にいる胎児は人として考える	95.2	4.8
	胎児といえども一人一人かけがえのない存在であり命を大切にしたい	97.3	27.7
	人工妊娠中絶は医学的理由以外は避けるべき	68.0	32.0
学生の性交渉に 対する制御の意 識 6項目	妊娠によって一つの生命がはぐまれるものであり、学生であっても責任をとる覚悟があるならば性交渉をしてもよいものではない	29.1	70.9
	性交渉は個人の自由ではない	30.8	69.2
	性交渉は避妊さえ気をつけていればよいものではない	40.5	59.5
	性交渉は周りのものがしているからといってしてよいものではない	71.9	28.1
	性行為は妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢や立場になってからすべき	76.5	23.5
	性行為は妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えるとすべきでない	69.3	30.7

;合計値が高いほど意識は高い

2) 自己肯定意識

自己肯定意識尺度の下位項目の確認のため主成分因子分析を行った結果、各因子を構成する項目が平石（1990）の示す尺度項目に一致していることから、本研究では平石の下位概念である 6 因子（自己受容、自己現実的態度、充実感、自己閉鎖性・人間不信、自己表明・対人的積極性、被評価意識・対人緊張）で分析を行った。

自己肯定意識尺度は、自己受容 15.1 (SD<標準偏差> 3.0)、自己現実的態度 23.0 (SD 6.3)、充実感 25.5 (SD 6.9)、自己閉鎖性・人間不信 19.4 (SD 7.5)、自己表明・対人的積極性 21.0 (SD 5.8)、被評価意識・対人緊張 22.0 (SD 6.2) であった。

3) 生命尊重感および性交渉制御感と自己肯定意識の関連

生命尊重に関する 7 項目の主成分分析 (Kaiser の正規化を伴うプロマックス法) の結果、3 因子が抽出された。第 1 因子は 3 項目で構成されており、「人工妊娠中絶は経済的理由でもしてはいけない」など、中絶の理由に対する考えに関する内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで“中絶の意識”と命名した。

第 2 因子は 2 項目で構成されており、「法律で人工妊娠中絶が認められている範囲においても人として考える」など、胎児に対するとらえ方に関する内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで“胎児の認識”と命名した。

第 3 因子は 2 項目で構成されており、「胎児といえども一人一人かけがえのない存在であり命を大切にしたい」など、生命に関する価値観に対する内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで“命の価値”と命名した (表 13-1)。

表13-1 生命尊重感の主成分分析

	I	II	III
人工妊娠中絶は経済的理由でもしてはいけない	0.760	0.080	0.017
人工妊娠中絶は女性の意思選択権としてもしてはいけない	0.756	-0.001	0.140
人工妊娠中絶は望まない妊娠でもしてはいけない	0.754	0.125	-0.14
法律で人工妊娠中絶が認められている範囲においても人として考える	0.035	0.824	0.022
おなかの中にいる胎児は人として考える	0.163	0.780	-0.008
胎児といえども一人一人かけがえのない存在であり命を大切にしたい	-0.255	0.300	0.741
人工妊娠中絶は医学的理由以外は避けるべき	0.280	-0.245	0.738
因子間相関			
I 中絶の意識		0.061	0.171
II 胎児の認識			0.139
III 命の価値			

性交渉制御に関する 6 項目では 2 因子が抽出された。第 1 因子は、4 項目で構成されており「妊娠によって一つの生命がはぐくまれるものであり、学生であっても責任をとる覚悟があるならば性交渉をしても良いものではない」など、性交渉に対する考え方に関する内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで“学生の性交渉に対する意識”と命名した。第 2 因子は、2 項目で構成されており、「性行為は妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢や立場になってからすべき」など、学生が性交渉する時期に関する内容の項目が高い負荷量を示していた。そこで“学生の性交渉の時期”と命名した（表 13-2）。

表13-2 性交渉制御感の主成分分析

	I	II
妊娠によって一つの生命がはぐくまれるものであり、学生であっても責任をとる覚悟があるならば性交渉をしてもよいものではない	0.749	0.003
性交渉は個人の自由ではない	0.730	-0.054
性交渉は避妊さえ気をつけていればよいものではない	0.684	-0.019
性交渉は周りのものがしているからといってよいものではない	0.654	0.073
性行為は妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢や立場になってからすべき	0.031	0.835
性行為は妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えるとすべきでない	-0.021	0.821
因子間相関		
I 学生の性交渉に対する意識		-0.294
II 学生の性交渉の時期		

各因子間の相関を確認したところ強い相関は認められなかった（ $R < \text{相関係数} \geq 0.171 \sim -0.294$ ）。この結果から、生命尊重を問う 7 項目の合計値を生命尊重感とした。得点が高いほど生命尊重に対する意識は高いとした。また、性交渉に対する意識を問う 6 項目の合計値を性交渉制御感とした。得点が高いほど性交渉に対する制御意識は高いとした。

生命尊重感、性交渉制御感、自己肯定意識の因子相関は表 13-3 に示す結果となった。生命尊重感と性交渉制御感の間には有意な正の相関がみられた。自己肯定感の因子間の相関をみると、自己受容と自己実現態度 ($R=0.452$)、充実感と自己実現態度 ($R=0.493$)、充実感と自己表明・対人的積極性 ($R=0.423$)、自己閉鎖性・人間不信と被評価意識・対人緊張 ($R=0.473$) に中程度の正相関があった。充実感と自己閉鎖性・人間不信 ($R=-0.553$) に中程度の負の相関がみられたが、低いものであった。

表13-3 生命尊重感、性交渉制御感、自己肯定感(6因子)間相関

因子	n=2066						
	生命尊重度	性交渉制御度	自己受容	自己実現態度	充実感	自己閉鎖性・人間不信	自己表明・対人的積極性
生命尊重度		0.093**	-0.032	0.05*	0.017	0.016	-0.107**
性交渉制御度			0.056*	0.107**	0.068**	-0.088**	0.078**
自己受容				0.452**	0.397**	-0.26**	0.388**
自己実現態度					0.493**	-0.327**	0.379**
充実感						-0.553**	0.423**
自己閉鎖性・人間不信							-0.363**
自己表明・対人的積極性							
被評価意識・対人緊張							

**p<0.01 *p<0.05

Pearsonの相関

そこで、生命尊重感と性交渉制御感を従属変数とし自己肯定意識を独立変数とした重回帰分析（ステップワイズ法）により、表 13-4 に示される結果となった。生命尊重感自己現実的態度 ($\beta < \text{標準化係数} = 0.086$) と自己閉鎖性・人間不信 ($\beta = -0.063$) に有意な関連が認められた ($R^2 < \text{説明率} = 0.014$)。一方、性交渉制御感自己受容 ($\beta = -0.053$)、自己現実的態度 ($\beta = 0.102$) 充実感 ($\beta = 0.058$) と自己表明・対人的積極性 ($\beta = -0.016$) に有意な関連が認められた ($R^2 = 0.026$)。

表 13-4 生命尊重感と性交渉制御感を目的変数、自己肯定感（6 因子）を説明変数とする重回帰分析（標準偏回帰係数）

		N=2859	
		生命尊重感	性交渉制御感
自己肯定感	自己受容	—	-0.053*
	自己実現態度	0.086**	0.102**
	充実感	—	0.058*
	自己閉鎖・人間不信	-0.063**	—
	自己表明・対人的積極性	—	-0.016**
	被評価意識・対人緊張	—	—
説明率 (R^2)		0.014***	0.026***
		*p < 0.05	**p < 0.01
			***p < 0.001

生命尊重や性交渉意識と性差・性体験の検討では、まず性体験の 1 要因分析で、性交渉制御感において有意差が認められた（性体験有＜性体験無）。さらに性差と性体験による 2 要因分散分析を行った。生命尊重感を従属変数とする 2 要因の分散分析では、性差による主効果が認められた（男性＜女性）が交互作用は認められなかった（表 13-6）。性交渉制御感を従属変数とする 2 要因の分散分析では性差、性体験による主効果が認められた（男性＜女性、性体験有＜性体験無）が交互作用は認められなかった（表 13-5）。

表13-5 生命尊重感(従属変数)と2要因(性差×性体験)の分散分析
性交渉制御感(従属変数)と2要因(性差×性体験)の分散分析

性意識	性差		性体験	
	主効果	交互作用	主効果	交互作用
生命尊重感	**男性＜女性 F=37.791	—	—	—
性交渉制御感	*男性＜女性 F=5.858	—	**性体験有＜性体験無 F=253.933	—

**p<0.01 *P<0.05

表13-6 生命尊重感・性交渉制御感と性体験の関係

性意識	性体験	N	平均値	SD	
生命尊重感	有	590	11.8	1.5	F=0.526
	無	1671	11.9	1.6	
性交渉制御感	有	615	8.3	1.5	**性体験有＜性体験無 F=13.783
	無	1779	9.5	1.6	

**p<0.01

V 考察

1 性意識と行動の実態と影響要因

長野県下 20 高等学校および 2 短期大学、3 大学から得られた有効回収部数 2779 人の回答から得られた結果をふまえて、15 歳から 20 歳の思春期にある性意識の実態と影響要因について考察する。特に、性意識については、全国で行われた（日本性教育協会、2007）調査報告との比較が可能な項目については考察の視点に加えていきたい。また、性に対する調査の分析では、性差によるものが基本であることから、性差の視点で考察を加えること、性体験者の特徴や地域性（在住人口や地区）や学校の特徴である進学率から分析された結果をふまえ考察する。そこでまず、本研究の結果について性差による特徴、性体験者の特徴、世代・地域性や学校による特徴について総括しつつ検討を加えた。

1) 性差による特徴

同性の友人（学校でよく話をする、一緒に遊びに行く、何でも打ち明けて話せる）、異性の友人（グループでつきあう、親友と呼べる、恋人と呼べる）は有意に女性に多かった。交友関係は女子が積極的であることが明らかになった。しかし、性的な関心は男性に有意に高く、女子は、性に関する不安や悩みを有意に抱えていた。性に対する考えにもっとも強く影響したものは、性差に関係なく友人、性教育であった。

性に対する、友人や性教育の影響が、この世代にとって最も大きいことが明らかとなった。このことについては、全国に比べほぼ同様の傾向にありながらも、長野県のデータは、全国データに比し、コミック雑誌やポルノ雑誌・ビデオの影響が極端に低いといえる。このような雑誌などが手に入りやすいか、入りにくいかの環境による差と考えられる。

また、交友関係は男子に比べ女子が活発であり、特に恋人と呼べる相手の保有がより女子に多いことが、性体験に関係していると考えられ、女子に有意に性体験者が高かった（女性 30%、男性 21%）といえる。性体験に関する詳細は、2) で取り上げる。

性に関する知識で、もっとも知りたい事柄は性差に関係なく「愛とは何か」「異性の心」であり、心理的、精神的側面の知識を希望していた。これについては、全国調査に比し、特異な結果と言える。技術や具体的な知識よりもまず基本的な考え方に影響すると考えられる心理的、精神的な考え方について知りがっていた。また、知っておくべき時期としては中学生の時期がもっとも多く、ついで小学生、高校生の順であり、大学生は少数であった。このことから中学生を対象とした教育の必要性は明白であるといえる。

性差によるお互いの理解と尊重心を持つための第一歩として、ニーズの高いこの時期に行うことは有意義と言える。

2) 性体験者の特徴

初体験年齢は性差に関係なく15歳以下（男子 38%、女子 39%）、16歳（男子 33%、女子 33%）、17歳以上（男子 29%、女子 28%）の順に体験人数は減る傾向にあった。つまり、性体験年齢が早いほど体験者の数が多かった。また、性体験者は、男子（21%）に比べ、女子（30%）に有意に高かった。特に、初体験年齢が15歳未満の早期体験者は、統計的に言っても性交渉数が多い傾向にあり、性感染症の罹患者が多いことから、性的関心や性体験の早いと考えられる性教育の希望者には、有意義な性教育を中学生の段階で行うことが重要と考えられた。早期性体験者は、性意識が高いにもかかわらず、性行動が活発であることから、早期体験者の家庭環境、学校生活、交友関係など様々な問題が関係していると考えられ、よりきめの細かい研究や分析が必要であると考えられた。

初体験時の避妊では、性差に関係なく80%が行っており、避妊の方法はコンドームが75%であった。もっとも確実な避妊方法は性差に関係なくコンドームであると認識していた。全国比較でも同様の結果であり、コンドームによる教育の普及と評価できる。

初性体験時の避妊をしなかった理由では、男子は避妊具がなかった、面倒だった、女子では面倒だった、妊娠しないと思ったが70%を占めていた。とくに全国との比較では、初体験年齢が男子0.3から女子0.7ポイント早い傾向にあった。さらに、世代別性体験者では、15歳、16歳、17歳のすべての世代に於いて全国データを上回っていた。中でも17歳の性体験者が20%、16歳の性体験者が11%上回っていた。初体験時の避妊法でも、男女ともに4%の避妊率の低下が見られていた。全国データは対象数が本調査の倍以上であり、都市規模ごとに12地点選定され、地域によるバランスがある程度確保されている。本調査はこうしたデータとの比較に於いてやや性体験の早期化と体験者数の上昇、避妊率の低下などが明らかとなり、必ずしも安心できるデータとはいえなかった。

3) 世代・地域性や学校の特性による特徴

世代の特徴では、同姓の友人は、世代が高くなるに従い学校でよく話をする～一緒に遊びに行く～何でも打ち明けることのできる友人が多くなり、異性の友人では、グループでつきあう～親友と呼べる～恋人と呼べる友人の割合が高くなる。世代が高くなるに従い性や性教育への関心、性の不安や悩み、性感染症の認識を持つ者の割合が高くなる。また、世代が高くなるに従い性体験者の割合が高くなる。

「妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると性交渉はしない方がよい」に賛成の者の割合は世代が高いほど低くなる。胎児に対する意識では「考えたことがない」者の割合が女子では世代が高くなるに従い低くなるのに対し、男子では女子の倍で横ばいの傾向にある。世代が上がるに従い、性に対する意識の低下が認められ、さらに性教育のニーズは高いといえる。早い段階から継

統的な性教育を行う重要性がある。

地区の特徴では、女子の性体験者は中信と南信が 37%と多く、初体験年齢が 15 歳以下は北信と東信に 50%と多かった。一方男子では、性体験者は中信と東信が 30%と多く、初体験年齢が 15 歳以下は北信に 55%と多かった。

胎児に対する意識では「考えたことがない」者の割合が男女共に東信に高かった。性感染症の認識では、男子は東信、女子は東信と中信に認識のある者の割合が多かった。「人工妊娠中絶では医学的理由以外は絶対避けるべき」と考える者の割合は男女ともに東信に多かった。

このことから、性感染症の知識など、性教育の効果の現れとして東信の性意識が高いと考えられる。また、南信や中信の女子の性体験者が多いことから、年上や同世代間の性交渉の活発さが推測され、性教育の必要性がある。女子に対する命に対する教育と共に、性行動に対する性差の理解や避妊についての知識教育は重要である。

しかし、初体験年齢の低い者が多い北信では、早い時期に性体験をしている者に対する教育が急がれる。性に対する意識が高いにもかかわらず、早い時期に体験してしまう者の交友関係については、新たに調査を進める必要があるが、初体験年齢の低い者は性教育を受けていないとの回答から、性教育の記憶がないと考えられ、インパクトのあるしっかりとしたメッセージをもった性教育を行われる必要があるといえる。

在住人口の特徴では、3 万人未満の町村に在住の女子の初体験年齢が 15 歳以下 (44%) が有意に多く、年齢が上がるに従って体験者の数が減少していた。しかし、人口 10 万人以上の市では、その逆で初体験年齢が 17 歳以上 (37%) に有意に多く、年齢が下がるに従って体験者の数が減少していた。このことから人口の少ない村ほど性行動は活発であることが明らかになった。小さな村などでは、様々な刺激や情報が少ないために、逆に性に対する関心が集中してしまうのではないかと考えられた。

10 万人未満 3 万人以上の市に在住の女子は避妊さえ気をつけていればよい (63%)、周りの人がしていると聞いているのかまわない (29%) と考えている者が有意に多かった。中規模地域の女子の性意識は低く、性行動に対する価値観を高められるような働きかけが必要である。

大学進学率の違いによる特徴では、グループでつきあう、親友と呼べる異性の友人よりも恋人と呼べる異性の友人が男 (19%) 女 (30%) とともに進学率 20% 未満の高校に有意に多かった。男子の性教育への関心 (80%)、性の不安や悩み (20%) は進学率 50% 以上の高校が有意に多かった。性感染症に対する認識 (男 55%, 女 59%) および性体験者は男 (23%) 女 (36%) とともに進学率 20% 未満の高校に有意に多かった。

これらの結果から進学率の低い高校では、性行動が活発化する傾向があるが、学習以外の関心事の中で、特に一生懸命やれる何かを見いだしていくことが大

切と考えられた。進学率の高い高校では、性に関する関心が高い上、学年進行と共に性に対する関心を持つ者が増え、不安や悩みを抱えている者が多いことから、高校の早い段階で性に対する教育やピア活動による教育を行い、さらに個別指導による対応が大切といえる。

2 性意識（生命尊重の意識、性交渉の意識）と自己肯定意識

生命尊重では、調査項目の一部の項目が先行研究（平石，1990）と同様の結果を示し、生命を尊重する傾向にあった。性交渉に対する意識では、先行研究である（東京都性教育研究会，2005；日本性教育協会編，2007）に比し性行動を控える見解を示すものが多かった。性体験は先行研究（日本家族計画協会，2005；東京都性教育研究会，2005）と同じ程度の体験者数であった中で、性意識には性行動に対し否定的な意識の者が多かった。筆者は性交渉制御感が高いことがこの世代にある性行動の活発化に歯止めをかけるものと考ええる。体験者の数では、地方と都市の差がなくなっているといえるが、人口10万人以上の地方都市在住者が41%含まれている本研究対象では、性に対する意識が保守的であるといえる。このことは、都市部と地方の生活環境の違いによるものかどうかは、意識に影響している要因に対するさらなる調査が必要である。

本研究の対象者の8割が高校生であったことから、自己肯定意識について平石（1990）の世代別データである高校生と比較したところ、下位項目の高低差は認められるもののほぼ同様の数値を示していた。

生命尊重の意識と自己実現態度、自己閉鎖性・人間不信が関係し、生命尊重の意識が高いものは自己実現態度が高く、自己閉鎖性・人間不信が低かった。このことは、自分の夢を叶えようとする、自分の良い面を伸ばそうとする、情熱を持って前向きの姿勢で物事に取り組む姿勢を持ち、人間関係を煩わしいと考えず人との信頼を築くこと、周囲の人との関わりで壁を作らないことなどが、生命を尊重する意識つまり、胎児を人として大切に思う心に通じていることが示唆された。人間関係を基盤にした前向きの生き方は、命を大切にする心を育てると推察される。

性交渉の制御に対する意識は自己実現態度、充実感、自己受容、自己表明・対人的積極性が関係し、性交渉の制御の意識が高いものは、自己実現態度、充実感が高く、自己受容、自己表明・対人的積極性が低かった。自己を受け入れることができず、対人関係において自己を表現できない、人との関係を保つことに消極的であることが性交渉の制御を高めていた。このことは、自分に対して素直になれない、様々な意見や考え方に触れようとしない、自分の意見を表現できないことが、性交渉場面で対人関係において消極的となり、結果として性行動の制御に影響すると考えられた。逆に、性的能動性の強い友達を有する人は、そうでない人より性的能動性が強い（Kotchick, Shaffer, Forehand, & Miller, 2001）、男女とも自分の友人が性的に積極的であると知覚するとき、より性的

に積極的になる傾向があることから (DoBlasio&Benda, 1994)、性的な影響を仲間集団によって強く影響を受けるという世代の特徴を考慮に入れなければならない。

平石 (1990, 1993) によると、高校生の時期は自己肯定感の意識が低いとされており、高校生を対象とした自己肯定感の意識を高める関わりには工夫を要すると考えられた。性教育における家族を含めた周囲の人々とのコミュニケーションは、自己意識の発達や不安感に影響していることから (上田, 1995)、(中山&皆川, 2002)、(平石, 2000)、単に集団を対象とした教室における性教育のみならず、日々の学校や家庭における生活の中で、バランスのとれた人間関係を培うことが大切であると考えられる。

生命尊重に対する意識は男子に比べ女子に高く認められ、性交渉制御に対する意識についても女子に高く認められた。女子は自分の体に生命を宿す性であり、命に対する尊厳を男子に比べより身近な事として受けとめることが影響していると考えられる。Baldwin (1997) は、女性は情緒的な愛着の関係が随伴されないかぎり、性関係は望まない傾向があると報告しており、性交渉の制御に対する意識にこうした性差特有の心理が影響していることも考えられる。また、性体験の無いものに、学生の性交渉を制御する意識が高かったことを示した結果については当然の結果といえる。

胎児に対する意識では“胎児を人として認める”にもかかわらず、人工妊娠中絶に対しては、望まない妊娠、経済的理由、女性の意思選択権として認めるか認めないか意見がわかれた。胎児を人として認めながらも様々な事情により“人工妊娠中絶を認める”という、相反する考えをもつものが半数いた。今回の結果を考察するためには、今後“人として認める”ことの意識の深さや心の葛藤を明らかにすることなどの課題が残された。

また、性交渉は“個人の自由”と考え、学生といえども“責任をとる覚悟があればよい”、“避妊さえ気をつけていればよい”という考えも60%から70%を占めていることも事実であり、学生の性交渉に対する考えの多様性が伺えた。特に30%のものが“責任をとる覚悟があるなら性交渉をして良い”とする考えを持ち、責任の結果として出産という選択肢を選んだものへの、社会的な風潮や意識の改革、サポート体制の確立が重要と考えられる。幡 (2006) の10代で人工妊娠中絶した者のうち、産みたかったとする女性は38-42%を占めており、10代で出産・育児をするための社会政策を整えることが課題であるという考え方にも一致する。

生命尊重の意識が高いものは学生の性交渉に対する制御の意識が高かった。このことは胎児を人として大切にしたいとする気持ちを持つからこそ性交渉に対して慎重な態度をとると考えられ当然の結果といえる。

3 性教育活動への示唆

長野県では、小・中学校において県で作成された手引きに基づいて性教育が行われている。具体的な運用については、各校の養護教諭を中心として展開されている。高校、大学では、各校の養護教諭による相談活動が中心となり、外部講師による講演会などを企画している。義務教育における性教育では、一般的には、性教育を単に性のみに視点を当てるのではなく、広く人として生きていく上での、倫理や道徳、性差の問題や発達の視点からも必要な知識や技術が取り上げられている。

また、性教育活動として、病院に勤務する助産師や助産所の助産師や看護大学の母性領域の教員、ピアカウンセラーの養成講座を修了した高校生、大学生などが担当している。しかし、実際には、非公式に様々な形で、性に関する情報は氾濫し、それらの情報を得ることができる環境にある。マスメディアの発達に伴いその速度は進化し、思春期にある世代を取り巻く様々な社会問題に発展している。特にこの時期にある対象の特徴として、仲間同士の情報交換が行われることが多く、仲間から受ける影響も大きいとの報告がある (DiBlasio & Benda, 1994)。また、性行動は、家族構造(Kotchick, Shaffer, Forehand&Miller,2001)や親との関係性やコミュニケーションの質 (White&Deblasseie,1992) との関連も報告されている。

性教育活動について検討する上で、様々な角度からのデータと考察の積み重ねが重要であるが、本項では、本研究結果をふまえ、学校、地域で展開されている、性教育活動に活用すべき事柄について考察を行う。

性差による特徴から次のようなことが重要と考える。女子は男子に比べ性に対する関心は低いものの、性体験者や性体験年齢の早期化傾向が高い。特に性体験者の割合は全体の数から見て多くはなく、一部の対象ともいえるが、性体験によってもたらされる、妊娠や性感染症などの影響から、いのちを宿す性として、自分の体は自分で守るという意識を持つこと、正しい性意識と行動がとれるようないのちの尊厳に対する価値観や知識と技術を伝えることが大切になる。

また、男子は、性的な関心が高く、性的な欲求をどのように発散できるのか、性行動は、責任をとる覚悟があって行われるものであること、自分にとって重要な存在である女子の性に対する尊敬と共にその体を大切にすることを伝える。

次に、地域との関連でみると、都市部と郡部、県内では、在住位置によって考慮する点として、次のこと考えられる。性体験者は南信と中信に多く、在住人口の多い市ほど初体験年齢が高かった、初体験年齢の低い者は、北信と東信、さらに在住人口の少ない町村に多かった。性行動は南信と中信が活発であり、北信と東信の小さな町村では若年世代の体験者が多い。このことから、小さな町村では一部の対象に初体験の早いものがあることを鑑み、早い時期の性教育について対象を限定して行う必要があると考えられる。都市部では、初体験年

齢は比較的遅い傾向にあるため、高校1年生を対象にした一斉教育が効果的といえる。

一方、学業成績と青少年の性行動における相関関係がある。つまり、20歳以前に妊娠する青少年は、20歳以降に妊娠する青少年と比べ学業成績及び知能指数において劣っている(Kotchick, Shaffer, Forehand, & Miller, 2001)との報告があり、本研究結果とも同様の傾向が示された。学業に集中できない場合、それに代替できる目標や具体的な行動を伴う何かがあれば別であるが、ない場合どうしても関心事のひとつに「性」の問題が挙げられる。当然のごとく同様の仲間の影響も考えられる。そうした対象に対しては、学業に替わる目標や具体的な行動を伴う何か（たとえば部活動や打ち込める趣味）がもてるよう支援すると共に、性教育としては、正しい知識を伝達していくことは欠かせない。

青少年の性行動は独立した現象ではなく、非行と密接な関連のある文脈の中から起こり (Frusternberg et al, 1994)、学校生活に対する満足度は、非行傾向性に対する重要な予測要因である (Smith & Aloisi, 1999) ことから、学校生活に対する満足度を高めるための働きかけも重要であろう。

また、性に関する教育において、生命を大切にする価値観を養うことが思春期世代にある対象に対して重要であることが改めて確認された。性交渉に対する制御が生理的に難しく、生命に対する意識の比較的低い男子に対して、より積極的な性の価値観を養うための働きかけが性教育のポイントとなろう。また、親子間における討論が、青少年の無分別な性行動の軽減に役立ち (Fox, 1980)、父母が子どもと性的問題について十分に対話し、子どもの行動を制限する規則や手段を有する場合、子どもの無分別な性行動は制限されているとしている (White, 1992)。こうしたことから今後は、親と子どものコミュニケーションを中心とした性教育プログラムの検証研究を課題としたい。

VI 結論

本研究より明らかになったことを以下にまとめた。

- 1 交友関係、性体験、性に対する関心や不安や悩みなど性差による特徴が明らかになった。
- 2 性教育に対するニーズや性教育の体験、避妊の知識など共通性が明らかになった。
- 3 性体験者は南信と中信に多く、在住人口の多い市ほど初体験年齢が高かった。初体験年齢の低い者は、北信と東信、さらに在住人口の少ない町村に多かった。
- 4 性行動（性交渉）は南信と中信が活発であった。
- 5 大学の進学率の高い高校ほど性への関心や不安や悩みを持つ者が多く、性体験者は進学率の低い高校に多い。
- 6 世代が高くなるにつれ、性や性教育への関心、性に対する悩みや不安が多かった。
- 7 全国データとの比較では、性体験の早期化と体験者数の上昇、避妊率の低下など、必ずしも安心できる地域ではないことが明らかになった。
- 8 性感染症の減少の視点から初体験年齢の早い対象に対する性教育活動が大切と考えられる。しかし、性に対する意識が高いにも関わらず性行動が早い時期に始められていることから、早期体験者の再分析を行い、その対応について検討する必要がある。
- 9 思春期にある世代の自己肯定意識の発達に着目し、中学生、大学生の時期に比べ低い時期にある高校生には、自己実現的態度や、充実感を高める教育が重要となる。特に大学進学率の低い高校において自己実現的態度や、充実感を高める教育が課題となる。
- 10 男子は女子に比べ性交渉制御感や生命尊重感が低いことから、男子に対する命への価値観を高める教育が必要と考える。

VII おわりに

本研究を進めるにあたり、調査の協力依頼に精力的に奔走いただいた、長野県渡辺庸子衛生部長、保健所経由での調査依頼にお力添えいただいた長野県衛生部健康づくり支援課松本清美主査保健師はじめ各保健所保健師の皆様に感謝申し上げます。

また、調査を快くお引き受けいただき、調査用紙の配布と回収の労をとっていただきました高等学校の学校長および養護教諭の皆様に心より感謝いたします。

最後に、今回の調査によって明らかにされた、長野県下の10代の性の意識と行動の実態からまとめられたことを今後の性意識の向上や性行動の防止などの活動に役立てていくことを祈願する。

VIII 文献

- 安日泰子, 宮原春美, 久保田健二他: 意識変容を促す性教育の模索. 思春期学. 14 (4), 1996, 272-278.
- Baldwin, J., Baldwin, J.: Gender differences in sexual interest, ASB, 26: 1997, 180~210.
- DoBlasio, F.A., Benda, B.: An integration theory: Adolescent sexual contacts, Journal of Youth and Adolescence, 23: 1994, 403~420.
- Fox, G. L., Inazu, J.K.: Patterns and outcomes of mother-daughter communication about sexuality, Journal of Social Issues, 22: 1980, 1561~1579.
- Frusternberg, F., Moore K.A., & Peterson J.L. Sex education and sexual experience among adolescents, American Journal of Public Health, 75(11): 1985, 1331~1332.
- 幡 研一: 10代の人工妊娠中絶についてのアンケート結果から, <http://www.jaog.or.jp/JAPANESE/MEMBERS/TANPA/H15/030217.htm>
- 林猪都子, 安部本子, 宮崎文子他: 高校生における性教育前後の意識の変化. 48-57, 社団法人日本助産師会大分県支部性教育研究会.
- 平石賢二: 青年期における自己意識の発達に関する研究 (I) —自己肯定性次元と自己安定性次元の検討—. Nagoya University (Educational Psychology) . 37, 1990, 217-234.
- 平石賢二: 青年期における自己意識の発達に関する研究 (II) —重要な他者からの評価との関連—. Nagoya University (Educational Psychology) . 40, 1993, 99-125.
- 平石賢二: 青年期後期の親子間コミュニケーションと対人意識, アイデンティティとの関連. 家族心理学研究. 14 (1), 2000, 41-59.
- 平岡友良: 高校生の性および性教育に関する意識調査. 思春期学. 21 (2), 2003, 192-199.
- 石田文太: 中学生の抑うつ感情と性意識・性行動. 思春期学. 15 (2), 1997, 152-157
- 伊東一夫: 長野県各地域における気質の相違の調査研究. 信濃教育会教育研究所紀要第26集, 1954, 1-79.

- 梶原祥子, 篁伊久美子, 牛島廣治: 看護女子学生の性に関する意識と行動から見た性教育についての一考察. 思春期学. 18 (3), 2000, 249-256.
- 市川健夫: 信州学大全. 信濃毎日新聞社, 長野, 921-991, 2005.
- 岸田泰子, 佐藤龍三郎, 林謙治: 思春期の性に関する援助のあり方 (第1報) —性に関する問題の現状と助産婦による援助のニーズ—. 思春期学. 13 (3), 1995, 208-213.
- 岸田泰子, 佐藤龍三郎, 林謙治: 思春期の性に関する援助のあり方 (第2報) —助産婦に期待される役割—. 思春期学. 13 (3), 1995, 214-219.
- 喜多村望: 教師の性意識と性教育実践上の課題. 思春期学. 11 (2), 1993, 185-191.
- Kotchick, B.A., Shaffer, A.Forehand, R., Miller, K.S.: Adolescent sexual risk behavior: A multi-system perspective, Clinical psychology Review, 21: 2001, 493~519.
- 宮崎美砂子・春山早苗: 最新地域看護学各論2. 日本看護協会出版会, 東京, 147-201., 2006.
- 望月良美: 高校生の行動特性と性意識・性行動からみた性教育に関する一考察. 思春期学. 17 (2), 1999, 204-209.
- 森光敬子: 学校における性教育の現状と課題: 思春期学. 20 (3), 2002, 317-321.
- 中山和美, 皆川恵美子: S T A I 不安尺度と両親ならびに友人関係との関連—医療系短大の女子学生における基礎調査—. 思春期学. 20 (3), 2002, 358-362.
- NHK「日本人の性」プロジェクト編: NHK日本人の性行動・性意識. 2002, 東京, NHK出版.
- 日本性教育協会: 若者の性白書: 「第6回青少年の性行動全国調査報告」. 2007, 東京, 小学館.
- 日本家族計画協会: 「第2回男女の生活と意識に関する調査報告書」: 平成16年度厚生労働科学研究費補助金「望まない妊娠、人工妊娠中絶を防止するための効果的な避妊教育プログラムの開発に関する研究」. 2005, 東京, 社団法人日本家族計画協会.
- 小川久貴子, 久米美代子, 村山より子: 思春期の性教育に関する教員の意識調査—静岡県A町公立中学校において—. WHS. 3, 2004, 53-61.
- 佐久保健所: 長野県佐久地域における「中学生の性に関する意識と行動」. 平成15年度厚生労働科学研究費補助金「学校保健との連携による健康教育の研究」, 佐久保健所.
- 佐藤龍三郎, 兵井伸行, 福島富士子他: 高校生の性知識, 性役割観, 性行動に関する研究 (第1報). 思春期学. 13 (3), 1995, 243-248.
- 斉藤益子: 高校生の性行動の実態と校長の意識—都内効率高校の調査から—. 思春期学. 18 (3), 2000, 257-263.
- 橘寿好, 長谷川泰子, 村口喜代: 10代の性意識、避妊、男女交際の現状—初期人工妊娠中絶手術を受けた10代患者のアンケート調査より—. 思春期学. 21 (2), 2003, 200-206.
- 竹井操: 都会における中・高校生の性意識・性行動. 思春期学. 13 (2), 1995, 116-121.
- 東京都性教育研究会 (都性研) 実態調査委員会: 児童・生徒の性: 「東京都幼・小・中・

- 高・心障学級・養護学校の性意識・性行動に関する調査」．2005，東京，小学館。
- Smith, W, R., & Aloisi, M.F. Prediction of recidivism among 'second timers' in the juvenile Justice system: Efficiency in screening chronic offenders. *America Journal of Criminology*, 31, 1999. 327～345.
- 上田公代：高校生の性意識と性行動—家族との関係より—。思春期学. 13 (2), 1995, 122-128.
- White,S,D., DeBlessie, R. : Adolescent sexual behavior. *Adolescence*, 27 : 1992, 183～191.

表 アンケート依頼先一覧

学校分類	学校番号	配布部数	有効回収部数	有効回収率(%)
高校	A	242	135	55.8
	B	170	20	11.8
	C	100	83	83
	D	104	91	87.5
	E	203	171	84.2
	F	290	273	94.1
	G	103	23	22.3
	H	160	129	80.6
	I	157	150	95.5
	J	240	97	40.4
	K	26	24	92.3
	L	120	106	88.3
	M	87	50	57.5
	N	150	128	85.3
	O	283	269	95.1
	P	149	138	92.6
	Q	285	279	97.9
	R	58	48	82.8
	S	113	88	77.9
短大・大学	T	80	59	73.8
	U	239	127	53.1
	V	60	57	95.0
	w	150	68	45.3
	X	250	246	98.4

18 看大第 75 号

長野県保健厚生チームリーダー 様

平成 18 年 8 月 4 日

長野県看護大学長

10 代の性に関する意識調査について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

本学母性看護学講座では 10 代の性に関する課題や活動に取り組んでおりまして、この度生徒に対する質問紙調査を計画しております。

平成 13 年度から進められている我が国の母子保健に関する国民運動計画である「健やか親子 21」では、思春期保健対策の強化と健康教育の推進を盛り込み、具体目標として 10 代の人工妊娠中絶と、性感染症の減少が課題となっております。

長野県におきましても「健やか親子 21」の中間評価の年を昨年迎え、中長期的な思春期の性に対する施策の評価と課題を明確にすることが求められております。5 年後の最終評価に向けた指針が必要になっております。北信地域や中信地域を中心としたピアカウンセラーの養成と、その後のカウンセラーの活動が定着しつつある中で、長野県下における 10 代の性に関する意識の実態を明らかにしつつ今後の活動について検討する必要があると考えます。そこで、県下 3000 名の中学生、高校生、大学生を対象とした性に関する調査を行いたいと思います。

本調査は匿名でお答えいただき、お答えいただいた事につきましては、個人が特定されないように処理いたしますし、本研究の他に用いることはありません。今回の調査結果は長野県の施策を進める上で多くの示唆を得ることができるものと考えます。

調査用紙は、中学校長会、高等学校校長会を通して依頼をし、大学におきましては直接研究者から学校長に依頼を行います。調査期間は平成 18 年度 9 月ころを予定しておりますので、調査の実施につきましてはご承知置きくださいますようお願い申し上げます。なお、本調査は、平成 18 年度の長野県看護大学特別研究費によって行われるもので、本研究計画書は長野県看護大学倫理委員会の承認（審査番号 # 14）を得ております。

<研究代表者> 長野県看護大学 看護学部

母性看護学講座教授 清水 嘉子

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂〇番地

Tel.&Fax 0265-〇-.....

e-mail@nagano-nurs.ac.jp

<共同研究者> 松原美和 藤原聡子 松浦志保 赤羽洋子 宮澤美知留

<研究協力者>

伊那保健所所長 渡辺庸子 / 長野県衛生部健康づくりチーム 保健師 松本清美

18 看大第 75 号

平成 18 年 8 月 4 日

長野県高等学校長会会長 様

長野県看護大学長

10 代の性に関する意識調査へのご協力のお願い

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

本学母性看護学講座では、10 代の性に関する課題や活動に取り組んでおりまして、この度、以下の趣旨で中学生、高校生、大学生への質問紙調査を計画しております。つきましては、中学生への調査にあたりまして、格段のご配慮を賜りたく存じます。

平成 13 年度から進められている我が国の母子保健に関する国民運動計画である「健やか親子 21」では、思春期保健対策の強化と健康教育の推進が盛り込まれ、具体目標として 10 代の人工妊娠中絶と、性感染症の減少が課題となっています。

平成 13 年度の 10 代で人工妊娠中絶を受けた 626 人を対象にした調査結果から、産みたかったとする女性は 38.42% を占めており、10 代でも出産育児をするための社会政策を整えることも課題であるとされています。さらに 10 代の人工妊娠中絶は特に 16 歳以降急激に増加していることから、早い段階からの性教育の必要性が叫ばれています。

こうした現況にあつて、長野県下の「健やか親子 21」の中間評価の年を昨年迎え、中長期的な思春期の性に対する施策の評価と課題を明確にすることが求められておりまして、5 年後の最終評価に向けた指針が必要になっております。また北信地域や中信地域を中心としたピアカウンセラーの養成と、その後のカウンセラーの活動が定着しつつある中で、長野県下における 10 代の性に関する意識の実態を明らかにしつつ今後の活動について検討する必要があると考えます。今回の調査結果につきましては、まとめました後に書面にて報告をさせていただきます。

本調査は、平成 18 年度の長野県看護大学特別研究費によって行われるもので、本研究計画書は長野県看護大学倫理委員会の承認（審査番号 #14）を得ております。具体的な調査の内容は別紙に示しておりますので、本研究の意義をご理解いただき、調査にご協力いただけますことをお願い申し上げます。

*研究に対する問い合わせ先

長野県看護大学 看護学部

母性看護学講座教授 清水 嘉子

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂〇番地

Tel&Fax 0265-〇-〇〇〇〇 e-mail 〇〇〇〇@nagano-nurs.ac.jp

*研究協力者 長野県伊那保健所所長 渡辺庸子

長野県衛生部健康づくりチーム 保健師松本清美

保護者の皆様

生徒を対象にした「10代の性に関する意識調査」の協力をお願い

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

長野県看護大学母性看護学講座では10代の性に関する課題や活動に取り組んでおりまして、この度、生徒に対する質問紙調査を計画しております。

平成13年度から進められている我が国の母子保健に関する国民運動計画である「健やか親子21」では、思春期保健対策の強化と健康教育の推進を盛り込み、具体目標として10代の人工妊娠中絶と、性感染症の減少が課題となっております。

長野県におきましても「健やか親子21」の中間評価の年を昨年迎え、中長期的な思春期の性に対する施策の評価と課題を明確にすることが求められております。5年後の最終評価に向けた指針が必要になっております。北信地域や中信地域を中心としたピアカウンセラーの養成と、その後のカウンセラーの活動が定着しつつある中で、長野県下における10代の性に関する意識の実態を明らかにしつつ今後の活動について検討する必要があると考えます。

そこで、是非とも県下で学ぶ生徒の皆様への性に関する考えや感想を聞かせたいと思います。調査は決して生徒さんに強要するものではありませんので、調査の主旨をご理解頂き調査への協力をお願い申し上げます。この調査に関するご質問などございましたら、下記まで何なりとお問い合わせ下さい。本調査は匿名でお答えいただき、お答えいただいた事につきましては、個人が特定されないように処理いたしますし、本研究の他に用いることはありません。今回の調査結果は長野県の施策を進める上で多くの示唆を得ることができるものと考えます。ご理解とご協力のほどお願い申し上げます。調査用紙は、学校を通して生徒の皆様へ配布させていただきます。

なお、本調査は、平成18年度の長野県看護大学特別研究費によって行われるもので、本研究計画書は長野県看護大学倫理委員会の承認(審査 番号#14)を得ております。

調査に関する問い合わせ先

<研究代表者>

長野県看護大学 看護学部

母性看護学講座教授 清水 嘉子

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂〇番地

Fax0265-〇-・・・ e-mail ・・・@nagano-nurs.ac.jp

<共同研究者>

松原美和 藤原聡子 松浦志保 赤羽洋子 宮澤美知留

<研究協力者>

伊那保健所所長 渡辺庸子／ 長野県衛生部健康づくりチーム 保健師 松本清美

高校、短大、大学生の皆様

10 代の性についての意識や行動に関する調査の協力のお願い

皆様、日々お元気に学業に取り組まれていることと存じます。

本学母性看護学講座では 10 代の性に関する課題や活動に取り組んでおりまして、この度皆様に対する性についての意識や行動に関する調査を計画しております。

つきましては是非とも皆様の性に対するお考えや感想をお聞かせいただきたいと思います。

そこで、皆様に本調査に対するご理解を頂き、調査への協力をお願い申し上げます。尚、この調査は決して皆様に強要するものではありません。答えたくない設問については、お答え頂かなくても結構です。

本調査にご協力いただけます方は、調査用紙に回答され、調査用紙を封筒に入れ密封して、担任または指定のところに定められた期日までに提出してください。学校ごとにまとめて回収したいと考えております。お答えいただくのに 20 分ほどかかります。

各質問に対しては、日頃考え感じているそのままのお気持ちでお答えいただければと存じます。この調査に関するご質問などございましたら、下記まで何なりとお問い合わせ下さい。本調査は匿名によりお答えいただき、お答えいただいた事につきましては、個人が特定されないように処理いたしますし、本研究の他に用いることはありません。また、研究終了時には情報が漏れないように注意し破棄いたします。

なお、本調査は、平成 18 年度の長野県看護大学特別研究費によって行われるもので、本研究計画書は長野県看護大学倫理委員会の承認（審査番号 # 14）を得ております。

調査に関する問い合わせ先

<研究代表者>

長野県看護大学 看護学部

母性看護学講座教授 清水 嘉子

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂 1 6 9 4 番地

Tel&Fax 0265-81-5181

e-mail simizuy@nagano-nurs.ac.jp

<共同研究者>

松原美和 藤原聡子 松浦志保 赤羽洋子 宮澤美知留

<研究協力者>

伊那保健所長 渡辺庸子／長野県衛生部健康づくりチーム 松本清美

Q1 あなたの年齢は _____ 歳 性別は 1. 男 2. 女

Q2 あなたが在学している学校は 1. 高等学校 2. 短期大学 3. 大学

Q3 あなたが在学している学年は 1. 1年 2. 2年 3. 3年 4. 4年

Q4 あなたが現在住んでいる市町村は(人口がわからない方は4に住んでいる市町村名をお書き下さい。)

1. 人口10万人以上の市 2. 人口10万人以下の市 3. 人口3万人以下の町村 4. ()

◎あなたの現在住んでいる地区は

ア. 北信地区(長野市と周辺) イ. 中信地区(筑摩安曇野木曽)

ウ. 東信地区(佐久小県) エ. 南信地区(諏訪伊那)

Q5 あなたのお父さんの職業は 1. 勤め人 2. 自営業 3. 農林業 4. その他 5. 父はいない

Q6 あなたのお母さんの職業は 1. 勤め人 2. 自営業 3. 農林業 4. 専業主婦 5. 母はいない

Q7 あなたに兄弟姉妹はいますか。 1. 兄 2. 弟 3. 姉 4. 妹 5. いない

Q8 あなたには次のような同性の友人がいますか。

1. 学校でよく話しをする 2. 一緒に遊びに行く 3. 何でも打ち明けて話せる

Q9 あなたには次のような異性の友人がいますか。

1. グループでつきあう 2. 親友と呼べる 3. 恋人と呼べる

Q10 あなたは性的なことに関心がありますか。

1. ある 2. ない 3. どちらともいえない

Q11 あなたの性にかかわる考え方や行動に、これまでどんなものが影響を与えたと思いますか?

	影響した	影響しない	どちらともいえない
1. 親.....	3	2	1
2. 兄弟姉妹.....	3	2	1
3. 友人.....	3	2	1
4. 先輩.....	3	2	1
5. 教師.....	3	2	1
6. 新聞や雑誌の記事.....	3	2	1
7. 漫画コミックス.....	3	2	1
8. その他の本.....	3	2	1
9. 性教育(学校で行われた) ...	3	2	1
10. テレビラジオ	3	2	1
11. ビデオ	3	2	1
12. インターネット	3	2	1
13. その他< >	3	2	1

◎もっとも強く影響したものは1～13のうちどれですか。 ()

Q12 あなたは学生が性交渉をすることについてどう思いますか。

- | | | |
|---|-------|-------|
| 1. 性行為は妊娠や性感染症について、自分で責任のとれる年齢や立場に
なってからすべきだ | ア. 賛成 | イ. 反対 |
| 2. 妊娠や病気が学業に与えるその後の影響を考えると、しないほうがよい | ア. 賛成 | イ. 反対 |
| 3. 妊娠によって一つの命がはぐくまれるのであり、学生であっても
責任をとる覚悟があるならばよい | ア. 賛成 | イ. 反対 |
| 4. 個人の自由である | ア. 賛成 | イ. 反対 |
| 5. 避妊さえ気をつければしてもよい | ア. 賛成 | イ. 反対 |
| 6. 周りの人がしていると聞いているのでしてもかまわない | ア. 賛成 | イ. 反対 |
| 7. その他 (| |) |

Q13 あなた自身は性交渉の体験はありますか。

1. ある 2. ない

◎「ある」と答えられた方のみお答えください。体験は何歳の時ですか。

歲

◎初めての性交渉の時の避妊について教えてください。

1. 避妊をした ア. した イ. しない ウ. わからない(忘れた)

◎「避妊をした」方のみお答えください。

2. 避妊の方法は ア. 男性用コンドーム イ. 膣外射精
ウ. その他

◎「避妊をしなかった」方のみお答えください。(複数回答可)

3. なぜ避妊をしなかったのですか
- ア. 避妊について知らなかった イ. 妊娠しないと思った
- ウ. 面倒だった エ. 避妊をしようといったが断られた
- オ. 避妊について言い出せなかった カ. 避妊具がなかった
- キ. その他

—— 次のページにお進み下さい ——

Q14 あなたは、性に関する事柄について知りたいですか。

1. 知りたい 2. 知りたくない

◎「知りたい」と答えた方のみお答えください。

あなたは一般的に何歳くらいの時に知るべきだと思いますか。1から16のそれぞれについてお答えください。〈○はそれぞれ1ずつ〉

	小 学 生	中 学 生	高 校 生	大 学 生	個人によって異なる	知る必要はない
1. 男女の身体の仕組み(違いや二次性徴について)……	1	2	3	4	5	6
2. 異性の心 ……………	1	2	3	4	5	6
3. 男女のつきあい ……………	1	2	3	4	5	6
4. マスターベーション ……………	1	2	3	4	5	6
5. 性行為(セックス)……………	1	2	3	4	5	6
6. 避妊の方法 ……………	1	2	3	4	5	6
7. 妊娠や出産(生命誕生)……………	1	2	3	4	5	6
8. 性感染症(エイズをのぞく)…	1	2	3	4	5	6
9. エイズ ……………	1	2	3	4	5	6
10. 男女の平等、差別について…	1	2	3	4	5	6
11. 胎児の成長と能力 ……………	1	2	3	4	5	6
12. 人工妊娠中絶について ……	1	2	3	4	5	6
13. 性的被害(レイプや性暴力)の対処法…	1	2	3	4	5	6
14. 愛とは何か ……………	1	2	3	4	5	6
15. 性は人生にどういう意味を持つか…	1	2	3	4	5	6
16. その他く >	1	2	3	4	5	6

あなたが現在性について知りたいことは何ですか？1～16のなかから1つお答え下さい。（ ）

◎「知りたくない」と答えた方は、その理由についてお答えください。

[illegible]

Q15 あなたは今までに性に関する教育を受けたことがありますか。

1. ある 2. ない

◎「ある」と答えた方のみお答えください。

それはあなたにとって役に立ちましたか。

1. 非常に役に立つと感じた 2. 役に立つと感じた
3. 役に立たないと感じた 4. どちらともいえない

それはどこで誰から受けましたか。(いくつ〇をしてもかまいません)

1. 学校(ア. 大人 イ. 同世代) 2. 家庭(ア. 父 イ. 母)
3. その他

特に1.「学校」での性に関する教育で教わったことはどのようなことですか。(複数回答可)

1. 体や性に関する知識 2. 避妊の具体的な方法 3. 人体尊重や命に対する考え方
4. その他

Q16 あなたは胎児についてどのように考えますか。

- | | | |
|---|-------|--------|
| 1. 考えたことがない | ア. ある | イ. ない |
| 2. 胎児といえども1人1人がかけがえのない存在であり、
命を大切に考えたい | ア. はい | イ. いいえ |
| 3. 法律で中絶が認められている範囲においては人として考えなくて良い | ア. はい | イ. いいえ |
| 4. おなかの中にいる胎児はまだ人として考えなくていい | ア. はい | イ. いいえ |
| 5. その他 (| |) |

Q17 あなたは人工妊娠中絶についてどう思いますか。

- | | | |
|---|-------|--------|
| 1. 医学的理由(妊娠を続けると母体の生命が危険)以外は絶対避けるべき ... | ア. 賛成 | イ. 反対 |
| 2. 望まない妊娠ならばしても仕方ない | ア. 賛成 | イ. 反対 |
| 3. 経済的理由ならばしても仕方ない | ア. 賛成 | イ. 反対 |
| 4. 女性の意思選択権として行われても仕方ない | ア. 賛成 | イ. 反対 |
| 5. どう考えたらよいかわからない | ア. はい | イ. いいえ |
| 6. その他 (| |) |

Q18 あなたは思春期ピアカウンセラー養成講座を受けたことがありますか。

※ピアカウンセラー養成講座とは＝性に対する正しい知識を学び、自分たちの性に対する自己決定力を高め、仲間意識を持って行う
相談活動ができる人を育てること。長野県などが各地で開催している4時間のコース。

1. ある 2. ない

◎「ある」と答えた方のみ答えてください。講座は有意義でしたか。

1. 有意義だった 2. 意義はなかった 3. どちらともいえない

◎「ない」と答えた方のみ答えてください。講座を受けてみたいと思いますか。

1. 受けてみたい 2. 受けたくない 3. どちらともいえない

Q19 あなたは現在、性に関して不安や悩みはありますか。

1. ある 2. ない

◎「ある」と答えた方のみお答えください。どのようなことですか？

()

—— 最後のページにお進み下さい ——

Q20 41個の質問項目があります。それぞれの文章をよく読んで、それが現在の自分にとってどのくらいあてはまるかを考え、もっとも適していると思われるところに○印をつけてください。

	あてはまらない	どちらかといえばあてはまらない	どちらともいえない	どちらかといえばあてはまる	あてはまる
1. 自分なりの個性を大切にしている。……………	1	2	3	4	5
2. 私には私なりの人生があってもいいと思う。……	1	2	3	4	5
3. 自分の良いところも悪いところもありのままに受け止めることができる。…	1	2	3	4	5
4. 自分の個性を素直に受け入れている。……………	1	2	3	4	5
5. 自分の夢を叶えようと意欲に燃えている。……………	1	2	3	4	5
6. 情熱を持って何かに取り組んでいる。……………	1	2	3	4	5
7. 前向きの姿勢で物事に取り組んでいる。……………	1	2	3	4	5
8. 自分の良い面を一生懸命伸ばそうとしている。…	1	2	3	4	5
9. 張り合いがあり、やる気がでている。……………	1	2	3	4	5
10. 本当に自分のやりたいことがなんなのかわからない。…	1	2	3	4	5
11. 自分には目標というものが無い。……………	1	2	3	4	5
12. 生活がすごく楽しいと感じる。……………	1	2	3	4	5
13. わだかまりがなく、すかっとしている。……………	1	2	3	4	5
14. 充実感を感じる。……………	1	2	3	4	5
15. 精神的に楽な気分である。……………	1	2	3	4	5
16. 自分の好きなことがやれていると思える。……………	1	2	3	4	5
17. 自分はのびのびと生きていくと感じる。……………	1	2	3	4	5
18. 満足感がもてない。……………	1	2	3	4	5
19. ころから楽しいと思える日がない。……………	1	2	3	4	5
20. 他人との間に壁をつくっている。……………	1	2	3	4	5
21. 人間関係をわずらわしいと感じる。……………	1	2	3	4	5
22. 自分は他人に対してこころを閉ざしているような気がする。…	1	2	3	4	5
23. 自分はひとりぼっちだと感じる。……………	1	2	3	4	5
24. 私は人を信用していない。……………	1	2	3	4	5
25. 友達と一緒にいてもどこかさびしく悲しい。……	1	2	3	4	5
26. 友人と話していても全然通じないので絶望している。…	1	2	3	4	5
27. 他人に対して好意的になれない。……………	1	2	3	4	5
28. 相手に気を配りながらも自分の言いたいことを言うことができる。…	1	2	3	4	5
29. 自分の納得のいくまで相手と話し合うようにしている。…	1	2	3	4	5
30. 疑問だと感じられたらそれらを堂々と言える。…	1	2	3	4	5
31. 友達と真剣に話し合う。……………	1	2	3	4	5
32. 人前でもこだわりなく自由に感じたままを言うことができる。…	1	2	3	4	5
33. 人前でもありのままの自分を出せる。……………	1	2	3	4	5
34. 自主的に友人に話しかけていく。……………	1	2	3	4	5
35. 人から何か言われないか、変な目でみられないかと気にしている。…	1	2	3	4	5
36. 人に対して自分のイメージを悪くしないかと恐れている。…	1	2	3	4	5
37. 自分が他人の目にどう映るかを意識すると身動きできなくなる。…	1	2	3	4	5
38. 他人に自分の良いイメージだけを印象づけようとしている。…	1	2	3	4	5
39. 無理して人にあわせようとしてきゅうくつな思いをしている。…	1	2	3	4	5
40. 自分は他人よりおとっているかすぐれているかを気にしている。…	1	2	3	4	5
41. 人に気をつかいすぎて疲れる。……………	1	2	3	4	5

Q21 性感染症はあなたにとって身近な病気と考えますか。

1. はい 2. いいえ

Q22 性感染症についてあなたが知っていることについてお答えください。

- | | | | |
|------------------------------|-------|--------|----------|
| 1. 遺伝する病気ではない。…………… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 2. ウイルスが原因で感染する病気である。…………… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 3. コンドームは感染予防に効果がある。…………… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 4. 日本では患者数が増加している。…………… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 5. 健康そうに見えていても感染していることがある。… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 6. 主に性行為によって感染する。…………… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 7. 性感染症にはエイズも含まれている。…………… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 8. 性感染症は自分だけが治療すればよい。…………… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 9. 早期に感染を知ることによってエイズの発症を防げる… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 10. 性感染症のことはよくわからない。…………… | ア. はい | イ. いいえ | |

Q23 次の避妊の方法のうち、あなたが知っているのはどれですか。

- | | | | |
|-----------------------------|-------|--------|----------|
| 1. コンドーム…………… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 2. ピル(経口避妊薬)…………… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 3. フィルム状避妊薬…………… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 4. 月経からの日数を数える…………… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 5. 基礎体温をはかる…………… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 6. 膈外射精法(精液を外に出すこと)…………… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 7. 女性用コンドーム…………… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 8. ペッサリー…………… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 9. 緊急避妊法…………… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 10. IUD(避妊リング)…………… | ア. はい | イ. いいえ | ウ. わからない |
| 11. 避妊の方法については、よくわからない…………… | ア. はい | イ. いいえ | |

◎Q23の1～10の中でもっとも確実な避妊の方法と思われるものは何番ですか。 ()番

Q24 最後に何でもかまいません。お気づきのことがありましたら自由にお書きください。

—— 調査に協力いただきまして大変ありがとうございました ——

長野県における 10 代の性に関する意識と行動

清水嘉子 藤原聡子 松原美和 宮澤美知留 福澤照代 林陽子

塩澤綾乃 赤羽洋子 松浦志保 内田雅代 研究協力者 渡辺庸子 松本清美

I はじめに：我が国の 10 代の人工妊娠中絶は 16 歳以降急激に増加していることから、早い段階からの性教育の必要性が叫ばれている。こうした現況にあつて、長野県下の「健やか親子 21」の中間評価を迎え中長期的な思春期の性に対する施策の評価と課題を明確にすることが求められ、次年度の最終評価に向けた指針が必要になっている。しかし、長野県在住者を対象とした 10 代の性に関する意識と行動の実態は過去 2 回の調査が行われているのみで、十分に明らかにされているとは言えない。そこで、その実態を解明することを課題とした基礎的研究として本研究に取り組んだ。

II 研究目的：1. 10 代の性に関する意識や行動を性差や世代、地域、在住人口、大学進学率別に明らかにする。
2. 生命尊重感や性交渉制御と自己肯定意識との関連について明らかにする。

III 研究方法：

1. 研究対象：長野県下より抽出された 10 代の男女 3819 人（高校 21 校＜2 年生＞、大学・短大 5 校＜1 年生＞）
2. 調査方法：研究代表者または、研究協力者が直接学校長に調査の主旨を説明し依頼した。調査の了解を得た後、留め置き法（学校配布、後日回収）による調査を行った。
3. 調査期間：平成 18 年 9 月～平成 19 年 1 月
4. 調査内容：先行調査をふまえ、性に関する意識や行動を問う質問紙調査表を作成した（Q1-24）。主たる質問項目は、対象者の属性、性に対する考え方や行動に影響する要因、性に対する意識（性交渉、胎児、中絶に対する考え、性に関する教育内容の希望や時期、性感染症や避妊に対する認識、ピアカウンセラー養成や性教育の経験、性体験の有無や初体験時の避妊など）、平石（1990）による自己肯定感尺度（41 項目、5 段階評価）を用い青年期特有の心性である自己評価や適応感を明らかにした。
5. 分析方法：SPSS 統計ソフト ver14 を用いて統計学的な処理（ χ^2 検定、分散分析、相関分析、因子分析、重回帰分析）を行い、性差、世代差（16 歳、17 歳、18 歳以上）、地域差（北信、中信、南信、東信）、大学進学率別（大学進学 50% 以上、大学進学 49-20% 以上、大学進学 19% 未満）意識や行動、さらに性意識（生命尊重に対する意識【生命尊重感（7 項目）】や学生の性交渉に対する意識【性交渉制御感（6 項目）】）と自己肯定感による分析を行った。自由記述については内容を検討し分類した。
6. 倫理的配慮：平成 17 年度長野県看護大学倫理委員会の承認（審査番号 #14）を得た。

IV 結果：調査用紙の回収率：2859 人の回収（回収率 74.9%）、有効回答は 2779 人であった（有効回収率 72.8%）。

対象者の属性では、年齢は 17.1 ± 1.2 歳、性別では男性 1276 人（45.9%）、女性 1503 人（52.0%）であった。

本研究の結果では、性差では、女性性は性体験者、性に関する悩み、生命尊重感や性交渉制御感が高く、男性は性的な関心が高かった。性差にかかわらず“友人”や“性教育”による影響を受けており、性教育のテーマでは“愛とは何か”に対するニーズが高く、“中学生の時期”に知りたいとする者が多かった。

また、性体験者は南信と中信に多く、在住人口規模が拡大するに従い初体験年齢が高くなっていた。一方、初体験年齢の低い者は、北信と東信、さらに在住人口規模の小さい町村に高かった。大学進学率では進学率の高い高校ほど性への関心や不安・悩みを持つ者が多く、進学率の低い高校ほど性体験者が多かった。世代差では、15 歳に達する以前に初体験をしている者がもっとも多く、世代が高くなるに従い性体験者数、性や性教育への関心、悩みや不安が高くなっていた。自己肯定感との関係では自己実現態度が高い者ほど、生命尊重感や性交渉制御感が高いことが明らかになった。

長野県における10代の性に関する意識と行動

清水嘉子（研究代表者）
藤原聡子 松原美和 宮澤美知留 福澤照代 林陽子
塩澤綾乃 赤羽洋子 松浦志保 内田雅代
研究協力者 渡辺庸子 松本清美

長野県看護大学平成18・19年度特別研究

I はじめに

15歳以降の中絶率、性感染症の増加から、早い段階での性教育が必要



「健やか親子21」の最終評価に向けた指針が必要



長野県に在住する10代の性に関する意識や行動の実態について十分に明らかにされているとは言えない

（大町の3高校 639人 平成15年調査、佐久市の全中学校 5059人 平成16年調査）



性に関する実態解明のための基礎的研究として取り組む

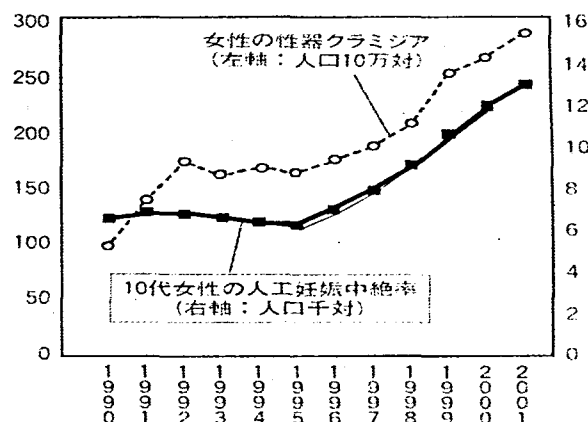


図5 10代の人工妊娠中絶率とクラミジア感染症の年次推移

II 研究目的

- 1 長野県在住者の10代の性に関する意識について性差による世代、地域、大学進学率の特徴、初体験年齢、在住人口による特徴を明らかにする
- 2 生命尊重感や性交渉制御感と自己肯定意識との関係について明らかにする

III 研究方法

1 研究対象:

長野県に在住する10代の男女3,819人(高校21校<2年生>、大学・短大5校<1年生>)

北信 7高等学校

中信 6高等学校、1短大

東信 3高等学校、1大学

南信 4高等学校、1大学、1短大

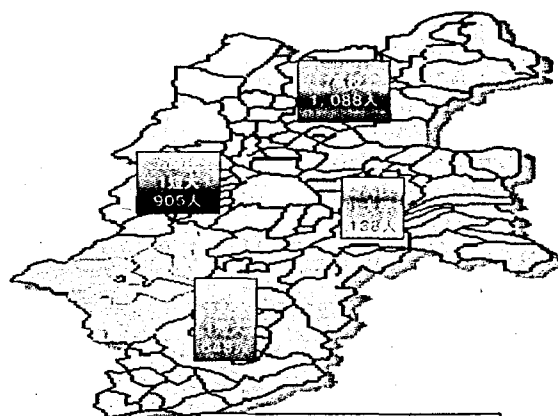


図 長野県の4地区における調査協力校の分布

2 調査方法:学校長に調査の了解を得た後、 留め置き法(学校配布、後日回収)による質 問紙調査を実施

研究者より高等学校校長会会長に研究の主旨を説明し調
査を実施することの了解を得た

＜中学校での調査は学校長会に出向き説明し協力の依頼
をしたが、受け入れられず調査を断念＞

大学・短大では、教務科長、副学長、健康管理セン
ター長、養護教諭に調査依頼を行い調査を進めた

3 調査の内容:

「第2回男女の生活と意識に関する調査報告書」2005年
「東京都幼・小・中・高・心障学級・養護学校の性意識・性行
動に関する調査」2005年
「第6回青少年の性行動全国調査報告」2007年
NHK日本人の性行動・性意識 2002年



質問項目は、性教育に対する注目と逆風の折り、
残念ながら教育上支障のない内容にとどめた(Q1-24)



性交渉の体験の有無 初体験の年齢 初体験時の避
妊について(有無、方法、理由)

調査項目



- 1 属性(年齢、地域特性、両親の有無と職業、兄弟姉妹の
有無、同性・異性の友人)
- 2 性に対する考え方や行動への影響要因(性情報、ピアカ
ウンセラー養成講座、性教育を受けた経験)
- 3 性に対する意識(性交渉、胎児、人工妊娠中絶に対する
考え方、希望する性教育の内容や時期、性感染症や避妊
に対する認識)
生命尊重感尺度(6項目、3因子)
性交渉制御感尺度(6項目、2因子)作成 主成分分析
- 4 性体験の有無、初体験時の避妊や避妊の理由など
- 5 自己肯定意識尺度 平石 1990(41項目5段階評定)
対自己領域3因子＜自己受容4項目、自己実現的態度7項目、充実感8項目＞
対他者領域3因子＜自己閉鎖性・人間不信8項目、自己表明・対人的積極性7項
目、批評的意識・対人緊張7項目＞

5 調査期間:

平成18年8月～平成19年1月(6ヶ月間)

6 倫理的配慮:

平成17年度長野県看護大学倫理委員会の承
認(審査番号#14)を得ている。

保護者への協力依頼

質問紙の回答に対する秘密保持

1)保護者および対象者には調査の主旨説明の文書を配布し協力
を依頼(調査用紙の回収をもって調査の協力の同意が得られたも
のと判断)

2)調査用紙の配布および回収は各学校の対応に任せた

3)調査用紙に記入後は用紙を封筒に入れ密封し回収、学校ごと
に着払い便で大学へ返送

4 データ分析:SPSS統計ソフトver14を用いた。

自由記述については内容を検討し分類した。

分析項目の欠損値は削除した。

χ²検定

性別……(男、女)……さらに性別による性体験、世代
別、地区、大学進学率

分散分析

在住人口……(10万人以上、10万人未満3万以上、3万人未満)

初体験年齢……(15歳以下、16歳、17歳以上)

相関分析、分散分析、因子分析、重回帰分析

生命尊重感、性交渉制御感と自己肯定意識

IV 結果・考察

調査用紙の回収率

2,859人の回収(回収率74.9%)

全問無回答を除く有効回答は2,779人(有効回収率72.8%)

対象者の背景

年齢 17.1±1.2歳

世代 16歳27.5% 17歳49.6% 18歳以上24.9%

性別 男性 46.2% 女性 54.4%

地区 北信39.2% 中信32.6% 南信23.3% 東信5.0%

人口 人口10万人以上の市 44.5%

人口10万人未満3万人以上の市 29.5%

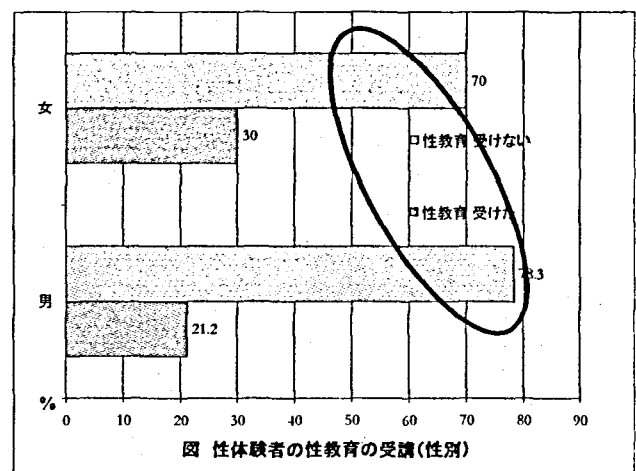
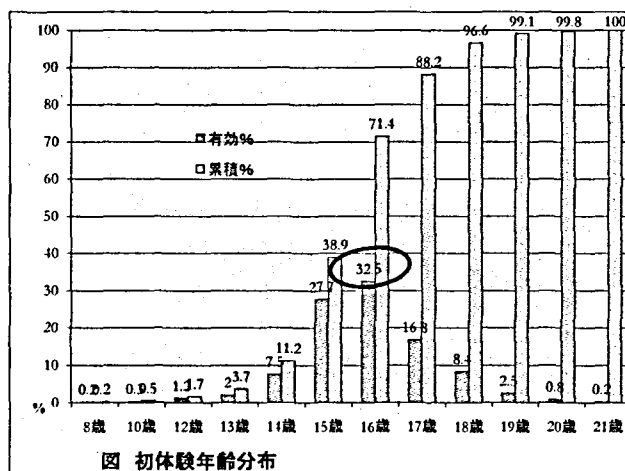
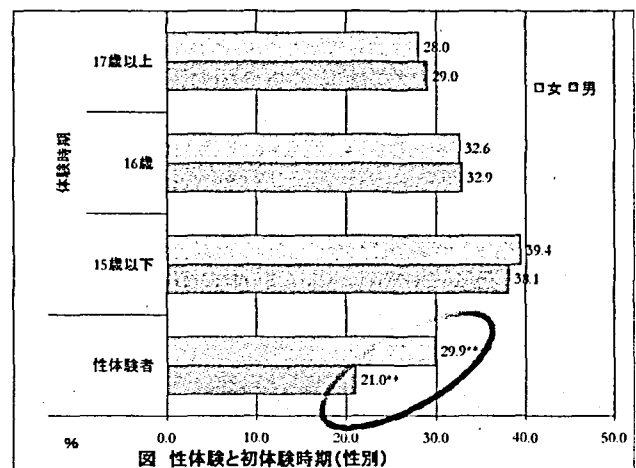
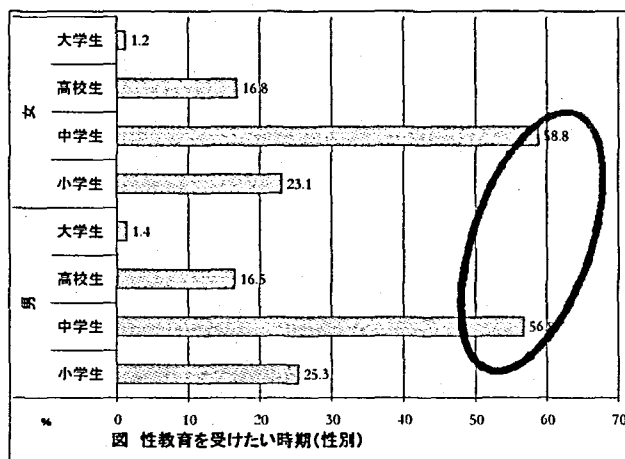
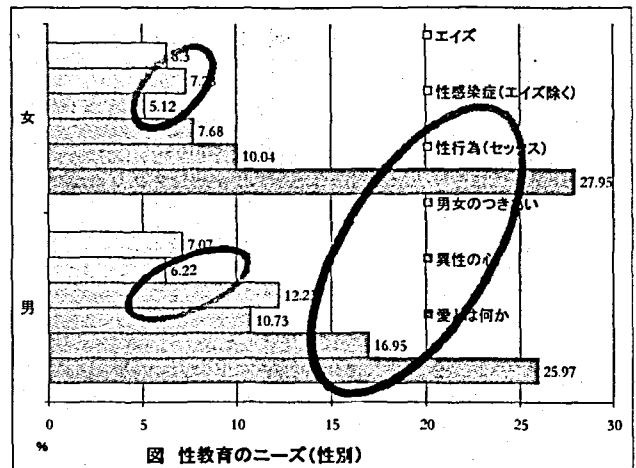
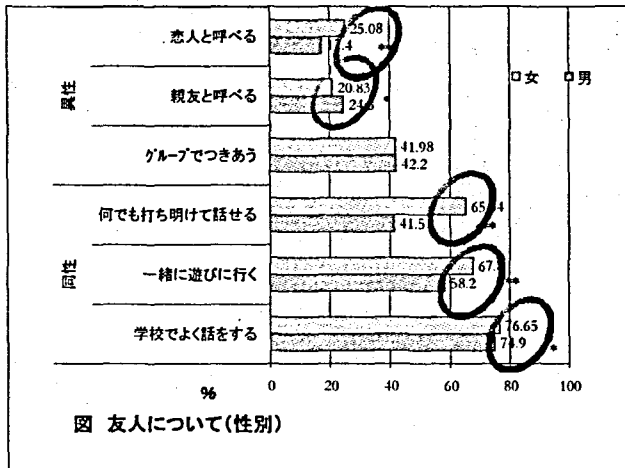
人口3万人未満の町村 26.0%

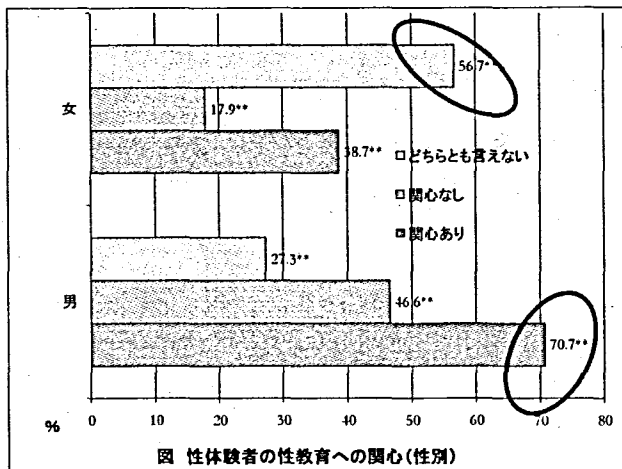
大学進学率

50%以上 36.7%

50%未満～20%以上 22.6%

20%未満 40.8%





性差による特徴

女子

同性の友人(学校でよく話をする76%、一緒に遊びに行く67%、何でも打ち明けて話せる65%)

異性の友人(恋人と呼べる25%)

男子

異性の友人(親友と呼べる24%)

親密な仲間関係は性行動
を含み様々な行動をガイド
する(Reiss, 1970)

男女とも自分の友人が性的
に積極的
と知覚する
とき、より性
的に積極的
になる(Kotchick
& Miller, 2001)

性差なし

もっとも知りたい性教育の内容「愛とは何か」
知っておくべき時期 中学生の時期が多い

初体験年齢は15歳以下(男子88人38%、女子156人39%)、16歳(男子76人33%、女子129人33%)、17歳以上(男子67人29%、女子111人28%)の順に体験人数は減る傾向

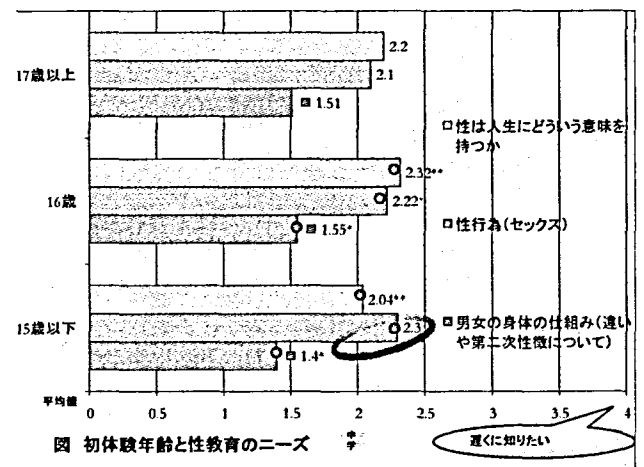
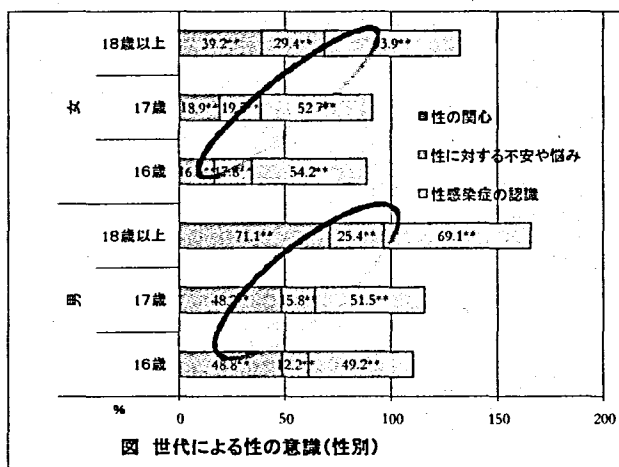
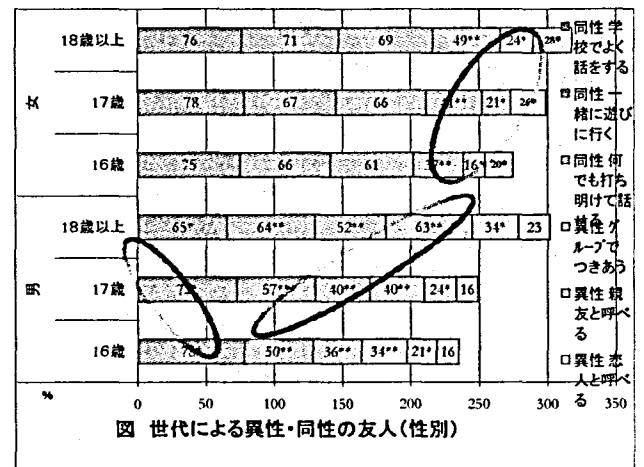
初体験時の避妊80%。そのうちコンドーム75%。性差なし

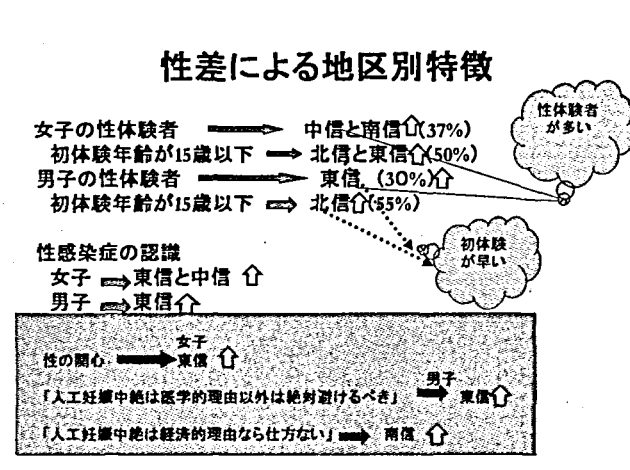
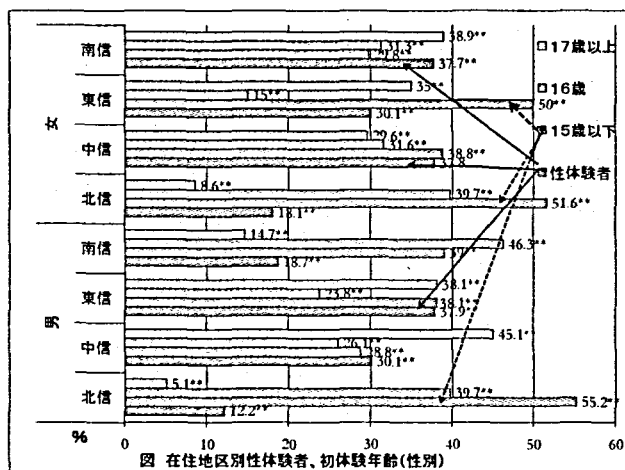
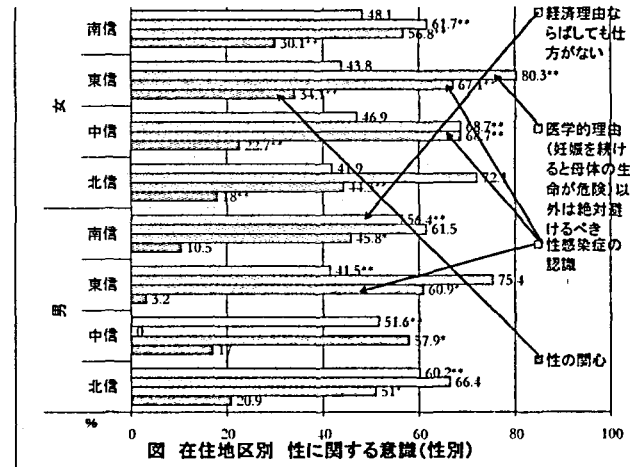
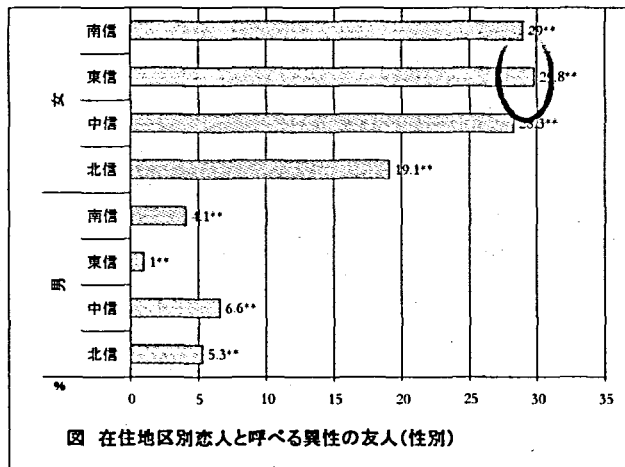
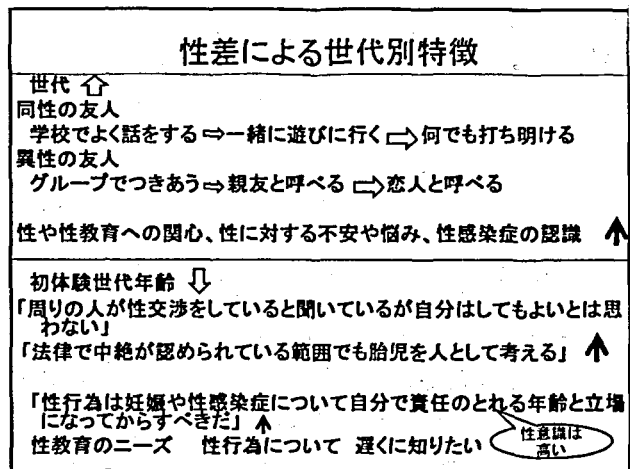
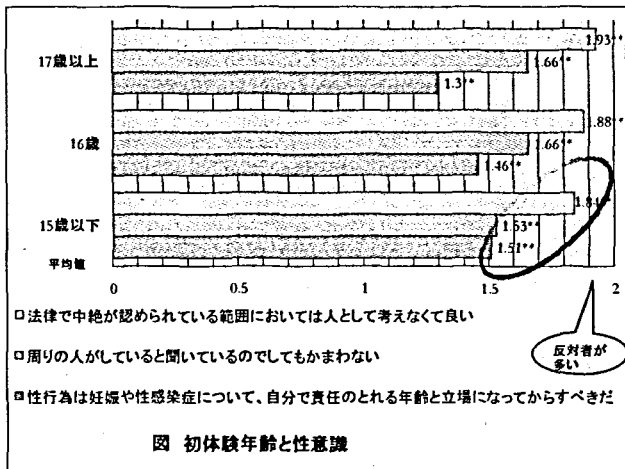
性体験者 男子261人(21%) < 女子422人(30%)

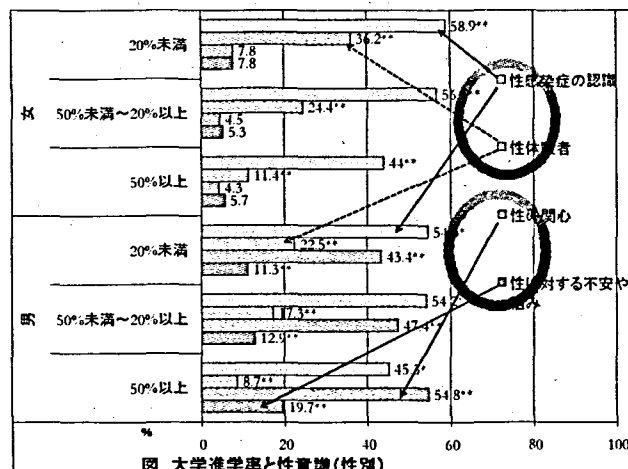
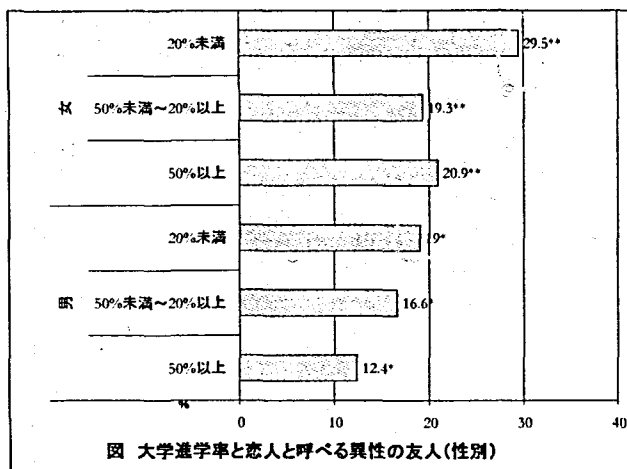
大町男子 28%(高1 23%) < 女子40%(29%)

佐久(中学1.2.3年の平均)男子13% > 女子11%

性体験者 男女とも 性教育を受けていない……70-80%
性的関心が高い……70-40%







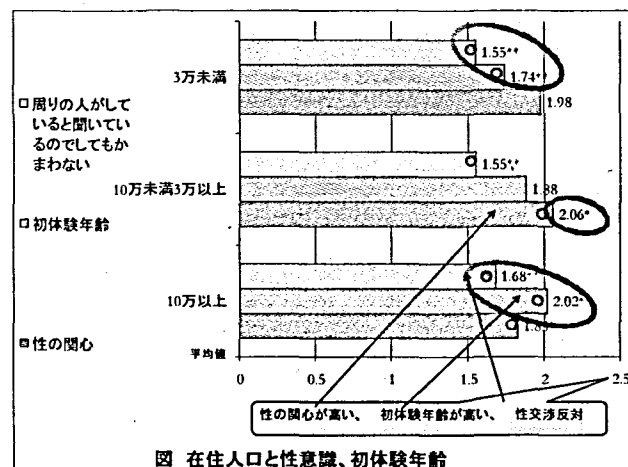
性差による大学進学率別特徴

異性の友人
グループでつきあう、親友と呼べるく恋人と呼べる
男(19%)女(30%)とも ⇒ 進学率20%未満の高校

性の関心(80%)
性の不安や悩み(20%) ↑
男子 ⇒ 進学率50%以上の高校

性感染症に対する認識(男55%, 女59%)、性体験者
男(23%)、女(36%)とも進学率20%未満の高校

学業に対する達成動機の高さは性行動を遅延させる
(Crosby & Sottili, 1992)
(Benda & Dibble, 1994)



在住人口別特徴

3万人未満の町村に在住。○ ○ ○
初体験年齢 15歳以下(44%)

10万人未満3万人以上の市在住
性の関心

10万人以上の市に在住
周りの人がしていると聞いているのでかまわない(29%) 反対 ↑

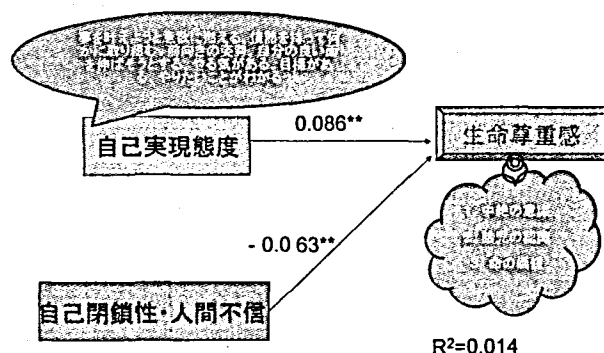


図 生命尊重感(従属変数)、自己肯定感(6因子)を独立変数にした重回帰分析(ステップワイズ法)

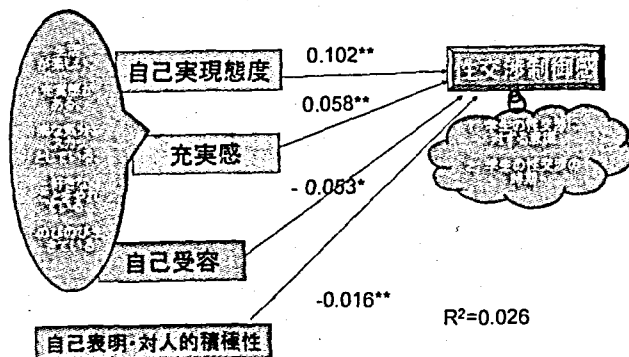


図 性交渉制御感(従属変数)、自己肯定感(6因子)を独立変数にした重回帰分析(ステップワイズ法)

V 結論

- 1 男子は性的関心が高く、交友関係が少ない。性交渉制御感や生命尊重感が低い。性の知識に加えて性の価値観、態度を養う教育が必要
女子は性に対する不安や悩みが高く、交友関係が多い。性交渉制御感や生命尊重感が高いが性体験者が多い。性の知識と性交時のネゴシエーション教育が必要
- 2 性体験者は中信・南信(女)・東信(男)に多い。北信に15歳以下の性体験者が多い。
人工妊娠中絶や性交渉に対する認識は東信が高い。
小規模町村は性行動が早期化している。逆に人口の多い地域では性行動が遅い。在住地区状況に対応した教育

生命尊重や性交渉制御感と自己肯定意識

生命尊重感 女子>男子

性交渉制御感 2要因分析
性体験なし、女子>性体験あり男子

男女は異なる社会の発達過程を経過するため、男性中心の文化では、妊娠、出産、養育の責任をより強く女性が知覚する
(Miller & Gilligan, 1996)

生命尊重感

自己実現態度↑ 自己閉鎖性・人間不信↓

性交渉制御感

自己実現態度、充実感↓

自己受容、自己表明、対人的積極性↓

自己尊重感が低くトレンの低い青少年は衝動調節能力が低い(Charles & Susan, 1986)

- 3 性体験者は性教育を受けていない傾向にある。
性教育は対象者にとって有効な働きかけであること。

初体験年齢15歳以下の者は性意識が高い。
意識と性行動にギャップがある→再分析必要

- 4 世代が高くなるにつれ、性や性教育への関心、性に対する悩みや不安が高い。
高校の早い段階で性に対する正しい知識、不安や疑問に対応できる学内外の体制がほしい→県内人材、組織の活用とシステム化づくり
進学率の低い高校では、性感染症の認識は高いが、性体験者が多い。自己実現的態度や、充実感を高める教育が重要→教育方法については、介入研究として発展
進学率の高い高校では、性の関心が高く不安や悩みが多い。個別相談体制の充実 教材ビデオの活用 ピア活動

VI 今後の課題

第1段階の分析を終えたところ

様々な角度からの分析が残されている

性の情報源

属性(片親、母親の就労、同姓の兄弟)

15歳未満の性体験者

性行動

家族のコミュニケーションや養育態度、親との関係性、父母の離婚、自尊心と非行

謝辞:本研究を実施するにあたり、ご理解とご協力をいただいた学校長、養護教諭はじめ教育担当者の皆様に感謝申し上げます

Sexual awareness among sexually experienced Japanese adolescents: examination by gender, age at first sexual intercourse, and demographic area of residence

The rate of induced abortion has been rapidly increasing in Japan among adolescents ages 16 and above, suggesting a need for early sex education. This study aimed to elucidate levels of sexual awareness among sexually experienced Japanese adolescents between ages 10 and 19. Between September 2006 and January 2007, a questionnaire survey was distributed to 3,819 male and female adolescents in this age group, and subsequently collected. Of the 2,859 returned responses, statistical analyses were performed with 2,779 valid responses (valid response rate 72.8%) based on gender, age at first sexual intercourse, and demographic area of residence. Results indicated that 1,973 respondents (74.3%) were sexually inexperienced, while 683 (25.7%) were sexually experienced, of which 38.2% were male and 61.8% female. Moreover, 39.0% of sexually experienced adolescents first engaged in sexual intercourse before age 15, 30.6% between ages 15 and 16, and 26.1% at age 17 or above. Results based on demographic area of residence indicated that 41% of sexually experienced adolescents lived in urban areas (population 100,000 or more), 27% in medium urban areas (population between 30,000 and 99,999), and 24% in rural areas (towns and villages with populations less than 30,000). Rural areas had a significantly larger number of adolescents who first had sexual intercourse at an early age. Among sexually experienced adolescents, gender differences in factors influencing peer relationships and sex were observed. Sexual values varied depending on age at first intercourse and area of residence. Many, regardless of gender, requested that sex education be given in elementary or middle school. On the other hand, a significantly large number of sexually experienced adolescents preferred to learn about male/female physiologies, sexual intercourse, and the meaning of sex in life at a later age; this preference was inversely correlated with age at first intercourse.



Sexual awareness among sexually experienced Japanese adolescents

Nagano College of Nursing and Japan
Department of Maternal Nursing and Women's Health

Shimizu Yoshiko
Miwa Matsubara Michiru Miyazawa Satoko Fujihara
Hiroko akahane Shiho matsuura

スライド 1

A bstract

The rapid increase in the number of elective abortions among teenagers in Japan has raised the possibility that earlier sex education may be needed. The purpose of this research was to clarify the characteristics of teenagers who have experienced sexual intercourse. Participants included 2,779 out of 3,819 teenage boys and girls selected from S-Prefecture (72.8%). The questionnaire investigation of sexual concerns and behaviors was conducted from September 2006 through January 2007. Of 683 teenagers with sexual experience, 261 were male (38.2%), and 422 were female (61.8%). Two hundred forty-nine of the teenagers surveyed had their first sexual experience when younger than 15 years old (39.0%), 209 teenagers at the age of 16 (30.6%), and 178 when older than 17 (26.1%). More teenagers in rural areas had experience at an early age, while more in urban areas had concerns about sex. Sexually experienced teenagers showed gender differences in their relationships and factors influencing sexual behavior. In addition, teenagers had different sexual values depending on the age at which they had their first experience.

スライド 2

Introduction

It increases rapidly in Japan in 16-year-old or more young person, and the necessity of the sex education of bringing forward is shown the speed of the induced abortion.

スライド 3

Purpose

This research aimed to clarify the level of sexual recognition sexual in an experienced Japanese young person among 10 and 19 years old.

スライド 4

Method

The questionnaire surveys were distributed by this age group by 3,819 men and woman's young person, and, next, collected during January, 2007 2006 in September. In the response to which 2,859 was returned, a statistical analysis was executed by the valid response of 2,779(effective response rate of 72.8%) based on the area of the character of the dwelling, the age at first sexual intercourse, and the population.

スライド 5

Result

Though 683(25.7%) (38.2% was a man and it was 61.8% woman) that showed that 1,973 respondents (74.3%) were sexual inexperienced was experienced sexual as for the result. Moreover, an experienced young person is 30.6% of 39.0% in 17 years old of the age of 15, 16, and 26.1% the character to have been engaged in sexual intercourse first before at the age of 15. As a result of based on the area of the population of the dwelling, 41% showed that an experienced young person had lived in the character by 24%((town where the population of less than three existed and village) in 27%(a city part (population 100,000 or more) and a medium city part)(population of 30,000-99,999) and rural regions.

スライド 6

Discussion

In rural regions, there were quite a lot of young people who had had sexual intercourse first in childhood.

The gender gap of the element that influenced the peer relationship and sex was observed sexual in an experienced young person. A sexual value was different with depended first in the exchange and the area in the age of the dwelling. The sex education demanded a lot regardless of the character so that it was basic, nature or a junior high school.

Figure 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11

スライド 7

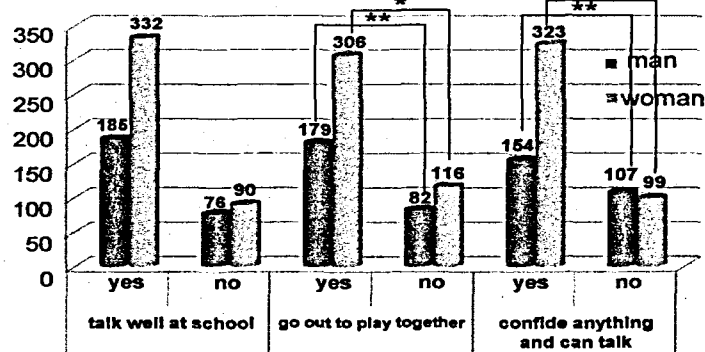
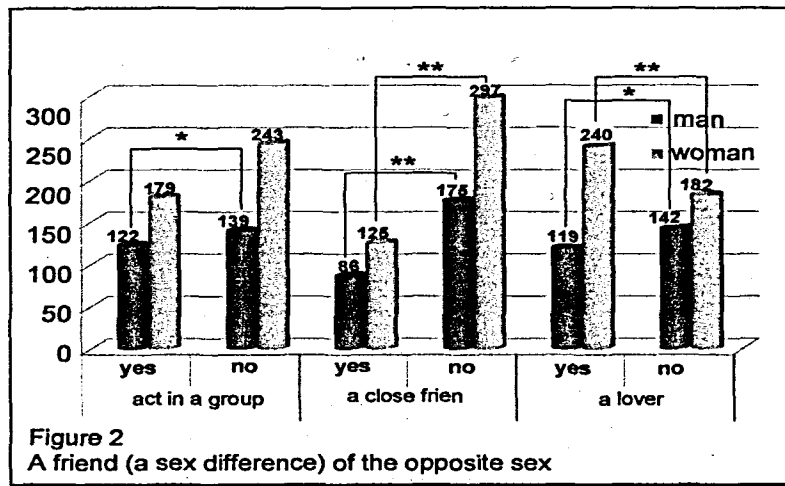


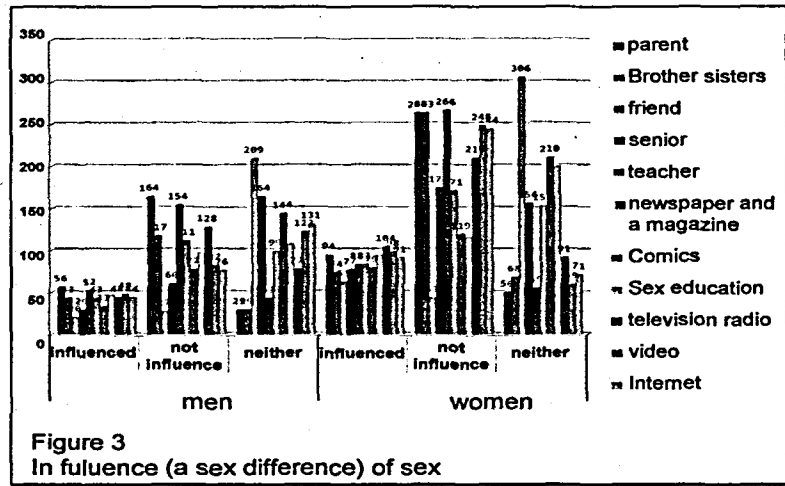
Figure1
A friend (a sex difference) of the same sex

スライド 8

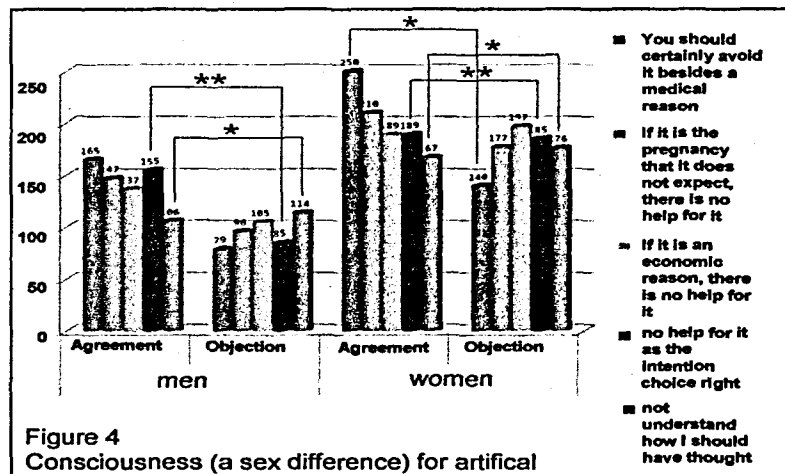
スライド 9



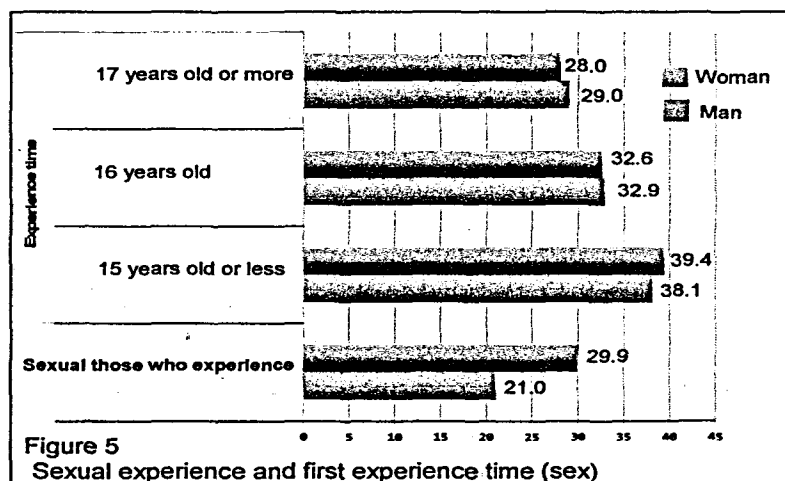
スライド 10

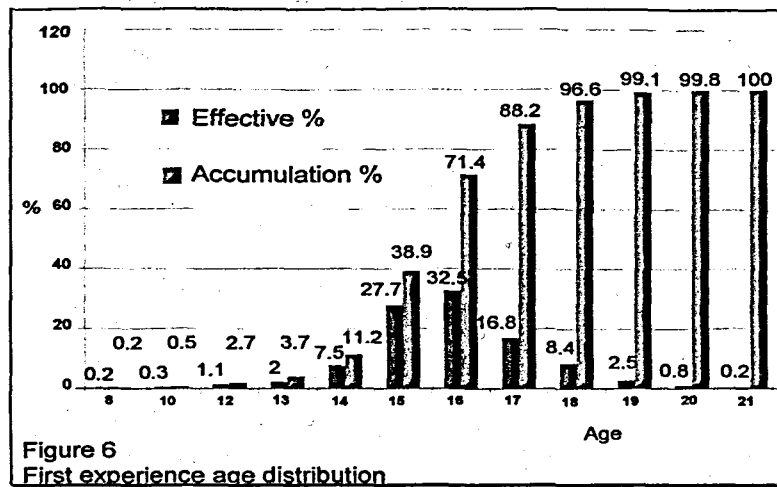


スライド 11

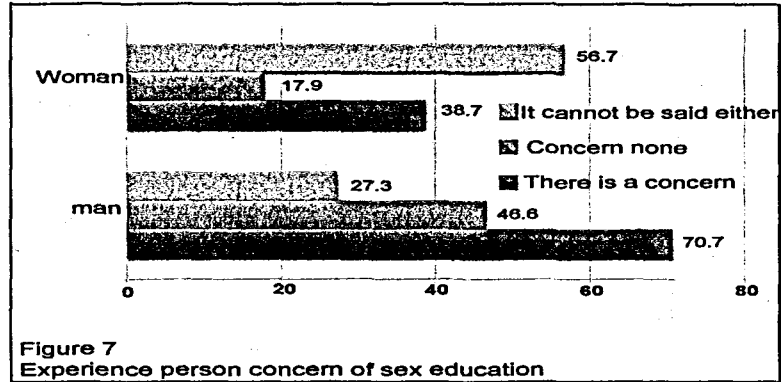


スライド 12

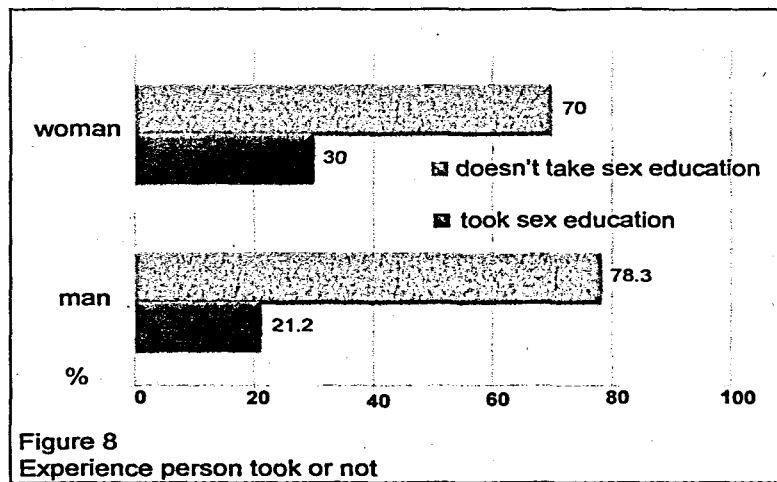




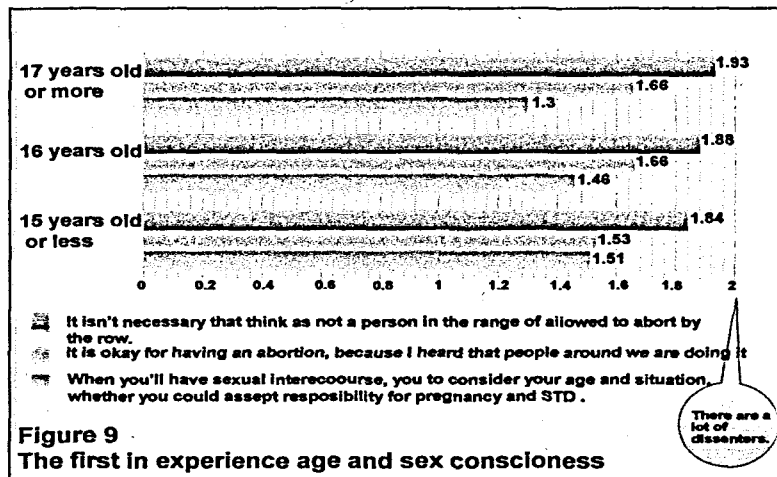
スライド 13



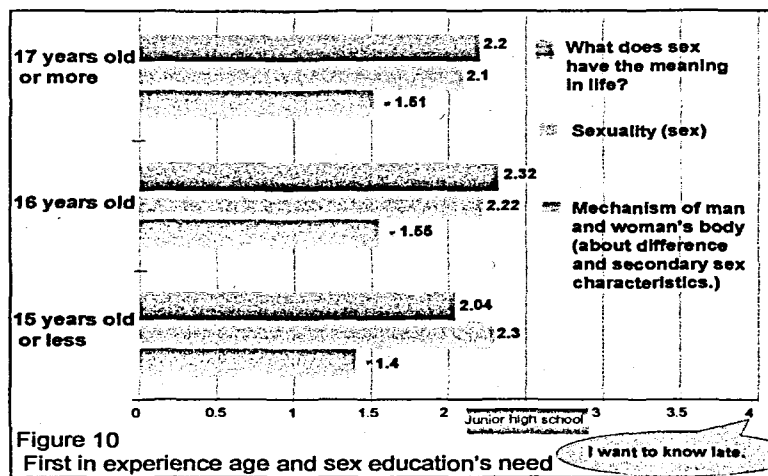
スライド 14



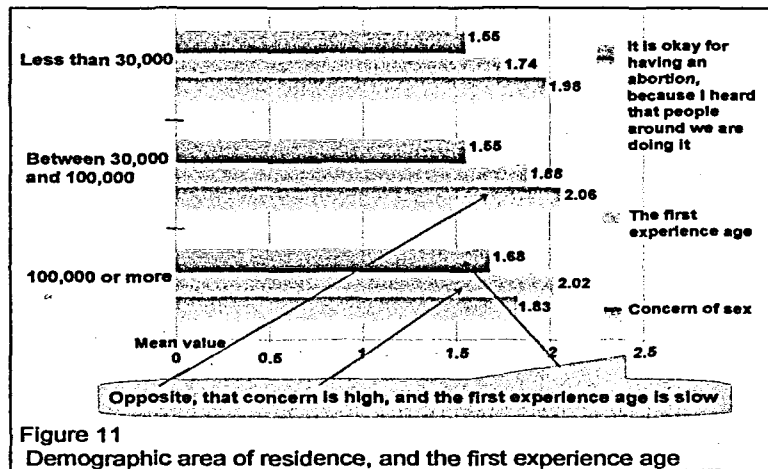
スライド 15



スライド 16



スライド 17



スライド 18

Conclusion

On the other hand, preferred of many quite was done so that an experienced young person may learn sexual intercourse and a physiological of the man or the woman of sex meaning by the life in the character in childhood. This favor related oppositely with the age first in the exchange.

スライド 19

Acknowledgements

I wish to express my gratitude to everyone's principal of the junior high school, the high school in Nagano in which this investigation sincerely cooperated, and the student and the school personnel to whom I am registered.

It notes it. This research was supported by Nagano University to which Research special by 2006-2007 was nursed.

スライド 20